

EX3D42

163

672

福嶋縣知事 小倉信近君題字
福嶋縣書記官 尾越悌輔君題字
福嶋縣警部長 增永正就君序文

福嶋縣第五
撰舉區
公民寶典全

水戸弘文社藏版



羅

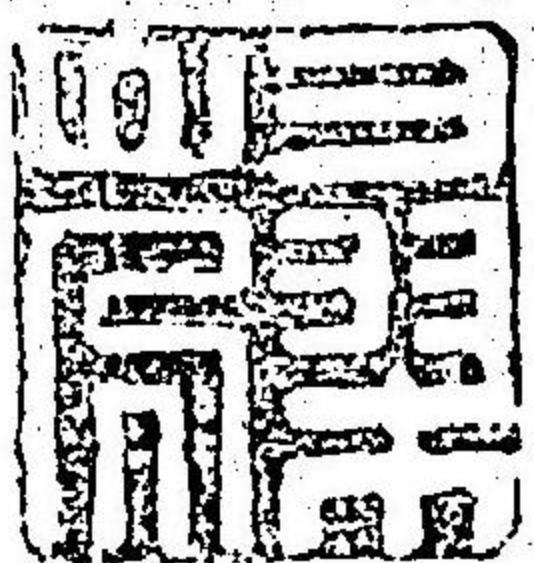


羅



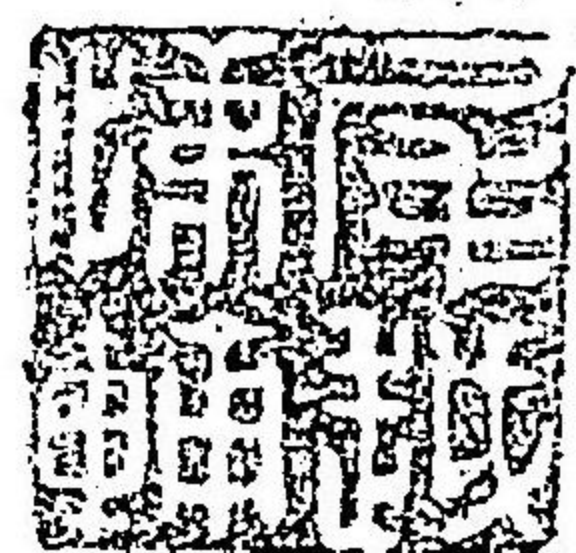
甲午年歲次
在余若此
地也

美人題



今月
夕

神補題



序

頃日横須賀氏編纂公民寶典成ル乃チ予ニ序文ヲ求ム一閱スルニ法令規則中要ヲ摘ミ簡ヲ擇ミタルモノニシテ能ク民間實用ニ適切ナルヲ認ム氏ノ用意思ヲ可キナリ蓋シ此寶典公行ノ日ハ民間ノ至便淺妙ニアラサル可キヲ信ス云爾

明治二十九年七月

增 永 正 就

第一章 詔勅及法令
 一 詔勅
 二 皇室典範
 三 帝國憲法
 四 議院法
 五 衆議院議員選舉法
 六 府縣會議員選舉規則
 七 府縣會議員定數規則
 八 府縣會議員定數ニ關スル人口計算方心得
 九 郡制
 一〇 町村制
 一一 市町村會議員選舉罰則
 一二 議會並ニ議員保護ノ件
 一三 衆議院議員選舉法罰則補則
 一四 地租條例ニ關スル諸規則
 一五 地租條例
 一六 徵兵令
 一七 國民軍條例
 一八 國民兵召集規則
 一九 狩獵規則
 二〇 登錄稅法
 二一 登錄稅法施行細則
 二二 酒造稅法
 二三 家用酒稅法
 二四 混成酒稅法
 二五 沖繩縣酒類出港稅則改正
 二六 營業稅法
 二七 煙草稅則改正
 二八 葉煙草專賣法
 二九 車稅則
 三〇 戶籍法中心得方及改正

目次

第一章

◎第一款 詔勅及法令

◎ 詔勅	一	◎ 地租條例ニ關スル諸規則	一四六
◎ 帝國憲法	三	◎ 地租條例	一四七
◎ 皇室典範	一五	◎ 徵兵令	一五二
◎ 議院法	二二	◎ 國民軍條例	一六一
◎ 衆議院議員選舉法	三七	◎ 國民兵召集規則	一六三
◎ 府縣會議員選舉規則	五六	◎ 狩獵規則	一六七
◎ 府縣會議員定數規則	六五	◎ 登錄稅法	一七四
◎ 府縣會議員定數ニ關スル人口計算方心得	七九	◎ 登錄稅法施行細則	一八四
◎ 郡制	八〇	◎ 酒造稅法	一八五
◎ 町村制	一〇二	◎ 家用酒稅法	一九一
◎ 市町村會議員選舉罰則	一四〇	◎ 混成酒稅法	一九四
◎ 議會並ニ議員保護ノ件	一四四	◎ 沖繩縣酒類出港稅則改正	一九六
◎ 衆議院議員選舉法罰則補則	一四五	◎ 營業稅法	一九七
		◎ 煙草稅則改正	二〇六
		◎ 葉煙草專賣法	二〇七
		◎ 車稅則	二一一
		◎ 戶籍法中心得方及改正	二二三

出生死去出入及寄留者 届出方改正	二一五	石城郡	三八五
戸籍取扱手續	二一六	雙葉郡	三八五
私生子ニ關スル件	二一九	相馬郡	三八六
内外人婚姻ニ關スル件	二二〇	第一章	
民法	二二一	◎第二款	縣知事、郡役所、登記所町 村役場、警察署、裁判所ニ 要スル諸願届書式
◎第二款 雜則		◎出生届	一
◎郵便稅摘要	三六〇	◎結婚人籍届	一
◎小包郵便稅改正	三六一	◎養子女入籍届	一
◎郵便爲替差出方及受取方心得	三六三	◎離婚復籍届	二
◎郵便貯金條例	三六九	◎死亡届	二
◎諸印紙貼用規定	三七三	◎流産届	二
◎聯隊區司令部條例並ニ配置	三七九	◎縁女送籍届	二
◎海軍區鎮守府配置ノ地	三八一	◎養子女ニ關スル件	二
◎内國諸港へノ航海里程	三八二	◎入夫(妻)離婚	二
◎外國有名諸港へノ航海里程	三八三	◎養子女ニ關スル件	二
◎第三款 郡町村長氏名		◎縁女ニ關スル件	二
		◎相續人離縁	二
		◎退隠跡相續届	三

◎亡跡相續届	三	◎寄留者退去届	八
◎分家送籍届	五	◎改名届	八
◎分家入籍届	三	◎廢嫡届	八
◎管内分家届	四	◎廢戶主届	八
◎離婚(縁)復歸ニ付携帶者入籍届	四	◎復姓届	八
◎入夫妻離婚、養子女離縁、相續人離縁ニ付携帶者送籍届	四	◎私生子引受入籍届	九
◎管内結婚届	四	◎後見人届	九
◎管内(離婚)(離縁)届	五	◎印鑑届	九
◎携帶者入籍届	五	◎改印届	〇
◎轉住送籍届	五	◎改肉届	〇
◎轉住入籍届	六	◎代納人届	〇
◎管内縁組届	六	◎徵兵適齡届	〇
◎管内轉住届	六	◎徵兵異動届	一
◎失踪届	六	◎徵兵檢査時期日延届	一
◎失踪者歸復届	七	◎豫備後備下士兵卒歸休兵願届	一
◎入寄留届	七	◎結婚願	二
◎出寄留届	七	◎身元證書	二

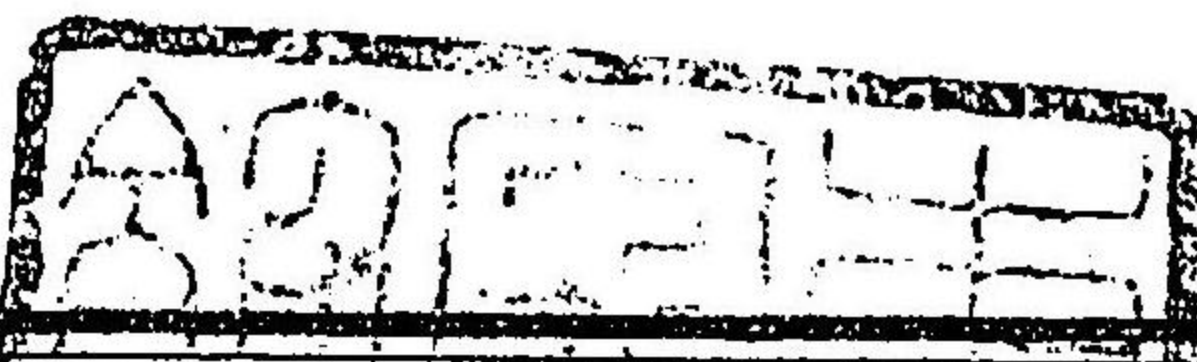
◎婚姻濟屈	一三	◎逃亡失踪屈	一九
◎離婚屈	一三	◎處刑屈	一九
◎勤務演習召集猶豫(簡閱點呼免除)願	一三	◎郡役所及收稅署ニ要スル諸願屈書式	二〇
◎寄留地簡閱點呼及諸召集願	一四	◎地所開墾屈	二〇
◎旅費受領人屈	一四	◎開墾(開拓)鍬下年期明地價修正屈	二一
◎勤務演習召集願	一四	◎拂下(下渡)地屈	二二
◎召集不參加	一五	◎畦畔新設本地減(廢除地增)屈	二三
◎診斷書	一五	◎地目變換屈	二四
◎召集不參屈	一五	◎土地分裂(合併)屈	二七
◎歸鄉屈	一六	◎丈量野取圖調製心得	二八
◎轉住(轉籍)(養子)(相續人)屈	一六	◎官有地拜借願	二九
◎產屈	一七	◎官有森林(原野)拂下願	二九
◎死亡屈	一七	◎立木竹拂下願	三〇
◎復籍屈	一七	◎生草拂下願	三〇
◎寄留(旅行)屈	一八	◎官有原野豫約拂下願	三〇
◎死亡屈	一八	◎地種組替願	三一
◎死亡屈	一九	◎凡例	三一

◎民有地第一種ニ組替ノ例	三三	◎行商鑑札下付願	三六
◎土地臺帳謄本下付願	三三	◎鑑札書換(再渡)願	三七
◎自家用料酒製造屈	三三	◎質屋營業又ハ改名、代替、轉居ノ義	三七
◎自家用料酒廢造屈	三三	◎水車新設ノ義願	三七
◎賣藥請賣願	三三	◎種穀料給與願	三八
◎荷積車檢印願	三三	◎小屋掛料給與願	三八
◎耕作車檢印願	三三	◎入社申込書	三九
◎船舶鑑札下渡願	三四	◎食料給與願	三九
◎解船(解)屈	三四	◎農具料給與願	三九
◎荷積馬車(人力車)(荷積車)讓受渡名義更正願	三四	◎警察署及裁判所ニ要スル諸願屈書式	四〇
◎煙草營業願	三四	◎告訴狀	四〇
◎煙草仕入鑑札下附願	三五	◎診斷書	四一
◎菓子營業願	三五	◎告發狀	四二
◎菓子仕入鑑札下渡願	三五	◎盜難申報書	四二
◎開業屈	三六	◎強盜申報書	四三
◎興行屈	三六	◎人相書	四三
◎移轉(廢業)屈	三六	◎失火申報書	四四

●旅人宿 <small>又ハ下宿屋</small> 營業願	四四	●紛失御届	五一
●飯食店營業願	四五	●得遺物御届	五一
●質屋營業 <small>又ハ取締鑑札御換書</small>	四五	●家出人搜索願	五一
●御下付ノ儀願	四五	●人相書	五二
●古物商營業願	四五	●人力車營業願	五三
●古物商行商ノ儀願	四六	●身元保證金上納書	五三
●演劇 某何々ノ興行願	四六	●人力車轆子届	五三
●銃砲買取手續	四六	●營業者自ラ轆子トナルトキ	五三
●銃砲賣渡證	四七	●鑑札届書式	五三
●獵銃買取届	四七	●廢業届	五四
●銃砲買取願	四八	●轆子解備 <small>又ハ失踪</small>	五四
●彈藥買取願	四八	●碑表建設願	五四
●狩獵免狀下付願	四八	●碑表	五四
●銃砲讓與届	四九	●斃馬御届	五四
●威銃免許願	四九	●瘋癲人届	五五
●被害地反別及植物鳥獸名調書	四九	●診斷書	五五
●實地畧圖	五〇	●變死人届	五六
●遺失物御届	五〇	●檢案書	五六

●始末書	五七	●上告狀	六六
●人殺傷申報書	五七	●答辨書	六七
●貸金支拂命令申請書	五八	◎登記ニ要スル諸願届書式	
●名刺式	五九	●名刺	六八
●仮執行宣言申請書	五九	●改印届	六八
●有体動産差押申請書	五九	●名刺	六八
●不動産仮處分申請書	六〇	●委任狀	六九
●強制強賣申立書	六一	●地所賣渡(讓渡)證	七〇
●濟口届	六一	●名刺	七〇
●和解申立書	六一	●委任狀	七〇
●旅費(日當)(止宿料)請求書	六一	●地所書入(賃入)金圓借用證	七一
●代人願	六二	●名刺	七二
●親族證明願	六二	●委任狀	七二
●委任狀	六三	●名刺	七三
●御請書	六三	●委任狀	七三
●訴狀	六三	●地所變更登記願	七三
●控訴狀	六四	●名刺	七四
●答辨書	六五		

特 16
172



福島縣 第五選舉區 公民寶典

第一章

第一款 詔勅及法令

五箇條ノ御誓文 明治元年三月十四日 布告

御誓文

廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシ
上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フヘシ
官武一途庶民ニ至ル迄各其志ヲ遂ケ人心ヲシテ倦サラシメンコトヲ要ス
舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クヘシ
和誠ヲ世界ヲ求メ大ニ皇基ヲ振起スヘシ
我國未曾有ノ變革ヲ爲サントシ朕躬ヲ以テ衆ニ先ンテ天地神明ニ誓ヒ大ニ斯國是ヲ
定メ萬民保全ノ道ヲ立ントス衆亦此旨趣ニ基キ協心努力セヨ

成辰三月 御諱

勅意宏遠誠ニ以感銘ニ不堪今日ノ急務永世ノ基礎此他ニ出ヘカラス臣等謹テ敍旨ヲ

- ◎死亡及相續證明願 七四
- ◎委任狀 七四
- ◎遺產相續ニ付登記願 七五
- ◎名刺 七五
- ◎退隱跡相續證明願 七五
- ◎委任狀 七五
- ◎名刺 七五

◎第二款 福島縣第五選舉區衆議院議員選舉被選舉權ヲ有スル人名一覽

- ◎石城郡 自一至四三
- ◎雙葉郡 自三四至五五
- ◎相馬郡 自五五至百五

奉體シ死テ誓ヒ繼勉從事冀クハ以ク宸襟ヲ安シ奉ラン

總裁

公卿

立憲政體ヲ立ツル詔勅

明治八年
四月十四日

布告第五十八號

別紙詔書ノ通被仰出候條此旨布告候事

〔別紙〕

朕即位ノ初首トシテ群臣ヲ會シ五事ヲ以テ神明ニ誓ヒ國是ヲ定メ萬民保全ノ道ヲ求ム幸ニ宗祖ノ靈ト群臣ノ力トニ賴リ以テ今日ノ小康ヲ得タリ願コ中興日淺ク内治ノ事當ニ振作更張スヘキ者少シトセス朕今誓文ノ意ヲ擴充シ茲ニ元老院ヲ設ケ以テ立法ノ源ヲ廣メ大審院ヲ置キ以テ審判ノ權ヲ鞏クシ又地方官ヲ召集シ以テ民情ヲ通シ公益ヲ圖リ漸次ニ國家立憲政體ヲ立テ汝衆庶ト俱ニ其慶ニ賴ント欲ス汝衆庶或ハ舊ニ泥ミ故ニ慣ルコト莫ク又或ハ進ムニ輕ク爲スニ急ナルコト莫ク其レ能朕カ旨ヲ體シテ翼贊スル處アレ

明治八年四月十四日

◎國會開設ノ勅諭

朕祖宗二千五百有餘年ノ鴻緒ヲ嗣キ中古紐ヲ解クノ乾綱ヲ振張シ大政ノ統一ヲ總攬

シ又夙ニ立憲ノ政體ヲ建テ後世子孫繼クヘキノ業ヲ爲サンコトヲ期ス嚮ニ明治八年元老院ヲ設ケ十一年ニ府縣會ヲ開カシム此レ皆漸次基ヲ創メ序ニ循テ歩ヲ進ムルノ道ニ由ルニ非サルハ莫シ爾有衆亦朕カ心ヲ諒トセン

願ミルニ立國ノ體國各宜シキヲ殊ニス非常ノ事業實ニ輕舉ニ便ナラス我祖我宗照臨シテ上ニ在リ遺烈ヲ揭ケ洪模ヲ弘メ古今ヲ變通シ斷シテ之ヲ行フ責 朕カ躬ニ在リ將ニ明治二十三年ヲ期シ議員ヲ召シ國會ヲ開キ以テ 朕カ初志ヲ成サントス今在庭臣僚ニ命シ朕スニ時月ヲ以テ經畫ノ責ニ當ラシム其組織權限ニ至テハ 朕親ラ衷ヲ裁シ時ニ反テ公布スル所アラムトス

朕惟フニ人心進ムニ偏シテ時會速ナルヲ競フ浮言相動カシ竟ニ大計ヲ避ル是レ宜シク今ニ及テ謨訓ヲ明徴シ以テ朝野臣民ニ公示スヘシ若シ仍ホ故ヲニ蹕急爭ヒ事變ヲ煽シ國安ヲ害スル者アラハ處スルニ國典ヲ以テスヘシ特ニ茲ニ言明シ爾有衆ニ諭ス奉勅

明治十四年十月十二日

太政大臣 三條實美

◎大日本帝國憲法

(明治二十二年二月十一日)

○憲法發布勅語

朕國家ノ隆昌ト臣民ノ慶福トヲ以テ中心ノ欣榮トシ朕カ祖宗ニ承タルノ大權ニ依リ
 現在及將來ノ臣民ニ對シ此ノ不磨ノ大典ヲ宣布ス
 惟フニ我カ祖我カ宗ハ我カ臣民祖先ノ協力輔翼ニ依リ我カ帝國ヲ肇造シ以テ無窮ニ
 垂レタリ此レ我カ神聖ナル祖宗ノ威徳ト並ニ臣民ノ忠實勇武ニシテ國ヲ愛シ公ニ殉
 ヒ以テ光アル國史ノ成跡ヲ貽シタルナリ朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ
 子孫ナルヲ回想シ其ノ朕カ意ヲ奉躰シ朕カ事ヲ獎勵シ相與ニ和衷協同シ益我カ帝國
 ノ光榮ヲ中外ニ宣揚シ祖宗ノ遺業ヲ永久ニ鞏固ナラシムルノ希望ヲ同シク此ノ負擔
 ナ別ツコト堪フルコトヲ疑ハサルナリ
 朕祖宗ノ遺烈ヲ承ケ萬世一系ノ帝位ヲ踐ミ朕カ親愛スル所ノ臣民ハ即チ朕カ祖宗ノ
 惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ其ノ康福ヲ増進シ其懿徳良能ヲ發達セシム
 コトヲ願ヒ又其ノ翼賛ニ依リ與ニ俱ニ國家ノ進運ヲ扶持セムコトヲ望ミ乃チ明治十
 四年十月十四日ノ詔命ヲ履踐シ茲ニ大憲ヲ制定シ朕カ率由スル所ヲ示シ朕カ後嗣及
 臣民ノ子孫タル者ヲテ永遠ニ履行スル所ヲ知ラシム
 國家統治ノ大權ハ朕カ之ヲ祖宗ニ承ケテ之ヲ子孫ニ傳フル所ナリ朕及朕カ子孫ハ將
 來此ノ憲法ノ條章ニ從ヒ之ヲ行フコトヲ愆テサルヘシ
 朕ハ我カ臣民ノ權利及財産ノ安全ヲ貴重シ及之レヲ保護シ此ノ憲法及法律ノ範圍内
 ニ於テ其ノ享有ヲ安全ナラシムヘキコトヲ宣言ス

帝國議會ハ明治二十三年ヲ以テ之ヲ召集シ議會會開ノ時ヲ以テ此ノ憲法ヲシテ有效
 ナラシムルノ期トスヘシ
 將來若此ノ憲法ノ或ル條章ヲ改定スルノ必要ナル時宜ヲ見ルニ至ラハ朕及朕カ繼統
 ノ子孫ハ發議ノ權ヲ執リ之ヲ議會ニ付シ議會ハ此ノ憲法ニ定メタル要件ニ依リ之ヲ
 議決スルノ外朕カ子孫及臣民ハ敢テ之ヲ紛更テ試ミルコトヲ得サルヘシ
 朕カ在廷ノ大臣ハ朕カ爲ニ此憲法ヲ施行スルノ責ニ任スヘク朕カ現在及將來ノ臣民
 ハ此憲法ニ對シ永遠ニ從順ノ義務ヲ負フヘシ

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

- | | |
|-----------|---------|
| 內閣總理大臣 | 伯爵 黒田清隆 |
| 樞密院議長 | 伯爵 伊藤博文 |
| 外務大臣 | 伯爵 大隈重信 |
| 海軍大臣 | 伯爵 西郷從道 |
| 農商務大臣 | 伯爵 井上馨 |
| 司法大臣 | 伯爵 山田顯義 |
| 大藏大臣兼內務大臣 | 伯爵 松方正義 |
| 陸軍大臣 | 伯爵 大山巖 |
| 文部大臣 | 子爵 森有禮 |

○大日本帝國憲法

第一章 天皇

第一條 大日本帝國ハ萬世一系ノ天皇之ヲ統治ス

第二條 皇位ハ皇室典範ノ定ムル所ニ依リ皇男子孫之ヲ繼承ス

第三條 天皇ハ神聖ニシテ侵スヘカラス

第四條 天皇ハ國ノ元首ニシテ統治權ヲ總攬シ此ノ憲法ノ條規ニ依リ之ヲ行フ

第五條 天皇ハ帝國議會ノ協賛ヲ以テ立法權ヲ行フ

第六條 天皇ハ法律ヲ裁可シ其ノ公布及執行ヲ命ス

第七條 天皇ハ帝國議會ヲ召集シ其ノ開會閉會停會及衆議院ノ解散ヲ命ス

第八條 天皇ハ公共ノ安全ヲ保持シ又ハ其ノ災厄ヲ避クル爲緊急ノ必要ニ由リ帝國議會閉會ノ場合ニ於テ法律ニ代ルヘキ勅令ヲ發ス

此ノ勅令ハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出スヘシ議會ニ於テ承諾セサルトキハ政府ハ將來ニ向テ其ノ効力ヲ失フコトヲ公布スヘシ

第九條 天皇ハ法律ヲ執行スル爲ニ又ハ公共ノ安寧秩序ヲ保持シ及臣民ノ幸福ヲ増進スル爲ニ必要ナル命令ヲ發シ又ハ發セシム但シ命令ヲ以テ法律ヲ變更スルヲ得ス

第十條 天皇ハ行政各部ノ官制及文武官ノ俸給ヲ定メ及文武官ヲ任免ス此ノ但シ憲法又ハ他ノ法律ニ特例ヲ掲ケタルモノハ各其ノ條項ニ依ル

第十一條 天皇ハ陸海軍ヲ統帥ス

第十二條 天皇ハ陸海軍ノ編制及常備兵額ヲ定ム

第十三條 天皇ハ戰宜シ和ヲ講シ及諸般ノ條約ヲ締結ス

第十四條 天皇ハ戒嚴ヲ宣告ス

戒嚴ノ要件及効力ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第十五條 天皇ハ爵位勳章及其他ノ榮典ヲ授與ス

第十六條 天皇ハ大赦特赦減刑及復權ヲ命ス

第十七條 攝政ヲ置クハ皇室典範ノ定ムル所ニ依ル

攝政ハ天皇ノ名ニ於テ大權ヲ行フ

第二章 臣民權利義務

第十八條 日本臣民タルヲ要件ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第十九條 日本臣民ハ法律命令ノ定ムル所ノ資格ニ應ジ均ク文武官ニ任セラレ及其

ノ他ノ公務ニ就コトヲ得

第二十條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ兵役ノ義務ヲ有ス

第二十一條 日本臣民ハ法律ノ定ムル所ニ從ヒ納稅ノ義務ヲ有ス

第二十二條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ居住及移轉ノ自由ヲ有ス

第二十三條 日本臣民ハ法律ニ依ルニ非ズシテ逮捕監禁審問處罰ヲ受クルコトナシ

第二十四條 日本臣民ハ法律ニ定メタル裁判官ノ裁判ヲ受クルノ權ヲ奪ハル、コトナシ

第二十五條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外其ノ許諾ナクシテ住所ニ侵入セラレ及搜索セラル、コトナシ

第二十六條 日本臣民ハ法律ニ定メタル場合ヲ除ク外信書ノ秘密ヲ侵サル、コトナシ

第二十七條 日本臣民ハ其所有權ヲ侵サル、コトナシ

公益ノ爲必要ナル處分ハ法律ノ定ムル所ニ依ル

第二十八條 日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ケス及臣民タルノ義務ニ背カサル限ニ於テ信教ノ自由ヲ有ス

第二十九條 日本臣民ハ法律ノ範圍内ニ於テ言論著作印行集會及結社ノ自由ヲ有ス

第三十條 日本臣民ハ相當ノ敬禮ヲ守リ別ニ定ムル所ノ規程ニ從ヒ請願ヲ爲スコトヲ得

第三十一條 本章ニ掲ケタル條規ハ戰時又ハ國家事變ノ場合ニ於テ天皇大權ノ施行ヲ妨グルコトナシ

第三十二條 本章ニ掲ケタル條規ハ陸海軍ノ法令又ハ紀律ニ抵觸セサルモノニ限り

軍人ニ準行ス

第三章 帝國議會

第三十三條 帝國議會ハ貴族院衆議院兩院ヲ以テ成立ス

第三十四條 貴族院ハ貴族院令ノ定ムル所ニ依リ皇族華族及勅任セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十五條 衆議院ハ撰擧法ノ定ムル所ニ依リ公撰セラレタル議員ヲ以テ組織ス

第三十六條 何人モ同時ニ兩議院ノ議員タルコト得ス

第三十七條 凡テ法律ハ帝國議會ノ協賛ヲ經ルヲ要ス

第三十八條 兩議院ハ政府ノ提出スル法律案ヲ議決シ及各々法律案ヲ提出スルコトヲ得

第三十九條 兩議院ノ一ニ於テ否決シタル法律案ハ同會期中ニ於テ再ヒ提出スルコトヲ得ス

第四十條 兩議院ハ法律又ハ其ノ他ノ事件ニ付各々其ノ意見ヲ政府ニ建議スルコトヲ得

但シ其ノ採納ヲ得サルモノハ同會期中ニ於テ再ヒ建議スルコトヲ得ス

第四十一條 帝國議會ハ毎年之ヲ召集ス

第四十二條 帝國議會ハ三箇月ヲ以テ會期トス必要アル場合ニ於テハ救命ヲ以テ之

ヲ延長スルコトアルヘシ

第四十三條 臨時緊急ノ必要アル場合ニ於テ常會ノ外臨時會ヲ召集スヘシ
臨時會ノ會期ヲ定ムルハ勅命ニ依ル

第四十四條 帝國議會ノ開會閉會會期ノ延長及停會ハ兩院同時ニ之ヲ行フヘシ
衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ貴族院ハ同時ニ停會セラルヘシ

第四十五條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅命ヲ以テ新ニ議員ヲ撰舉セシメ解
散ノ日ヨリ五箇月以内ニ之ヲ召集スヘシ

第四十六條 兩議院ハ各々其ノ總議員三分ノ一以上出席スルコト非サレハ議事ヲ開キ
議決ヲ爲スコトヲ得ス

第四十七條 兩議院ノ議事ハ過半数ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所
ニ依ル

第四十八條 兩議院ノ會議ハ公開ス

但シ政府ノ要求又ハ其院ノ決議ニ依リ秘密會ト爲スコトヲ得

第四十九條 兩議院ハ各々天皇ニ上奏スルコトヲ得

第五十條 兩議院ハ臣民ヨリ呈出スル請願書ヲ受クルコトヲ得

第五十一條 兩議院ハ此ノ憲法及議院法ニ掲グルモノ、外内部ノ整理ニ必要ナル諸
規則ヲ定ムルコトヲ得

第五十二條 兩議院ノ議員ハ議院ニ於テ發言シタル意見及表決ニ付院外ニ於テ責ヲ
負フコトナシ

但シ議員自ラ其ノ言論ヲ演說刊行筆記又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公布シタルトキ
ハ一般ノ法律ニ依リ處分セラルヘシ

第五十三條 兩議院ノ議員ハ現行犯罪又ハ内乱外患ニ關ル罪ヲ除ク外會期中其ノ院
ノ許諾ナクシテ逮捕セラルコトナシ

第五十四條 國務大臣及政府委員ハ何時タリトモ各議院ニ出席シ及發言スルコトヲ
得

第四章 國務大臣及樞密顧問

第五十五條 國務大臣ハ天皇ヲ補弼シ其ノ責ニ任ス

凡テ法律勅令及其ノ他國務ニ關スル詔勅ハ國務大臣ノ副署ヲ要ス

第五十六條 樞密顧問ハ樞密院官制ノ定ムル所ニ依リ天皇ノ諮詢ニ應ヘ重要ノ國務
等ヲ審議ス

第五章 司法

第五十七條 司法權ハ天皇ノ名ニ於テ法律ニ依リ裁判所之ヲ行フ

裁判所ノ構成ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十八條 裁判官ハ法律ニ定メタル資格ヲ具フル者ヲ以テ之ヲ任ス

裁判官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルノ外其職ヲ免セラルハコトナシ
懲戒ノ條規ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第五十九條 裁判ノ對審判決ハ之ヲ公開ス
但シ安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルトキハ法律ニ依リ又ハ裁判所ノ決議ヲ以テ對審ノ公開ヲ停ムルコトヲ得

第六十條 特別裁判ノ管轄ニ屬スヘキモノハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第六十一條 行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セラレタリトスルノ訴訟ニシテ
法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スヘキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニ在ラス

第六章 會計

第六十二條 新ニ租稅ヲ課シ及稅率ヲ變更スルハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
但シ報償ニ屬スル行政上ノ手数料及其ノ他ノ收納金ハ前項ノ限ニ在ラス

國債ヲ起シ及豫算ニ定メタルモノヲ除ク外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スハ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ

第六十三條 現行ノ租稅ハ更ニ法律ヲ以テ之ヲ改メサル限ハ舊ニ依リ之ヲ徵收ス

第六十四條 國家ノ歲出歲入ハ毎年豫算ヲ以テ帝國議會ノ協賛ヲ經ヘシ
豫算ノ款項ニ超過シ又ハ豫算ノ外ニ生シタル支出アルトキハ後日帝國議會ノ承諾

ヲ求ムルヲ要ス

第六十五條 豫算ハ前ニ衆議院ニ提出スヘシ

第六十六條 皇室經費ハ現在ノ定額ニ依リ毎年國庫ヨリ之ヲ支出シ將來増額ヲ要スル場合ヲ除ク外國議會ノ協賛ヲ要セス

第六十七條 憲法上ノ大權ニ基ツケル既定ノ歲出及法律ノ結果ニ由リ又ハ法律上政府ノ義務ニ屬スル歲出ハ政府ノ同意ナクシテ帝國議會之ヲ廢除シ又ハ消滅スルコトヲ得ス

第六十八條 特別ノ須要ニ因リ政府ハ豫メ年限ヲ定メ繼續費トシテ帝國議會ノ協賛ヲ求ムルコトヲ得

第六十九條 避クヘガラサル豫算ノ不足ヲ補フ爲ニ又ハ豫算ノ外ニ生シタル必要ノ費用ニ充ツル爲ニ豫備費ヲ設クヘシ

第七十條 公共ノ安寧ヲ保持スル爲緊急ノ需用アル場合ニ於テ内外ノ情形ニ因リ政府ハ帝國議會ヲ召集スルコト能ハサルトキハ勅令ニ由リ財政上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ次ノ會期ニ於テ帝國議會ニ提出シ其ノ承諾ヲ求ムルヲ要ス
第七十一條 帝國議會ニ於テ豫算ヲ議決セス又ハ豫算成立ニ至ラサルトキハ政府ハ前年度ノ豫算ヲ施行スヘシ

第七十二條 國家ノ歲出歲入ノ決算ハ會計檢査院之ヲ檢査確定シ政府ハ其ノ檢査報告ト俱ニ之ヲ帝國議會ニ提出スヘシ

會計檢査院ノ組織及職權ハ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第七章 補則

第七十三條 將來此ノ憲法ノ條項改正スルノ必要アルトキハ勅命ヲ以テ議案ヲ帝國議會ノ議ニ付スヘシ

此ノ場合ニ於テ兩議院ハ各々其ノ總員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開クコトヲ得ス出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ得ルニ非サレハ改正ノ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第七十四條 皇室典範ノ改正ハ帝國議會ノ議ヲ經ルヲ要セス

皇室典範ヲ以テ此ノ憲法ノ條規ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十五條 憲法及皇室典範ハ攝政ヲ置クノ間之ヲ變更スルコトヲ得ス

第七十六條 法律規則命令又ハ何等ノ名稱ヲ用キタルニ拘ハラズ此ノ憲法ニ矛盾セサル現行ノ法令ハ總テ遵由ノ効力ヲ有ス

歲出上政府ノ義務ニ係ル現在ノ契約又ハ命令ハ總テ第六十七條ノ例ニ依ル

◎皇室典範 (明治二十二年二月十一日)

天佑ヲ享有シタル我カ日本帝國ノ寶祚ハ萬世ニ系歴代繼承シ以テ 朕カ躬ニ至ル惟

ゾニ祖宗肇國ノ初大憲ニタヒ定マリ昭ナルコト日星ノ如シ今ノ時ニ當リ宜ク遺訓ヲ明徴ニシ皇家ノ成典ヲ制立シ以テ丕基ヲ永遠ニ鞏固スヘシ茲ニ樞密顧問ノ諮詢ヲ經皇室典範ヲ裁定シ 朕カ後嗣子孫ヲシテ遵守スル所アラシム

◎皇室典範

第一章 皇位繼承

第一條 大日本帝國皇位ハ祖宗ノ皇統ニシテ男系ノ男子之ヲ繼承ス

第二條 皇位ハ皇長子ニ傳フ

第三條 皇長子在ラサルトキハ皇長孫ニ傳フ皇長子及其子孫皆在ラサルトキハ皇次子及其子孫ニ傳フ以下皆之ニ例ス

第四條 皇子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ嫡出ヲ先ニス皇庶子孫ノ皇位ヲ繼承スルハ皇嫡

子孫皆在ラサルトキニ限ル

第五條 皇子孫皆在ラサルトキハ皇兄弟及其子孫ニ傳フ

第六條 皇子兄弟及其子孫皆在ラサルトキハ皇伯叔父及ヒ其子孫ニ傳フ

第七條 皇伯叔父及其子孫皆在ラサルトキハ其ノ以上ニ於テ最近親ノ皇族ニ傳フ

第八條 皇兄弟以上ハ同等内ニ於テ嫡ヲ先ニシ庶ヲ後ニシ長ヲ先ニシ幼ヲ後ニス

第九條 皇嗣精神若ハ身軀ノ不治ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アルトキハ皇族會議及

樞密顧問ニ諮詢シ前數條ニ依リ繼承ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第二章 踐祚即位

第十條 天皇崩スルトキハ皇嗣即チ踐祚シ祖宗神器ヲ承ク

第十一條 即位ノ禮及大嘗祭ハ京都ニ於テ之ヲ行フ

第十二條 踐祚ハ後元號ヲ建テ一世ノ間ニ再ヒ改メサルコト明治元年ノ定制ニ從フ

第三章 成年立太子

第十三條 天皇及皇太子皇太孫ハ滿十八年ヲ以テ成年トス

第十四條 前條ノ外ノ皇族ハ滿廿年ヲ以テ成年トス

第十五條 儲嗣タル皇子ヲ皇太子トス皇太子在ラサルトキハ儲嗣タル皇孫ヲ皇太孫トス

第四章 敬稱

第十六條 皇后皇太子皇太子ヲ立ツルトキハ詔書ヲ以テ之ヲ公布ス

第五章 敬稱

第十七條 天皇太皇太后皇太后皇孫后ノ敬稱ハ陛下トス

第十八條 皇太子皇太妃子孫太孫皇太孫妃親王妃内親王王妃女王王妃女王ノ敬稱ハ殿下トス

第五章 攝政

第十九條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ攝政ヲ置ク

天皇久キヨルノ故障ニ由リ大政ヲ親ラスルコト能ハサルトキハ皇族會議及樞密顧問ノ議ヲ經テ攝政ヲ置ク

第二十條 攝政ハ成年ニ達シタル皇太子又ハ皇太孫之ニ任ス

第二十一條 皇太子皇太孫在ラサルカ又ハ未タ成年ニ達セサルトキハ左ノ順序ニ依リ攝政ニ任ス

第一 親王及王

第二 皇后

第三 皇太后

第四 太皇太后

第五 内親王及女王

第二十二條 皇族男子ノ攝政ニ任スルハ皇位繼承ノ順序ニ從フ其ノ女子ニ於ケルモ亦之ニ準ス

第二十三條 皇族女子攝政ニ任スルハ其ノ配偶アラサル者ニ限ル

第二十四條 最近親ノ皇族未タ成年ニ達セサルカ又ハ其ノ他ノ事故ニ由リ他ノ皇族攝政ニ任シタルトキハ後來最近親ノ皇族成年ニ達シ又ハ其ノ事故既ニ除クト雖皇太子及皇太孫ニ對スルノ外其ノ任ヲ讓ルコトナシ

第二十五條 攝政又ハ攝政タルヘキ者精神若ハ身軀ノ重患アリ又ハ重大ノ事故アル

トキハ皇族會議及樞密顧問ノ職ヲ經テ其ノ順序ヲ換フルコトヲ得

第六章 太傅

第二十六條 天皇未タ成年ニ達セサルトキハ太傅ヲ置キ保育ヲ掌ラシム
第二十七條 先帝遺命ヲ以テ太傅ヲ任セザリシトキハ攝政ヨリ皇族會議及樞密顧問

ニ諮詢シ之ヲ選任ス

第二十八條 太傅ハ攝政及其ノ子孫之ニ任スルコトヲ得ス

第二十九條 攝政ハ皇族會議及樞密顧問ニ諮詢シタル後ニ非サレハ太傅ヲ退職セシ

ムルコトヲ得ス

第七章 皇族

第二十條 皇族ト稱フルハ太皇太后皇太后皇后皇皇太子皇太子妃皇太孫皇太孫妃親王
親王妃内親王王王妃女王ヲ謂フ

第三十一條 皇子ヨリ皇玄孫ニ至ルマテハ男ヲ親王女ヲ内親王トシテ五世以下ハ男
ヲ女王ヲ王女トス

第三十二條 天皇支系ヨリ入テ大統ヲ承ケルトキハ皇兄弟姉妹ノ王女王タル者ニ特
ニ親王内親王ノ號ヲ宣賜ス

第三十三條 皇族ノ誕生命名婚嫁薨去ハ宮内大臣之ヲ公告ス

第三十四條 皇統譜及前條ニ關ル記録ハ圖書寮ニ於テ尙藏ス

第三十五條 皇族ハ天皇之ヲ監督ス

第三十六條 攝政在任ノ時ハ前條ノ事ヲ攝行ス

第三十七條 皇族男女幼年ニシテ父ナキ者ハ宮内ノ官僚ニ命シ保育ヲ掌ラシム事宜
ニ依リ天皇其ノ父母ノ撰舉セル後見人ヲ認可シ又ハ之ヲ救撰スヘシ

第三十八條 皇族ノ後見人ハ成年以上ノ皇族ニ限ル

第三十九條 皇族ノ婚嫁ハ同族又ハ救旨ニヨリ特ニ認許セラレタル華族ニ限ル

第四十條 皇族ノ婚嫁ハ救許ニ由ル

第四十一條 皇族ノ婚嫁ヲ許可スルノ勅書ハ宮内大臣之ニ副署ス

第四十二條 皇族ハ養子ヲ爲スコトヲ得ス

第四十三條 皇族國疆ノ外ニ旅行セントスルトキハ救許ヲ請フヘシ

第四十四條 皇族女子ノ臣籍ニ嫁シタル者ハ皇族ノ列ニ在ラス但シ特旨ニ依リ仍内

親王女王ノ稱ヲ有セシムルコトアルヘシ

第八章 世傳御料

第四十五條 土地物件ノ世傳御料ト定メタルモノハ分割讓與スルコトヲ得ス

第四十六條 世傳御料ニ編入スル土地物件ハ樞密顧問ニ諮詢シ救書ヲ以テ之ヲ定メ

宮内大臣之ヲ公告ス

第九章 皇室經費

第十九

第四十七條 皇室諸般ノ經費ハ特ニ常額ヲ定メ國庫ヨリ支出セシム

第四十八條 皇室繼費ノ豫算決算檢査及其他ノ規則ハ皇室會計法ノ定ムル所ニ依ル

第十章 皇族訴訟及懲戒

第四十九條 皇族相互ノ民事ノ訴訟ハ敕旨ニ依リ宮内省ニ於テ裁判員ヲ命ジ裁判セ

シメ勅裁ヲ經テ之ヲ執行ス

第五十條 人民ヨリ皇族ニ對スル民事ノ訴訟ハ東京控訴院ニ於テ之ヲ裁判ス但シ皇

族ハ代人ヲ以テ訴訟ニ當ラシメ自ラ出ルヲ要セス

第五十一條 皇族ハ勅許ヲ得ルニ非サレハ拘引シ又ハ裁判所ニ召喚スルコトヲ得ス

第五十二條 皇族其ノ品位ヲ辱ムルノ所行アリ又ハ皇族ニ對シ忠順ヲ缺クトキハ勅

旨ヲ以テ之ヲ懲戒シ其ノ重キ者ハ皇族特權ノ一部又ハ全部ヲ停止シ若クハ剝奪ス

ヘシ

第五十三條 皇族湯産ノ所行アルトキハ特旨ヲ以テ治産ノ禁ヲ宣告シ其ノ管財者ヲ

任スヘシ

第五十四條 前二條ハ皇族會議ニ諮詢シタル後之ヲ勅裁ス

第十一章 皇族會議

第五十五條 皇族會議ハ成年以上ノ皇族男子ヲ以テ組織シ内大臣樞密院議長宮内大

臣司法大臣大審院長ヲ以テ參列セシム

第五十六條 天皇ハ皇族會議ニ親臨シ又ハ皇族中ノ一員ニ命ジテ議長タラシム

第十二章 補則

第五十七條 現在ノ皇族五世以下親王ノ號ヲ宣賜シタル者ハ舊ニ依ル

第五十八條 皇位繼承ノ順序ハ總テ實系ニ依ル現在皇養子皇猶子又ハ他ノ繼承タル

ハ故ヲ以テ之ヲ混スルコトナシ

第五十九條 親王内親王女王ノ品位ハ之ヲ廢ス

第六十條 親王ノ家格及其ノ他此ノ典範ニ牴觸スル例規ハ總テ之ヲ廢ス

第六十一條 皇族財産歳費及諸規則ハ別ニ之ヲ定ムヘシ

第六十二條 將來此ノ典範ノ條項ヲ改正シ又ハ増補スヘキノ必要アルニ當テハ皇族

會議及樞密顧問ニ諮詢シテ之ヲ敕定スヘシ

◎議院法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ議院法ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ貴族院及衆議院成立

ノ日ヨリ各々本法ニ依リ施行スヘキコトヲ命ス

明治二十二年三月十一日

- 内閣總理大臣 伯爵 黑田清隆
- 樞密院議長 伯爵 伊藤博文
- 外務大臣 伯爵 大隈重信

海軍大臣	伯爵西鄉從道
農商務大臣	伯爵井上馨
司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣兼內務大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山正藏
文部大臣	子爵森有禮
逓信大臣	子爵榎本武揚

○議院法

第一章 帝國議會ノ召集成立及開會

第一條 帝國議會召集ノ敕諭ハ集會ノ期日ヲ定メ少クトモ四十日前ニ之ヲ發布スヘシ

第二條 議員ハ召集ノ勅諭ニ指定シタル期日ニ於テ各議院ノ會堂ニ集會スヘシ

第三條 衆議院ノ議長副議長ハ其ノ院ニ於テ各々三名ノ候補者ヲ撰舉セシメ其ノ中ヨリ之ヲ勅任スヘシ

議長副議長ノ勅任セラルルマテハ書記官長議長ノ職ヲ行フヘシ

第四條 各議院ハ抽籤法ニ依リ總議員ヲ數部ニ分割シ每部々長一名ヲ部員中ニ於テ互撰スヘシ

第五條 兩議院成立シタル後勅命ヲ以テ帝國議會開會ノ日ヲ定メ兩院議員ヲ貴族院ニ會合セシメ開院式ヲ行フヘシ

第六條 前條ノ場合ニ於テ貴族院議長ハ議長ノ職務ヲ行フヘシ

第二章 議長書記官及經費

第七條 各議院ノ議長ハ各々一員トス

第八條 衆議院ノ議長副議長ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル

第九條 衆議院ノ議長副議長辭職又ハ其ノ他ノ事故ニ依リ闕位トナリタルトキハ繼任者ノ任期ハ仍前任者ノ任期ニ依ル

第十條 各議院ノ議長ハ其ノ職事ノ秩序ヲ保持シ職事ヲ整理シ院外ニ對シ議院ヲ代表ス

第十一條 議長ハ議會開會ノ間ニ於テ仍其ノ議院ノ事務ヲ指揮ス

第十二條 議長ハ常任委員會及特別委員會ニ臨席シ發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ預カラス

第十三條 議院ニ於テ議長故障アルトキハ副議長之ヲ代理ス

第十四條 各議院ニ於テ議長副議長俱ニ故障アルトキハ假議長ヲ撰舉シ議長ノ職務ヲ行ハシムヘシ

第十五條 各議院ノ議長副議長ハ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ敕任セラルルマテハ

仍其ノ職務ヲ繼續スヘシ

第十六條 各議院ニ書記官長一人書記官數人ヲ置ク

書記官長ハ敕任トシ書記官ハ奏任トス

第十七條 書記官長ハ議長ノ指揮ニ依リ書記官ノ事務ヲ提理シ公文ニ署名ス

書記官ハ議事録及其ノ他ノ文書案ヲ作り事務ヲ掌理ス

書記官ノ外他ノ必要ナル職員ハ書記官長之ヲ任ス

第十八條 兩議院ノ經費ハ國庫ヨリ之ヲ支出ス

第三章 議長副議長及議員歳費

第十九條 各議院ノ議長ハ歳費トシテ四千圓副議長ハ二千圓貴族院ノ被撰及敕任議

員及衆議院ノ議員ハ八百圓ヲ受ケ別ニ定ムル所ノ規則ニ從ヒ旅費ヲ受ク

但シ召集ニ應ゼサル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

議長副議長及議員ハ歳費ヲ辭スルコトヲ得ス

官吏ニシテ議員タル者ハ歳費ヲ受ケルコトヲ得ス

第二十五條ノ場合ニ於テハ第一項歳費ノ外議院ノ定ムル所ニ依リ一日五圓ヨリ多

カラサル手當ヲ受ケル

第四章 委員

第二十條 各議院ノ委員ハ全院委員常任委員及特別委員ノ三種トス

全院委員ハ議院ノ全員ヲ以テ委員ト爲スモノトス

常任委員ハ事務ノ必要ニ依リ之ヲ數科ニ分割シ負擔ノ事件ヲ審査スル爲ニ各部ニ

於テ同數ノ委員ヲ總議員中ヨリ撰舉シ一會期中其ノ任ニ在ルモノトス

特別委員ハ一事件ヲ審査スル爲ニ議院ノ撰舉ヲ以テ特ニ付託ヲ受クルモノトス

第二十一條 全院委員長ハ一會期コトニ開會ノ始ニ於テ之ヲ撰舉ス

常任委員長及特別委員長ハ各委員會ニ於テ之ヲ互撰ス

第二十二條 全院委員長ハ議院三分ノ一以上常任委員會及特別委員會ハ其ノ委員半

數以上出席スルニ非サレハ議事ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

第二十三條 常任委員及特別委員會ハ委員ノ外傍聽ヲ禁ス

但シ委員會ノ決議ニ由リ議員ノ傍聽ヲ禁スルコトヲ得

第二十四條 各委員長ハ委員會ノ經過及結果ヲ議院ニ報告スヘシ

第二十五條 各議院ハ政府ノ要求ニ依リ又ハ其ノ同意ヲ經テ議會閉會ノ間委員ヲシ

テ議會ノ審査ヲ繼續セシムルコトヲ得

第五章 會議

第二十六條 各議院ノ議長ハ議事日程ヲ定メテ之ヲ議院ニ報告ス

議事日程ハ政府ヨリ提出シタル議案ヲ先ニスヘシ

但シ他ノ議事緊急ノ場合ニ於テ政府ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

第二十七條 法律案ハ三讀會ヲ經テ之ヲ議決スヘシ、但シ政府ノ要求若シ議員十人以上ノ要求ニ由リ議院ニ於テ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ可決シタルトキハ三讀會ノ順序ヲ省略スルコトヲ得

第二十八條 政府ヨリ提出シタル議案ハ委員ノ審査ヲ經スシテ之ヲ議決スルコトヲ得、但シ緊急ノ場合ニ於テ政府ノ要求ニ由ルモノハ此限ニ在ラス

第二十九條 凡テ議案ヲ發議シ及議院ノ會議ニ於テ議案ニ對シ修正ノ動議ヲ發スルモノハ二十人以上ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第三十條 政府ハ何時タリトモ既ニ提出シタル議案ヲ修正シ又ハ撤回スルコトヲ得

第三十一條 凡テ議案ハ最後ニ議決シタル議院ノ議長ヨリ國務大臣ヲ經由シテ之ヲ奏上スヘシ

但シ兩議院ノ一ニ於テ提出シタル議案ニシテ他ノ議院ニ於テ否決シタルトキハ第五十四條第二項ノ規定ニ由ル

第三十二條 兩議院ノ議決ヲ經テ奏上シタル議案ニシテ裁可セラルモノハ次ノ會期ヤテニ公布セラルヘシ

第六章 停會閉會

第三十三條 政府ハ何時タリトモ十五日以内ニ於テ議院ノ停會ヲ命スルコトヲ得、議院停會ノ後再ヒ開會シタルトキハ前會ノ議事ヲ繼續スヘシ

第三十四條 衆議院ハ解散ニ依リ貴族院ニ停會ヲ命シタル場合ニ於テハ前條第二項ノ例ニ依ラス

第三十五條 帝國議會閉會ノ場合ニ於テ議案建議請願ノ議決ニ至ラザルモノハ後會ニ繼續セス

但シ第二十五條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第三十六條 閉會ハ敕命ニ由リ兩議院合會ニ於テ之ヲ舉行スヘシ

第七章 秘密會議

第三十七條 各議院ノ會議ハ左ノ場合ニ於テ公開會ヲ停ムルコトヲ得

一 議長又ハ議員十人以上ノ發議ニ由リ議院之ヲ可決シタルトキ

二 政府ヨリ要求ヲ受ケタルトキ

第三十八條 議長又ハ議員十人以上ヨリ秘密會議ヲ發議シタルトキハ議長ハ直ニ傍聽人ヲ退去セシメ討論ヲ用ヒスルコトヲ可決シテ取ルヘシ

第三十九條 秘密會議ハ刊行スルヲ許サズ

第八章 豫算案ノ議定

第四十條 政府ヨリ豫算案ヲ衆議院ニ提出シタルトキハ豫算委員ハ其ノ院ニ於テ受取リタル日ヨリ十五日以内ニ審査ヲ終リ議院ニ報告スヘシ

第四十一條 豫算案ニ就キ議院ノ會議ニ於テ修正ノ動議ヲ發スルモノハ三十人以上

ノ賛成アルニ非サレハ議題ト爲スコトヲ得ス

第九章 國務大臣及政府委員

第四十二條 國務大臣及政府委員ノ發言ハ何時タリトモ之ヲ許スヘシ
但シ之カ爲ニ議員ノ演説ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第四十三條 議院ニ於テ議案ヲ委員ニ付シタルトキハ國務大臣及政府委員ハ何時タ
リトモ委員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第四十四條 委員會ハ議長ヲ經由シテ政府委員ノ説明ヲ求ムルコトヲ得

第四十五條 國務大臣及政府委員ハ議員タル者ヲ除ク外議院ノ會議ニ於テ表決ノ數
ニ預カラス

第四十六條 常任委員會又ハ特別委員會ヲ開クトキハ每會委員長ヨリ其ノ主任ノ國
務大臣及政府委員ニ報知スヘシ

第四十七條 議事日程及議事ニ關ル報告ハ議員ニ分配スルト同時ニ之ヲ國務大臣及
政府委員ニ送付スヘシ

第十章 質問
第四十八條 兩議院ノ議員政府ニ對シ質問ヲ爲サムトスルトキハ三十人以上ノ賛成
アルヲ要ス

質問ハ簡明ナル主意書ヲ作り賛成者ト共ニ連署シテ之ヲ議長ニ提出スヘシ

第四十九條 質問主意書ハ議長之ヲ政府ニ轉送シ國務大臣ハ直ニ答辨ヲ爲シ又ハ答
辨ノヘキ期日ヲ定メ若シ答辨ヲ爲ササルトキハ其ノ理由ヲ明示スヘシ
第五十條 國務大臣ノ答辨ヲ得又ハ答辨ヲ得サルトキハ質問ノ事件ニ付議員ハ建議
ノ動議ヲ爲スコトヲ得

第十一章 上奏及建議
第五十一條 各議院上奏セムトスルトキハ文書ヲ奉呈シ又ハ議長ヲ以テ總代トシ謁
見ヲ請ヒ之ヲ奉呈スルコトヲ得

各議院ノ建議ハ文書ヲ以テ政府ニ呈出スヘシ
第五十二條 各議院ニ於テ上奏又ハ建議ノ動議ハ三十人以上ノ賛成アルニ非サレハ
議題ト爲スコトヲ得ス

第十二章 兩議院關係
第五十三條 豫算ヲ除ク外政府ノ議案ヲ付スルハ兩議院ノ内何レヲ先ニスルモ便
宜ニ依ル

第五十四條 甲議院ニ於テ政府ノ議案ヲ可決シ又ハ修正シテ議決シタルトキハ乙議
院ニ之ヲ移スヘシ乙議院ニ於テ甲議院ノ議決ニ同意シ又ハ否決シタルトキハ之ヲ
奏上スルト同時ニ甲議院ニ通知スヘシ
乙議院ニ於テ甲議院ノ提出シタル議案ヲ否決シタルトキハ之ヲ甲議院ニ通知スヘシ

第五十五條 乙議院ニ於テ甲議院ヨリ移シタル議案ニ對シ之ヲ修正シタルトキハ之ヲ甲議院ニ回付スヘシ甲議院ニ於テ乙議院ヲ修正シ同意シタルトキハ之ヲ奏上スルト同時ニ乙議院ニ通知スヘシ若シ同意セザルトキハ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムヘシ甲議院ヨリ協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ乙議院ハ之ヲ拒ムコトヲ得

第五十六條 兩院協議會ハ兩議院ヨリ各々十人以下同數ノ委員ヲ撰舉シ會同セシム委員ノ協議案成立スルトキハ議案ヲ政府ヨリ受取り又ハ提出シタル甲議院ニ於テ先ツ之ヲ議シ次ニ乙議院ニ移スヘシ

第五十七條 國務大臣政府委員及各議院ノ議長ハ何時タリトモ兩院協議會ニ出席シテ意見ヲ述ブコトヲ得

第五十八條 兩院協議會ハ傍聽ヲ許サス

第五十九條 兩院協議會ニ於テ可否ノ決ヲ取ルハ無名投票ヲ用キ可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第六十條 兩院協議會ノ議長ハ兩議院協議委員ニ於テ各々一員ヲ互撰シ每會更代シテ席ニ當ラシムヘシ其ノ初會ニ於テハ議長ハ抽籤法ヲ以テ之ヲ決定ス

第六十二條 本章ニ定ムル所ノ外兩議院交渉事務ノ規程ハ其協議ニ依リ之ヲ定ム

第十三章 請願

第六十三條 各議院ニ提出スル人民ノ請願書ハ議員ノ紹介ニ依リ議院之ヲ受取ルヘシ

第六十三條 請願書ハ各議院ニ於テ請願委員ニ付シ之ヲ審査セシム

請願委員請願書ヲ以テ規程ニ合ハスヲ認ムルトキハ議長ハ紹介ノ議員ヲ經テ之ヲ却下ス

第六十四條 請願委員ハ請願文書表ヲ作り其ノ要領ヲ錄シ毎週一回議院ニ報告スヘシ

請願委員特別ノ報告ニ依リ此要求又ハ議員三十人以上ノ要求アルトキハ各議院ハ其ノ請願事件ヲ會議ニ付ス

第六十五條 各議院ニ於テ請願ヲ採擇スヘキコトヲ議決シタルトキハ意見書ヲ附シ其ノ請願書ヲ政府ニ送付シ事宜ニ依リ報告ヲ求ムルコトヲ得

第六十六條 法律ニ依リ法人ヲ認テラズル者ヲ除外總代ノ名義ヲ以テスル請願ハ各議院之ヲ受クルコトヲ得

第六十七條 各議院ハ憲法ヲ變更スルヲ請願ハ受クルコトヲ得

第六十八條 請願書ハ總テ哀願ノ體式ヲ用フヘシ若請願ノ名義ニ依ラズ若ハ其ノ體ニ違フモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第六十九條 請願書ニシテ皇室ニ對シ不敬ノ語ヲ用キ政府又ハ議院ニ對シ侮辱ノ式語ヲ用キタルモノハ各議院之ヲ受クルコトヲ得ス

第七十條 各議院ハ司法及行政裁判ニ干預スルノ請願ヲ受クルコトヲ得ス

第七十一條 各議院ハ各別ニ請願ヲ受ケ互ニ相干預セス

第十四章 議院ト人民及官廳地方議會トノ關係

第七十二條 各議院ハ人民ニ向テ告示ヲ發スルコトヲ得ス

第七十三條 各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス

第七十四條 各議院ヨリ審査ノ爲ニ政府ニ向テ必要ナル報告又ハ文書ヲ求ムルトキハ政府ハ秘密ニ涉タルモノヲ除ク外其求ニ應スヘシ

第七十五條 各議院ハ國務大臣及政府委員ノ外他ノ官廳及地方議會ニ向テ照會往復スルコトヲ得ス

第十五章 退職及議員資格ノ異議

第七十六條 衆議院ノ議員ニシテ貴族院議員ニ任セラレ又ハ法律ニ依リ議員タルコトヲ得サル職務ニ任セラルトキハ退職者トス

第七十七條 衆議院ノ議員ニシテ撰擧法ニ記載シタル被撰ノ資格ヲ失ヒタルトキハ

退職者トス

第七十八條 衆議院ニ於テ議員ノ資格ニ付異議ヲ生シタルトキハ特ニ委員ヲ設ケ時日ヲ期シテ之ヲ審査セシメ其ノ報告ヲ待テ之ヲ議決スヘシ

第七十九條 裁判所ニ於テ當選訴訟ノ裁判手續ヲ爲シタルモノハ衆議院ニ於テ同一事件ニ付審査スルコトヲ得ス

第八十條 議員其ノ資格ナキコトヲ證明セラルニ至ルマテハ議院ニ於テ位列及發言ノ權ヲ失ハズ

但シ自身ノ資格審査ニ關ル會議ニ對シテハ辨スルコトヲ得ルモ其ノ表決ニ預カルコトヲ得ス

第十六章 請暇辭職及補闕

第八十一條 各議院ノ議長ハ一週間ニ超エサル議員ノ請暇ヲ許可スルコトヲ得其一週間ヲ超エサルモノハ議院ニ於テ之ヲ許可ス期限ヲキモノハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

第八十二條 各議院ノ議員ハ正當ノ理由ヲ以テ議長ニ届出スシテ會議又ハ委員會ニ闕席スルコトヲ得ス

第八十三條 衆議院ハ議員ノ辭職ヲ許可スルコトヲ得

第八十四條 何等ノ事由ニ拘ラス衆議院議員ニ闕員ヲ生シタルトキハ議長ヨリ内務

大臣ニ通牒シ補闕撰擧ヲ求ムヘシ

第十七章 紀律及警察

第八十五條 各議院開會中其ノ紀律ヲ保持セムカ爲内部警察ノ權ハ此法律及各議院ニ於テ定ムル所ノ規則ニ從ヒ議長之ヲ施行ス

第八十六條 各議院ニ於テ要スル所ノ警察官吏ハ政府之ヲ派出シ議長ノ指揮ヲ受ケシム

第八十七條 會議中議員此ノ法律若ハ議事規則ニ違ヒ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ルトキハ議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムルコトヲ得

第八十八條 議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

第八十九條 傍聽ハ議場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合ニ於テハ之ヲ警察官廳ニ引渡サシムルコトヲ得

傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第九十條 議場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ國務大臣政府委員及議員ハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得

第九十一條 各議院ニ於テ皇室ニ對シ不敬ノ言語論說ヲ爲スコトヲ得ス

第九十二條 各議院ニ於テ無禮ノ語ヲ用ヒルコトヲ得ス及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス

第九十三條 議院又ハ委員會ニ於テ誹毀侮辱ヲ被リタル議員ハ之ヲ議院ニ訴ヘテ處分ヲ求ムヘシ私ニ相報復スルコトヲ得ス

第十八章 懲罰

第九十四條 各議院ハ其ノ議員ニ對シ懲罰ノ權ヲ有ス

第九十五條 各議院ニ於テ懲罰事犯ヲ審査スル爲ニ懲罰委員ヲ設ク懲罰事犯アルトキハ議長ハ先ツ之ヲ委員ニ付シ審査セシメ議院ノ議ヲ經テ之ヲ宣告ス

各委員會又ハ各部ニ於テ懲罰事犯アルトキハ委員長又ハ部長ハ之ヲ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

第九十六條 懲罰ハ左ノ如シ

一 公開シタル議場ニ於テ譴責ス

二 公開シタル議場ニ於テ適當ノ謝辭ヲ表セシム

三 一定ノ時間出席ヲ停止ス

四 除名

衆議院ニ於テ除名ハ出席議員三分ノ二以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決スヘシ
第九十七條 衆議院ハ除名ノ議員再撰ニ當ル者ヲ拒ムコトヲ得ス

第九十八條 議員ハ二十人以上ノ賛成ヲ以テ懲罰ノ動議ヲ爲スコトヲ得
懲罰ノ動議ハ事犯アリシ後三日以内ニ之ヲ爲スヘシ

第九十九條 議員正當ノ理由ナクシテ勅諭ニ指定シタル期日後一週間内ニ召集ニ應
セサルニ由リ又ハ正當ノ理由ナクシテ會議又ハ委員會ニ出席スルニ由リ若ハ請暇
ノ期限ヲ過キタルニ由リ議長ヨリ特ニ招狀ヲ發シ其ノ招狀ヲ受ケタル後一週間内
ニ仍故ナク出席セサル者ハ貴族院ニ於テハ其ノ出席ヲ停止シ上奏シテ勅裁ヲ請フ
ヘク衆議院ニ於テハ之ヲ除名スヘシ

◎衆議院議員選舉法

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ衆議院議員選舉法及附録ヲ裁可シ之ヲ公布セシメ併セテ帝
國議會ヲ召集スルノ年ヨリ本法ニ依リ選舉ヲ施行セシムヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十二年二月十一日

内閣總理大臣 伯爵 黒田清隆
樞密院議長 伯爵 伊藤博文
外務大臣 伯爵 大隈重信
海軍大臣 伯爵 西郷從道

農商務大臣 伯爵 井上馨
司法大臣 伯爵 山田顯義
大藏大臣兼內務大臣 伯爵 松方正義
陸軍大臣 伯爵 大山久
文部大臣 子爵 森有禮
逓信大臣 子爵 榎本武揚

法律第三號

◎衆議院議員選舉法

第一章 選舉區畫

第一條 衆議院ノ議員ハ各府縣ノ選舉區ニ於テ之ヲ選舉セシム其ノ選舉區及各選舉
區ニ於テ選舉スヘキ定員ハ此ノ法律ニ附録ヲ以テ之ヲ定ム

第二條 府縣知事ハ其ノ府縣ノ選舉區ノ選舉ヲ監督ス

一 選舉區ノ選舉ハ郡長又ハ市長其ノ選舉長トシテ之ヲ管理ス

第三條 一 選舉區ニシテ數郡市ニ涉ルトキハ府縣知事ハ其ノ郡長又ハ市長ノ一人ヲ
命シ選舉長トシムヘシ

第四條 一 市ノ域内ニ於テ數選舉區アルトキハ府縣知事ハ區長ヲシテ其ノ選舉長ト
シムヘシ

第五條 選舉ニ關ル費用ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 撰舉人ノ資格

第六條 撰舉人ハ左ノ資格ヲ備フルコトヲ要ス

第一 日本臣民ノ男子ニシテ年齡二十五歲以上ノ者

第二 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ本籍ヲ定メ住居

シ仍引續キ住居スル者

第三 撰舉人名簿調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ府縣内ニ於テ直接國稅十五圓

以上ヲ納メ仍引續キ納ムル者

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續

キ納ムル者ニ限ル

第七條 家督ニ由リ財產ヲ相續シタル者ハ其ノ財產ニ付前財產主ノ納稅額ヲ以テ其

ノ納稅資格ニ算入ス

第三章 被撰舉人ノ資格

第八條 被撰舉人タルコトヲ得ル者ハ日本臣民ノ男子滿三十歲以上ニシテ撰舉人名簿

調製ノ期日ヨリ前滿一年以上其ノ撰舉府縣内ニ於テ直接國稅十五圓以上ヲ納メ仍

引續キ納ムル者タルヘシ

但シ所得稅ニ付テハ人名簿調製ノ期日ヨリ前滿三年以上之ヲ納メ仍引續キ納ム

ル者ニ限ル

第九條 宮内官裁判官會計檢査官收稅官及警察官ハ被撰舉人タルコトヲ得ス

前項ノ外ノ官吏ハ其ノ職務ニ妨ケサル限、議員ト相兼ヌルコトヲ得

第十條 府縣及郡ノ官吏ハ其ノ管轄區域内ニ於テ被撰舉人タルコトヲ得ス

第十一條 撰舉ノ管理ニ關係スル市町村ノ吏員ハ其ノ撰舉區ニ於テ被撰舉人タルコト

ヲ得ス

第十二條 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師ハ被撰舉人タルコトヲ得ス

第十三條 府縣會ノ議員ニシテ衆議院ノ議員ニ撰舉セラレ當撰ヲ承諾シタルトキハ

其ノ前職ヲ辭スヘキモノトス

第四章 撰舉人及被撰舉人ニ通スル規定

第十四條 左ノ項ノ一ニ觸ル、者ハ撰舉人及被撰舉人タルコトヲ得ス

一 瘋癲白癡ノ者

二 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ義務ヲ免レサル者

三 公權ヲ剝奪セラレタルモノ又ハ停止中ノ者

四 禁錮ノ刑ニ處セラレ滿期後滿三年ヲ經サル者

五 舊法ニ依リ一年以上ノ懲役若ハ國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期ノ後又ハ赦免

ノ後滿三年ヲ經サル者

六 賭博犯ニ由リ處刑ヲ受ケ滿期ノ後又ハ赦免ノ後滿三年ヲ經サル者

七 撰舉ニ關ル犯罪ニ由リ撰舉權及被撰舉權ヲ停止中ノ者

第十五條 陸海軍軍人ハ現役中撰舉權ヲ行フコトヲ得ス其被撰舉人タルコトヲ得ス其
ノ休職停職ニアル者亦同シ

第十六條 華族ニ當主及眾議院議員ノ撰舉及被撰舉人タルコトヲ得ス

第十七條 刑事ノ訴ヲ受ケ拘留又ハ保釋中ニ在ル者ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ撰舉
權ヲ行フコトヲ得ス及被撰舉人タルコトヲ得ス

第五章 撰舉人名簿

第十八條 撰舉長ハ毎年四月一日ヲ期トシ各町村長ヲシテ一ノ投票區域内ニ於テ撰
舉資格ヲ有スル者ヲ調査シ人名簿ニ本ヲ調製シ同月二十日マテニ其ノ一本ヲ差出

サシムヘシ
撰舉人名簿ハ撰舉人ノ姓名官位職業身分住所生年月納ムル所ノ直接國稅ノ納額並
ニ納稅地ヲ記載スヘシ

第十九條 市ニ於テハ左ノ方法ニ依リ撰舉人名簿ヲ調製スヘシ
第一 一市又ハ市内ノ一區ヲ以テ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ撰舉長其ノ人
名簿ヲ調製スヘシ

第二 市内ニアル數區ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テハ各區長ヲシテ其
ノ區内ノ人名簿ヲ調製シ撰舉長ニ差出サシムヘシ

第三 郡市ヲ合シテ一撰舉區ト爲シタル場合ニ於テ郡長其ノ撰舉長トナリタルト
キハ市長ヲシテ其ノ人名簿ヲ調製シ之ヲ差出サシムヘシ

第四 第三ノ場合ニ於テ市長其ノ撰舉長トナリタルトキハ市長其ノ市内ノ人名簿
ヲ調製スヘシ

第二十條 撰舉人其ノ住居スル投票區域ノ外ニ於テ直接國稅ヲ納ムルトキハ納稅地
ノ町村長又ハ市長若ハ區長ノ證狀ヲ得テ撰舉人名簿調製ノ期日マテニ其ノ投票ヲ
管理スル町村長又ハ市長若ハ區長ニ差出スヘシ

第二十一條 撰舉長ハ各町村長又ハ市長若ハ區長ヨリ差出シタル撰舉人名簿ヲ合シ
一撰舉區ヲ以テ一冊トシ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ備置キ其ノ副
本ヲ府縣知事ニ送致スヘシ

第二十二條 撰舉長ハ毎年五月五日ヨリ十五日間一撰舉區撰舉人名簿ノ寫ヲ其ノ撰
舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ縦覽セシムヘシ

第二十三條 凡テ撰舉資格アル者撰舉人名簿ニ於テ人名ノ脱漏又ハ誤載アルコトヲ
發見シタルトキハ其理由書及證憑ヲ具ヘテ縦覽期限内ニ撰舉長ニ申立テ其ノ改正
ヲ求ムルコトヲ得

縦覽期限ヲ經過シタル後前項ノ申立ヲ爲スモ其效ナシ

四十一

第二十四條 撰舉長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及謬憑ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十五條 撰舉長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及謬憑ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ撰舉長ノ判定ニ服セサルトキハ撰舉長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取りタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 撰舉人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ撰舉長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取りタル時ヨリ二十四日以内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村

長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰舉區内ニ告示スヘシ

第六章 撰舉ノ期日及投票所

第三十條 撰舉ノ投票ハ通常四月一日ニ之ヲ行フ

但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時撰舉ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以内ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰舉人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル撰舉人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ撰舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其ノ職ヲ辭スルコトヲ得ス

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第二十四條 撰學長ニ於テ脱漏ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若其申立ヲ以テ正當ナリト判定シタルトキハ直ニ其人名ヲ記載シ其ノ由ヲ當人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰學區内ニ告示スヘシ

第二十五條 撰學長ニ於テ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ理由及證據ヲ審査シ必要ナル場合ニ於テハ申立人又ハ被告人ヲ召喚審問シ申立ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ之ヲ判定スヘシ若誤載ナリト判定シタルトキハ直ニ之ヲ削除シ其ノ由ヲ被告人所在地ノ町村長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰學區内ニ告示スヘシ

第二十六條 申立人又ハ被告人ニ於テ撰學長ノ判定ニ服セサルトキハ撰學長ヲ被告トシ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十七條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ラス速ニ其ノ裁判ヲ爲スヘシ

第二十八條 前條ニ於ケル始審裁判ノ裁判ハ控訴スルコトヲ許サス但シ大審院ニ上告スルコトヲ得

第二十九條 撰學人名簿ハ六月十五日ヲ以テ確定期限トシ次年ノ調製ノ日マテ之ヲ据置クヘシ但シ裁判言渡書ニ依リ改正スヘキモノハ撰學長ニ於テ其ノ言渡書ヲ受取リタル時ヨリ二十四日以内ニ之ヲ改正シ其ノ由ヲ申立人又ハ被告人所在地ノ町村

長又ハ市長若ハ區長ニ通知シ併セテ撰學區内ニ告示スヘシ

第六章 撰學ノ期日及投票所

第三十條 撰學ノ投票ハ通常四月一日ニ之ヲ行フ

但シ衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ勅令ヲ以テ臨時撰學ノ期日ヲ定メ少クトモ三十日以内ニ公布スヘシ

第三十一條 投票所ハ町村役場又ハ町村長ノ指定シタル場所ニ於テ之ヲ設ケ町村長之ヲ管理ス

第三十二條 一町村ニ於テ撰學人少數ニシテ一ノ投票所ヲ設クルニ足ラサルトキハ數町村ヲ合併スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ郡長ハ府縣知事ノ許可ヲ經テ合併ノ町村及投票所並ニ投票所管理ノ町村長ヲ指定スヘシ

第三十三條 町村長ハ其ノ管理スル投票區域内ニ於ケル撰學人中ヨリ立會人二名以上五名以下ヲ定メ遅クトモ撰學ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰學ノ當日投票所ニ參會セシムヘシ

第七章 投票

第三十四條 投票ハ午前七時ニ始メ午後六時ニ終ル

第三十五條 投票函ハ二重ノ蓋ヲ造リ二種ノ鑰ヲ設ケ其ノ一ハ町村長之ヲ管守シ其ノ一ハ立會人之ヲ管守スヘシ

第三十六條 町村長ハ投票ノ初ニ當リ立會人ト共ニ參會シタル撰舉人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示スヘシ

第三十七條 撰舉人ハ撰舉ノ當日本人自ラ投票所ニ至リ撰舉人名簿ノ對照ヲ經テ投票スヘシ

第三十八條 投票用紙ハ府縣各々一定ノ式ヲ用キ撰舉ノ當日投票所ニ於テ町村長ヨリ之ヲ各撰舉人ニ交付スヘシ
撰舉人ハ投票所ニ於テ投票用紙ニ被撰人ノ姓名ヲ記載シ次ニ自己ノ姓名住所ヲ記載シ捺印スヘシ

第三十九條 撰舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ申立ルトキハ町村長ハ吏員ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀ミ聞カセ捺印投票セシメ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十條 二人以上ノ議員ヲ撰舉スヘキ撰舉區ニ於テハ連名投票ヲ用ウヘシ

第四十一條 撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ノハ投票スルコトヲ得ス但シ撰舉人名簿ニ記載セラルヘキ裁判官渡書ヲ所持シ撰舉ノ當日投票所ニ至ル者アルトキハ町村長ハ投票用紙ヲ交付シ投票セシメ其ノ由チ投票明細書ニ記載スヘシ

第四十二條 投票終ルノ時期ニ至リタルトキハ町村長ハ其ノ由チ告ケ投票函ヲ閉鎖スヘシ投票函閉鎖ノ後ハ總テ投票スルコトヲ許サス

第四十三條 町村長ハ投票明細書ヲ作り投票ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ立會人ト共ニ署名スヘシ

第四十四條 町村長ハ一名又ハ數名ノ立會人ト共ニ投票ノ翌日投票函及投票明細書ヲ併セテ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ送致スヘシ

第四十五條 一撰舉區内ニアル島嶼ニシテ前條ノ期限内ニ投票函ヲ送致スルコト能ハサル情况アルトキハ府縣知事ハ人名簿確定ノ日ヨリ撰舉ノ期日マテノ間ニ於テ適宜ニ其ノ投票ノ期日ヲ定メ撰舉會ノ期日マテニ其ノ投票函ヲ送致セシムルコトヲ得

第八章 撰舉會

第四十六條 撰舉會ハ撰舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ之ヲ開ク

第四十七條 撰舉長ハ各投票所ヨリ參會シタル立會人ノ中ヨリ抽籤ヲ以テ撰舉委員三名以上七名以下ヲ定ムヘシ

第四十八條 撰舉長ハ投票函送達ノ翌日撰舉委員立會ノ上各投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ若投票ト投票人トノ總數ニ差異ヲ生シタルトキハ其ノ由チ撰舉明細書ニ記載スヘシ

第四十九條 總數ノ計算ヲ終リタルトキハ撰舉長ハ撰舉委員ト共ニ投票ヲ點檢スヘシ

第五十條 各撰舉區ノ撰舉人ハ其ノ撰舉會ニ參觀ヲ求ムルコトヲ得

第五十一條 左ニ掲クル投票ハ無効トス

一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但シ裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

二 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ

三 撰舉人自己姓名ヲ記載セサルモノ

四 資格ナキ被選人ノ姓名ヲ記載スルモノ但シ連名投票ニ列記スル人員中資格アル者ニ付テハ其ノ效アルモノトス

五 誤字又ハ汚染塗抹毀損ニ依リ記載スル所ノ撰舉人又ハ被選人ノ姓名ヲ認知スヘカラサルモノ但シ通常ノ假名字ヲ用キ又ハ誤字ニ係ルモ明ニ其ノ姓名ヲ認知スルコトヲ得ルモノハ此ノ限ニ在ラス

六 第三十八條第二項ニ規定シタル外他ノ文字ヲ記載シタルモノ但シ被選人ノ指名ヲ誤ラサル爲ニ其ノ官位職業身分住所ヲ附記シ又ハ敬稱ヲ用キタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五十二條 投票効力ノ有無ニ付疑義アルトキハ撰舉委員ノ意見ヲ聞キ撰舉長之ヲ

決定ス此ノ決定ニ對シテハ撰舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第五十三條 無効ノ投票ハ抹線ヲ加ヘ其ノ由ヲ撰舉明細書ニ記載シ一箇年間保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十四條 一投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ヨリ多キ被選人ノ姓名ヲ記載シタルトキハ其ノ定員ニ超エタル人名ヲ末尾ヨリ除却スヘシ

連名投票ニシテ其ノ撰舉スヘキ定員ニ足ラサルトキハ現ニ記載シタル者ノミヲ計算スヘシ

但シ一人ノ姓名ヲ複記シタル者ハ一人トシテ之ヲ計算スヘシ

第五十五條 投票ハ六十日間郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ保存シ期限ヲ經過シタル後之ヲ燒棄ツヘシ

第五十六條 撰舉ニ關リ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ第五十三條第五十五條ノ期限ヲ經過スルモ裁判確定ニ至ルマテ其ノ投票ヲ保存スヘシ

第五十七條 撰舉長ハ選舉明細書ヲ作り撰舉點檢ニ關ル一切ノ事項ヲ記載シ撰舉委員ト共ニ署名シテ之ヲ保存スヘシ

第九章 當撰人

第五十八條 投票總數ノ最多數ヲ得タル者ハ之ヲ當撰トス

投票同數ナルトキハ生年月ノ長者ヲ以テ當撰人トス同年月ナルトキハ抽籤ヲ以テ

之ヲ定ムヘシ

第五十九條 當撰人定マリタルトキハ撰舉長ハ直ニ其ノ姓名及投票ノ數ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十條 府縣知事前條ノ届出ヲ受ケタルトキハ各當撰人ニ通知シ其ノ姓名ヲ管内ニ告示スヘシ

第六十一條 當撰人當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ當撰ヲ承諾スルヤ否ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十二條 一人ニシテ數撰舉區ノ當撰人トナリタル者當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ何レノ撰舉區ノ當撰ヲ承諾スル旨ヲ府縣知事ニ届出ヘシ

第六十三條 當撰人其ノ府縣内ニ在ル者ハ十日以内其ノ府縣外ニ在ル者ハ二十日以内ニ當撰承諾ノ届出ヲ爲サ、ルトキハ其ノ當撰ヲ辭シタル者ト見做人ヘシ

第六十四條 當撰人ニシテ其ノ當撰ヲ辭シ又ハ期限内ニ其ノ當撰ノ承諾ヲ届出サルトキハ府縣知事ハ撰舉ノ期日ヲ定メ其ノ撰舉長ニ命シ再ニ撰舉ヲ行ハシムヘシ

但シ第五十八條第三項ノ場合ニ於テ抽籤ニヨリ當撰ヲ得タル者其ノ當撰ヲ辭シ又ハ其ノ承諾ヲ届出サルトキハ抽籤ニヨリ當撰ヲ失ヒタル者ヲ以テ撰舉人ト定ムヘシ

第六十五條 各撰舉區ノ當撰人確定シタルトキハ府縣知事ハ當撰證書ヲ付與シ及管

内ニ告示シ並ニ當撰人ノ資格ヲ録シテ内務大臣ニ具申スヘシ

第十章 議員ノ任期及補闕撰舉

第六十六條 議員ノ任期ハ四年トス但シ任期ヲ終リタル後仍撰舉ニ應スルヲ得

第六十七條 議員ノ闕員アルニ由リ内務大臣ヨリ補闕撰舉ヲ開クヘキ旨ヲ命セラレタルトキハ府縣知事ハ其ノ命ヲ受ケタル日ヨリ二十日以内ニ闕員ノ撰舉區ニ限リ臨時撰舉ヲ行ヒ補闕議員ヲ撰舉セシムヘシ

第六十八條 補闕議員ノ任期ハ前議員ノ任期ニ依ル

第六十九條 投票所取締 投票管理ノ町村長ハ投票所ノ秩序ヲ保持シ必要ナル場合ニ於テハ警察官吏ノ處分ニ付スルコトヲ得

第七十條 凡テ戎器又ハ兇器ヲ携帯スル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十一條 選舉人ニ非サル者ハ投票所ニ入ルコトヲ許サス

第七十二條 投票所ニ於テハ一切ノ演說討論及喧嘩ニ涉リ又ハ他人ノ投票ヲ勸誘スルコトヲ禁ス

第七十三條 投票所ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ町村長ハ之ヲ警戒シ其ノ命ニ従ハサルトキハ之ヲ投票所ノ外ニ退出セシムヘシ

第七十四條 投票ノ外ニ退出セシメタル者ハ犯罪者ヲ除ク外其ノ投票ヲ爲サシムル

爲ニ再ヒ投票所ノ内ニ呼入ルコトヲ得

第七十五條 投票所ニ參會シタル選舉人ニシテ刑法又ハ此ノ法律ノ罰則ヲ犯シタル者ハ投票スルコトヲ禁シ其ノ姓名事由ヲ投票明細書ニ記載スヘシ

第七十六條 投票ニ關ル異議ノ申立ニ付町村長ノ決定ニ對シテハ投票所ニ於テ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第七十七條 選舉管理ノ郡役所又ハ市役所若ハ區役所ニ於テ選舉會ノ參觀ヲ求ムル者ハ總テ第六十九條ヨリ第七十二條ニ至ルマテノ例ニ照シ選舉長之ヲ處分スヘシ

第十二章 當選訴訟

第七十八條 各選舉區ニ於テ當選ヲ失ヒタル者當選人ノ當選ヲ無効トスルノ理由アリト認ムルトキハ當選人ヲ被告トシ第六十五條ニ掲ケタル當選人ノ地名告示ノ日ヨリ三十日以内ニ控訴院ニ出訴スルコトヲ得

其ノ期限ヲ經過シタル後出訴スルモ其ノ効ナシ

第七十九條 原告人ハ訴訟狀ト共ニ保證金トシテ金參百圓又ハ之ニ相當スル公債書證ヲ控訴院書記局ニ預置クヘシ

第八十條 原告人敗訴ノ場合ニ於テ裁判言渡ノ日ヨリ七日以内ニ一切ノ裁判費用ヲ完納セサルトキハ保證金ヨリ之ヲ控除シ尙足ラサルトキハ之ヲ追徴スヘシ

第八十條 同一ノ當選人ニ對シ二人以上ノ原告人訴訟ヲ爲シタルトキハ控訴院ハ

一ノ裁判言渡書ヲ各訴訟人ニ宣告スルコトヲ得

第八十二條 審判中衆議院解散ノ命アルトキハ控訴院ハ其ノ訴訟ヲ棄却スヘシ

第八十三條 原告人訴訟ヲ願下グルトキハ同時ニ其ノ由ヲ新聞紙又ハ其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

第八十四條 控訴院ハ當選訴訟ヲ審判スルニ當リ訴本ニ關係スル刑法又ハ此ノ法律ノ犯罪者ニ對シ直ニ處刑ノ言渡ヲ爲スコトヲ得

但シ此ノ場合ニ於テハ檢察官ヲシテ立會ハシムヘシ

當選訴訟ニ關係セサル場合ニ於ケル此ノ法律ノ犯罪者ハ所轄刑事裁判所ニ於テ之ヲ裁判ス

第八十五條 控訴院ニ於テ當選訴訟ヲ判定シタルトキハ其ノ裁判言渡書ノ謄本ヲ內務大臣ニ送付スヘシ若衆議院開會スルトキハ併セテ之ヲ議長ニ送付スヘシ

第八十六條 當選訴訟ニ付控訴院ノ裁判ニ對シテハ大審院ニ上告スルコトヲ得

第八十七條 訴訟ノ目的タル當選人ハ其ノ裁判確定ニ至ルマテ衆議院ニ列席スルノ權ヲ失ハス

第八十八條 當選訴訟ニ付本章ニ規定シタルモノ、外總テ普通ノ訴訟手續ニ依ル

第十三章 罰則

第八十九條 納稅額年齢住所及其ノ他選舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ選舉人名簿

ニ記載セラレタル者ハ四十圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第九十一條 直接又ハ間接ニ金錢物品手形若ハ公私ノ職務ヲ選舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其ノ授與又ハ約束ヲ受ケ投票ヲ爲シ又ハ投票ヲ爲サル者亦同シ

第九十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ選舉人ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十三條 選舉人ニ暴行ヲ加ヘ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若ハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止シタル者ハ三月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九十四條 選舉人ヲ強迫シ又ハ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ六月以上二年以下ノ輕禁錮ニ

處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十五條 選舉ノ際管理者又ハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ投票所若ハ選舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若ハ劫奪シタル者ハ四月以上四年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十六條 多衆ヲ嘯聚シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ重禁錮ニ處ス

其ノ情ヲ知テ嘯聚ニ應シ勢ヲ助ケタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處ス

犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各々本刑ニ一等ヲ加フ

第九十七條 演說又ハ新聞紙若ハ其ノ他ノ文書ヲ以テ人ヲ教唆シ前二條ノ罪ヲ犯サシメタル者ハ刑法第百五條ノ例ニ依ル其ノ教唆ノ效ナキ者モ仍本刑ノ二等又ハ三等ヲ減シ處斷ス

第九十八條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ投票所若ハ選舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九十九條 當選人ニ於テ第八十九條ヨリ第九十八條ニ至ルマテノ刑ニ處セラレタ

ルトキハ其ノ當選ハ無効トス

第百條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シタル者及第十四條ニ依ル選舉人タルコトヲ得サル者投票ヲ爲シタルトキハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百一條 前數條ノ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ再ヒ罰金ノ刑ニ處セラレタル者ハ三年以上七年以下選舉權及被選舉權ヲ停止ス

第百二條 立會人正當ノ事故ナクシテ此ノ法律ニ規定シタル義務ヲ缺クトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第百三條 本章ニ規定シタル罰則ノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其ノ條ニ依リ重キニ從テ處斷ス

第百四條 凡テ選舉ニ關ル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿ヲ除トス

第百五條 此ノ罰則ハ第十一章ノ各條ト共ニ投票所及選舉會場ニ貼示スヘシ

第十四章 補則

第百六條 市ニ於テハ一市ニ一ノ投票所ヲ設ケ此ノ法律ニ規定シタル投票及選舉ノ管理ハ市長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百七條 前條ノ場合ニ於テハ市長又ハ區長ハ其ノ管理スル選舉區内ニ於ケル選舉ノ管理ハ區長兼テ之ヲ掌ルヘシ

第百八條 此ノ法律ニ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ

第百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ

第百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ルモノト見做スヘシ

第百十一條 北海道釧路縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ進行スルノトキニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行ス

人中ヨリ立會人三名以上七名以下ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ三日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ選舉ノ當日ノ選舉管理ノ市役所又ハ區役所ニ參會セシムヘシ
立會人ハ投票ニ立會ヒ併セテ投票ヲ点檢スヘシ
此場合ニ於ケル選舉明細書ハ併セテ投票ノ事項ヲ記載スヘシ
第百八條 島司ヲ置ク地方ニ於テハ此ノ法律ノ規定シタル選舉長ノ職務ハ島司之ヲ掌ルヘシ
第百九條 町村制ヲ施行セサル町村ニ於テハ此ノ法律ニ規定シタル町村長ノ職務ハ戶長之ヲ掌ルヘシ
第百十條 選舉人名簿調製ノ初年ニ限リ所得稅法施行以來第六條第八條ニ規定シタル納稅額ヲ引續キ納完シタル者ハ其ノ納稅資格ノ期限ニ充ルモノト見做スヘシ
第百十一條 北海道釧路縣及小笠原島ニ於テハ將來一般ノ地方制度ヲ進行スルノトキニ至ルマテ此ノ法律ヲ施行ス

◎府縣會規則

明治十三年 四月八日

(太政官布告第十五號)

明治十一年七月第十八號布告府縣會規則左之通改正候條此旨布告候事

第二章 總則

第一條 府縣會ハ地方税ヲ以テ支辨スヘキ經費豫算及其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ分ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナス臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案總テ府知事「縣令」ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其ノ特ニ會議ヲ要スル事件ニ限り其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事「縣令」認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事「縣令」其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ「內務卿」ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ(十四年第四號布告)

前項ノ場合ニ於テ府知事「縣令」ハ時宜ニヨリ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スル時ハ「內務卿」ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ

第六條 府縣會ハ每年通常會議ノ初メニ於テ地方税ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事「縣令」ニ說明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直子ニ「內務大藏兩卿」ニ上申スルコトヲ得

出納決算ノ報告書ニ付府縣會ヨリ說明ヲ求ムルトキハ府知事「縣令」若シクハ其代理人之ヲ説明スヘシ(十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付建議ヲサントスル者アラハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルト

キハ其會ノ所見トシ議長ノ命ヲ以テ直子ニ「內務卿」ニ建議シ又ハ府知事「縣令」ニ建議スルヲ得(十五年第十號布告ヲ以テ本條改正但書追加)但臨時會ニ於テハ其會議ヲ要シタル事件ニ限り建議スルヲ得

第八條 府縣會ハ府知事「縣令」ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事「縣令」ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

府縣會ハ議員ノ内召集ニ應セス又ハ事故ヲ告スシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職者タルヲ決スルヲ得

府知事「縣令」ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭コトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事「縣令」ハ其議事若シクハ會議ヲ中止スルコトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ本項追加)

第二章 選舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰ブ每郡區議員定數ノ外補闕員トシテ十人以下ニ増撰スルヲ得(十五年第十號布告ヲ以テ本項追加)

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公撰シ之ヲ府知事「縣令」ニ報告シ府知事「縣令」ハ之ヲ內務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ撰ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ内ヨリ之ヲ支給ス
第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿廿五歳以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租十圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ各程ニ觸ルハ者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款 瘋癲白痴ノ者

第二款 舊法ニ依リ一年以上懲役及國事犯禁獄ノ刑ニ處セラレ滿期後五年ヲ經サル者
(十五年第十號布告)
新法ニ依リ公權ヲ剝奪及停止セラレタル者又ハ一年以上輕重禁錮ノ刑ニ處セラレ

主刑滿期後五年ヲ經サル者
(十五年第十號布告)
ヲ以テ本項改正

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏「教導職」及陸海軍諸卒現役者
(十五年第十號布告)
ヲ以テ本項改正

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ撰舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歳以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ムル者ニ限ルヘシ

但シ前條ノ第一款第二款第五款ニ觸ルハ者及陸海軍人現役ノ者ハ撰舉入タルコトヲ得ス
(十五年第十號布告)
ヲ以テ但書改正

第十五條 (十二年法律第六號)
ヲ以テ本條廢止

第十六條 撰舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ撰舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ撰舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 (十二年法律第六號)
ヲ以テ本條廢止

第十八條 (十二年法律第六號)
ヲ以テ本條廢止

第十九條 (十二年法律第六號)
ヲ以テ本條廢止

第二十條 一人ニシテ數郡區ノ選ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシテ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回二年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲グル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉籍セルカ其他總テ關員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰舉ス
(十五年第十號布告ヲ以テ轉住ヲ轉籍ト改ム)

但補缺員アルトキハ順次投票ノ多數ヲ以テ之ヲ取り尙缺員アルトキハ本條末文ノ手續ニ據ル(十五年第十號布告)

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事「縣令」若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ趣旨ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事「縣令」ノ要ニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レトモ人身上ニ付テ褒貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度十一月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事「縣令」ヨリ之ヲ命ス會期ハ卅日以内トス但區部郡部會ヲ開ク地方ニ於テハ七日以内延期スルコ

トヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ改正シ十七年第二十八號布告ヲ以テ三月十一日改メ十八年十一月ヨリ施行ス)

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事件アルトキ府知事「縣令」ハ臨時會ヲ開クコトヲ得其會期ハ七日以内トス但該會ヲ要スル事由ヲ直ニ「內務卿」ニ報告スヘシ(十五年第六十八號布告ヲ以テ改正)

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ府知事「縣令」ニ會議ヲ中止セシメ「內務卿」ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ府縣會ニ於テ若シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セス又ハ會期內ニ於テ議案ヲ議決シ終ラサルトキハ府知事「縣令」ハ更ニ其議定ヲ要セス「內務卿」ニ具狀シテ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ追加)

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアル時ハ府知事「縣令」ハ其事由ヲ「內務卿」ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ(十四年第四號布告ヲ以テ本項追加)

第一項ノ場合ニ於テ「內務卿」ハ府縣會ヲ停止スルコトヲ得而シテ更ニ開會ヲ命スル迄ノ間ハ府知事「縣令」ニ於テ地方稅ノ經費豫算及徵收方法ヲ定メ「內務卿」ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得(十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加)

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ「內務卿」ハ何レノ時ヲ問ハス議員解散ヲ命スルコトヲ得(十四年第四號布告ヲ以テ閉會云々ノ七字)

（ヲ削ル）

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定セシムヘシ（十四年第四號布告ヲ）

第三十五條 「内務卿」ヨリ解散ヲ命シタル時ハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ更ニ議員ヲ撰擧スヘシ

第五章 常置委員 （十三年第四十九號布告ヲ以テ本項追加）

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以上ノ常置委員ヲ撰任スヘシ
常置委員定數ノ外數名ヲ増撰シ缺員アルトキハ順序投票ノ多數ヲ以テ之ヲ補充スルヲ得 （十五年第十號布告ヲ以テ本項追加）

區部會郡部會ヲ開設シタル府縣ニ在テハ區郡各部ニ之ヲ撰任スヘシ （十五年第十號布告ヲ以テ本項追加）

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ事業ヲ執行スルノ方法順序及豫備費ノ支出ニ付府知事「縣令」ヨリ諮問アルトキハ其意見ヲ述フ （十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加）

常置委員ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テハ其經費ノ豫算及徵收方法ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告スルヲ得 （十五年第六十八號布告ヲ以テ本項追加）

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ報告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事「縣令」ヨリ發スヘキ議案ヲ前以テ請取リ會議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員ノ諮問會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス （十五年第十號布告ヲ以テ常置委員ノ下諮問ノ二字ヲ加フ）

第四十一條 諮問會ハ府知事「縣令」ヲ以テ議長トナシ其ノ他ノ會議ハ委員中ヨリ之ヲ撰擧スヘシ （十五年第十號布告ヲ以テ改正）

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事「縣令」ハ事務ノ察履ヲ委員會議ニ出シ其ノ會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲナサシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聽ヲ許サス

第四十六條 常置委員ノ任期ハ二ヶ年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ改撰ス但期限ニ致リ再撰スルヲ得（十五年第十號布告ヲ以テ二ヶ年トシノ下議員云々ノ十三字ヲ加フ）

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ府知事「縣令」之ヲ撰任ス

（十五年第十號布告ヲ以テ議長ヲ府知事縣令ト改ム）

第四十八條 常置委員ハ三十圓以上八十圓以下ノ月手當及往復旅費ヲ給ス其額ハ府縣會ノ儀決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

○府縣會ニテ議定スヘキ事件ノ細目ヲ區町村會等ノ議決ニ付スルヲ得

（明治十四年二月十四日太政官布告第六號）

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若クハ水利土功會ノ議決ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

○府縣會議員聯合集會等ヲ禁ス 明治十五年十二月二十八日
太政官布告第七十號

府縣會議員會議ニ關スル事項ヲ以テ他ノ府縣會議員ト聯合集會シ又ハ往復通信スルヲ許サス

其集會スルモノ何等ノ名義ヲ以テスルモ府知事「縣令」ニ於テ此禁令ヲ犯ス者ト認ムル時ハ直ニ解散ヲ命スヘシ

前項ノ場合解散ノ命ニ從ハサルモノハ集會條例第十三條ニ依テ處分ス

○開會中議員建議書携帶上京等ヲ許サス 明治十五年二月二日
太政官達第十一號

府縣會規則第七條ニ依リ内務卿ニ建議スルノ場合ニ於テ開會中議員自ラ其建議書ヲ携帶上京等ノ儀ハ不相成筋ニ候條此旨相達候事

但本文ノ趣府縣會ヘ相達シ置クヘシ

○府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額計算方 二十三年一月廿三日
内務省訓令第二七號

府縣會規則第十三條第十四條ノ地租納額ヲ計查スルニ數人共有地ノ地租ハ其共有人員ニ平分シ之ヲ各自ノ納額ト見做シ算入スヘキモノトス尤土地臺帳又ハ其附屬連名簿ニ各自所有權ノ歩合又ハ納租額ノ割合アルモノハ其額ニ依ルヘキ儀ト心得ラルヘシ

但市町村制ニ就テモ本文同様ト心得ラルヘシ

○府縣會議員選舉規則

明治三十一年
二月二十六日

（法律第六號）

府縣會議員選舉規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○府縣會議員選舉規則

第一條 戶長ハ毎年九月十五日ヲ以テ期トシ其役場管内ノ選舉人名原簿ヲ調査シ其副本ヲ十月一日迄ニ郡長ニ差出スヘシ

選舉人名原簿ニハ撰舉人ノ氏名住所生年月納ムル所ノ地租ノ總額並ニ其納稅地ヲ記載スヘシ

第二條 郡長ハ戶長ヨリ差出ス所ノ原簿ヲ調査シ毎年十月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

第三條 區長ハ毎年九月十五日ヲ期トシ其役所管内ノ選舉人名原簿ヲ調製シ十月十

五日ヲ期トシ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

選舉人名簿ニ記載スヘキ事項ハ第一條第二項ニ同シ

第四條 府縣會規則第十三條ノ年齡及七年限ヲ算スルハ選舉人名簿調製ノ期日ヲ以テ限界トナシ其地租納額ヲ算スルハ原簿調製ノ期日ヨリ前一年以上之ヲ納メ猶引續キ納ムル者ニ限ルヘシ但シ家督ニ依リ財産ヲ相續シタル者ハ前財産主ノ納稅額ヲ以テ其者ノ納稅額ニ算入スヘシ

第五條 撰舉人其住居スル區町村ノ外ニ於テ地租ヲ納ムルトキハ其納稅地區戶長ノ證狀ヲ添ヘ選舉人名原簿調製ノ期日迄ニ其住居ノ區戶長ニ届出ヘシ
前項ノ届出ヲ爲サル納稅額ハ撰舉及被選舉ノ資格ニ算入スルコトヲ得ス

第六條 郡區長ハ十月二十日ヨリ十五日間其役所管内ノ撰舉人名原簿及撰舉人名簿ノ寫ヲ其郡區役所ニ於テ縱覽セシムヘシ但關係者ノ請求アルトキハ戶長役場ニ於テモ其調製シタル原簿ノ寫ヲ示スヘシ

第七條 撰舉資格アルモノ撰舉人ニ於ル脱漏又ハ誤載アルコトヲ發見シタルトキハ其縱覽期限内ニ之ヲ申立ヘシ

第八條 郡區長ニ於テ脱漏又ハ誤載ノ申立ヲ受ケタルトキハ十日以内ニ之ヲ審査判定シ其申立正當ナルトキハ直ニ其人名ヲ記入又ハ削除シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

第九條 前條審査ノ爲メ必要アル場合ニ於テハ申立人又ハ當人ヲ召喚審問スルコトヲ得

第十條 申立人又ハ當人ニ於テ郡區長ノ判定ニ不服アルトキハ判定ノ日ヨリ七日以内ニ始審裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ其判定ハ出訴ノ爲メ停止セサルモノトス

第十一條 始審裁判所ニ於テ前條ノ訴訟ヲ受取リタルトキハ他ノ訴訟ノ順序ニ拘ハラス速ニ其裁判ヲナスヘシ

第十二條 前條始審裁判所ノ裁判ハ上告スルコトヲ得ルト雖モ控訴スルコトヲ許サズ但其裁判ハ上告ノ爲メ停止セサルモノトス

第十三條 撰舉人名簿ハ十一月十五日ヲ以テ確定期限トシテ年ノ改正期日迄之ヲ据置クモノトス但裁判言渡ニ依リ訂正スヘキモノハ郡區長ニ於テ其言渡ヲ受ケタル時ヨリ二十四時間以内ニ之ヲ訂正シ其由ヲ管内ニ告示スヘシ但郡ニ在テハ仍ホ當人住居地ノ戶長ニ通知スヘシ

前項ノ外次年ノ改正期日前ト雖モ撰舉ヲ行フ前ニ於テ撰舉權ヲ失ヒ若クハ撰舉權ヲ有セザリシコトヲ發見シタル場合ニ於テハ郡區長ハ其人名ヲ削除スヘシ

第十四條 撰舉投票ハ通常二月若クハ三月ニ於テ之ヲ行フヘシ但解散及ヒ補欠撰舉ノ場合ハ此限ニ在ラス

前項ノ時期ハ府縣ノ情况ニヨリ府縣知事ニ於テ府縣會ノ議決ヲ取リ内務大臣ノ認

可テ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

第十五條 議員ヲ撰舉スヘキトキハ少クトモ一ヶ月前ニ府縣知事ヨリ其月日撰舉開會並ニ投票函閉鎖ノ時刻撰舉ヲ行フヘキ郡區ノ名及ヒ撰舉スベキ議員ノ數ヲ記シ之ヲ管内ニ告示スヘシ若シ正議員ノ外補欠員ノ増選ヲ要スルトキハ各別ニ其數ヲ記スヘシ

撰舉開會ヨリ投票函閉鎖迄ノ時間ハ四時間以上十時間以内タルヘシ

第十六條 前條ノ告示アリタルトキハ郡區長ハ前條各事項並ニ撰舉開會ノ場所ヲ管内ニ告示スヘシ

第十七條 郡區長ハ其管内ノ撰舉人中ヨリ立會人五名ヲ定メ遅クトモ選舉ノ期日ヨリ五日以前ニ之ヲ本人ニ通知シ撰舉ノ當日撰舉會場ニ參會セシムヘシ

撰舉分會ヲ設ケタル場合ニ於テハ本會分會トモ各其會場所屬ノ撰舉人ニ就キ前項ニ依リ立會人ヲ定ムヘシ

立會人ハ正當ノ事故ナクシテ其職ヲ辭スルコトヲ得ス立會人若シ撰舉開會ノ時刻ニ至リ出頭セサルトキハ參會ノ撰舉人中最多額ノ地租ヲ納ムルモノヲ以テ假ニ其欠ヲ補フヘシ

第十八條 郡區長ハ撰舉會長トナリ撰舉會場ヲ管理スヘシ郡區長事故アルトキハ代理書記ヲ以テ之ヲ充ヘシ

撰舉會書記ハ郡區長ニ於テ郡區書記中ヨリ之ヲ命スヘシ

第十九條 撰舉人ハ撰舉開會ノ時刻ヨリ投票函閉鎖ノ時刻ニ至迄何時タリトモ到着ノ順序ニ從ヒ投票スルコトヲ得

第二十條 撰舉會場ニハ錠ヲ付シタル投票函及撰舉錄並ニ筆墨ヲ備ヘテクヘシ

投票函ハ投票ニ先チ參集シタル撰舉人ノ面前ニ於テ之ヲ開キ其空虛ナルコトヲ示スヘシ

第二十一條 投票用紙ハ府縣知事ノ定ムル所ニ依リ各郡區ニ於テ一定ノ式ヲ用ヒ投票ノ當日撰舉會場ニ備ヘテキ撰舉會長又ハ書記ヨリ之ヲ各撰舉人ニ交付スヘシ

用紙ハ正議員ノ外補欠員ノ増撰ヲ要スル場合ニ於テハ之ヲ甲乙二種ニ分チ甲種ハ正議員ノ爲メノ用紙トナシ乙種ハ補欠員ノ爲メノ用紙トナスヘシ

第二十二條 撰舉人ハ自ラ投票ヲ行フヘシ代人ニ託スルコトヲ得ス

第二十三條 撰舉人ハ撰舉會場ニ於テ投票用紙ニ被撰舉人並ニ自己ノ氏名ヲ記シ捺印スヘシ但氏名ノ外住所若クハ位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記スルハ妨ケナシ

第二十四條 撰舉人投票ヲ爲サントスルトキハ撰舉會長ハ其住所氏名ヲ撰舉人名簿

ニ照シ名簿ニ消印ヲ捺シ撰舉ヲシテ自ラ之ヲ投票函ニ投入セシムヘシ

第二十五條 撰舉人ニシテ文字ヲ書スルコト能ハサル由チ申立ルトキハ撰舉會長ハ書記ヲシテ代書セシメ之ヲ本人ニ讀聞セ並ニ立會人ニ示シタル後捺印投票セシム

ハシ

第二十六條 選舉ニ關スル吏員及選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得
ス但會場臨視ノ職權アル官吏ハ此限ニアラス

第二十七條 選舉人名簿ニ記載セラレタル者ノ外投票スルコトヲ得ス但記載セラレ
ハキ裁判言渡書ヲ所持シテ參會スル者ハ此限ニアラス

第二十八條 選舉人ハ會場ニ於テ演說討論ヲナシ若クハ喧噪ニ涉リ又ハ互ニ投票ヲ
勸誘スルコトヲ得ス

第二十九條 選舉會場ニ於テ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉會長ハ之ヲ警戒シ其命ニ
從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムヘシ但其投票ヲ爲サシムル爲メ再ヒ之ヲ
呼入ルコトヲ得

選舉會長ハ會場取締ノ爲メ必要ト認ムルトキハ警察官ノ助力ヲ求ムルコトヲ得
第三十條 選舉權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票セントスル者アルトキハ選舉
會長ハ其投票ヲ取上クヘシ

第三十一條 投票函閉鎖ノ時刻ニ至ルトキハ選舉會長ハ其由ヲ宣告シ書記ヲシテ一
時選舉會場ノ入口ヲ鎖サシメ參會者ニ問フニ未タ投票セサリシ者ナキヤテ以テシ
若シ之アルニ於テハ直ニ投票セシメタル後投票函ヲ閉鎖スヘシ

第三十二條 選舉會場ニハ點數簿二冊ヲ備ヘ書記二人ヲシテ各一冊ヲ擔任セシムヘ

シ

第三十三條 投票函閉鎖後十分時間ヲ經過スレハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ投
票函ヲ開キ追次投票ヲ取出シ披封點檢シテ之ヲ書記ニ付シ選舉人被選舉人ノ氏名
ヲ朗讀シテ點數簿擔任ノ書記ヲシテ被選舉人ノ得点ヲ點數簿ニ記入セシムヘシ
前項ノ點檢中若シ無効ノ投票ヲ發見シタルトキハ之ニ抹線ヲ加ヘ一部分無効ノモ
ノハ其部分ニ抹線ヲ加フヘシ

第三十四條 選舉人ハ投票點數ノ際之ヲ參觀スルコトヲ得

第三十五條 投票點數ノ記入ヲ終リタルトキハ選舉會長ハ書記ヲシテ各被選舉人得
点ノ合計ヲ點數簿ニ記入シテ之ヲ朗讀セシムヘシ

第三十六條 點數記入並ニ計算其他ノ書記ノ事務ハ總テ選舉會長並ニ立會人ノ面前
ニ於テ之ヲ爲スヘシ

第三十七條 點數ノ合計ヲ記入シ終リタルトキハ選舉會長ハ立會人ノ面前ニ於テ多
數ヲ得タル者ヨリ順次ニ其被選舉權ノ有無ヲ查定シ同數ハ年長ヲ取り同年ハ抽籤
ヲ用キ其當選ヲ定ムヘシ但即時ニ其當選ニ必要ナル事實ヲ確知シ得サルトキハ調
査ニ必要ナル時日ノ間其查定ヲ延ハスコトヲ得

分會ヲ設ゲタル場合ニ於テハ第五十條ニ依リ當選ヲ定ムルモノトス當選タルヘキ
多數ヲ得タル者ノ被選舉權ヲ有セサルコトヲ發見シタルトキハ順次其次點者ヲ以

テ當選トナスヘシ此場合ニ於テハ郡區長ハ當選者ノ氏名ト共ニ其事由ヲ告示スヘシ當選タルヘキ多數ヲ得タル被選舉人他郡區ノ人ニマテ直ニ其當選ヲ定メ難キ時ハ第四十一條ニ依リ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 点檢濟ノ投票ハ之ヲ取纏メ封緘ノ上撰學會長立會人並ニ書記之ニ捺印スヘシ

前項ノ投票ハ封印ノ儘附屬書類ト共ニ一年間郡區役所ニ保存スヘシ若シ撰舉ニ關シ訴訟又ハ告訴告發アルトキハ一年ヲ過クルモ其裁判確定ニ至ル迄テ之ヲ保存スヘシ

第三十九條 左ノ事項ハ之ヲ撰舉録中ニ記入スヘシ

- 一 撰舉開會ノ月日並ニ時刻
- 二 撰學會長及ヒ書記ノ氏名
- 三 立會人ノ住所氏名
- 四 第二十七條但書ニ依リ投票セシメタルトキハ其頗未
- 五 第三十條ノ處分ヲナシタルトキハ其頗未
- 六 投票函閉鎖ノ時刻
- 七 各被撰舉人ノ得点數
- 八 當選人ノ住所氏名若シ直ニ當選ヲ定メ難キトキハ其事由

九 撰舉閉會ノ時刻

十 右ノ外撰舉會長ニ於テ緊要ト認ムル事項

當撰ノ査定ヲ延シタルトキハ其結果ヲ追記スヘシ

第四十條 選舉録ニハ選舉會長立會人並ニ書記之ニ署名捺印スヘシ

第四十一條 當撰タルヘキ多數ヲ得タル被撰舉人他郡區ノ人ナルトキハ郡區長ハ其

本籍地ノ郡區長ニ照會シ撰舉權ヲ有スルヤ否ヤノ證明ヲ求ムヘシ若シ其權ヲ有セサルトキハ第三十七條第三項ノ例ニ依ル

第四十二條 左ノ投票ハ無効トス

- 一 撰舉人名簿ニ記載ナキ者ノ投票但裁判言渡書ヲ所持シタルニ依リ投票シタル者ハ此限ニアラス
- 二 成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
- 三 撰舉人又ハ被撰舉人ノ氏名ヲ記載セサルモノ
- 四 撰舉人ノ氏名ヲ讀ミ難キモノ又ハ何人タルヲ知ルヘカヲサルモノ
- 五 撰舉人被撰舉人ノ住所氏名ノ外餘事ヲ記入スルモノ但位階勳等其他敬稱ノ類ヲ記入スルモノハ餘事ト見做スノ限リニアラス
- 六 被撰舉人ノ氏名ヲ讀ミ難キモノ又ハ其何人タルヲ知ルヘカヲサルモノ但列記ノ被撰舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

七 被選舉權ナキモノヲ記載シタルモノ但列記ノ被選舉人ニ付テハ仍ホ其効アリトス

第四十三條 投票ニ記載ノ被選舉人其選舉スヘキ定數ニ足ラサルモ之ヲ無効トセス又定數ニ過ルトキハ前條第六第七ニ觸ルモノアルト否ヤト問ハス末尾ヨリ其過數ヲ順次ニ棄却スヘシ一人ノ氏名ヲ復記シタルモノハ一人トシテ計算スヘシ

第四十四條 選舉人又ハ被選舉人ノ住所氏名ニ誤字脱字アリ又ハ假名字ヲ用エルモ其何人ノ何人ヲ選舉シタルコト明瞭ナルトキハ其投票ヲ有效トスヘシ

第四十五條 投票效力ノ有無ニ付疑義ナルトキハ立會人ノ意見ヲ聞キ選舉會長之ヲ決定スヘシ其決定ニ對シテハ選舉會場ニ於テ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第四十六條 郡區ノ區域廣濶ニ過ケルカ又ハ郡區内島嶼ノ地アリテ選舉人ノ參會ニ不使ナル爲メ已ムヲ得サル場合ニ於テハ郡區長ハ府縣知事ノ指揮ニ依リ又ハ府縣知事ノ許可ヲ得テ選舉分會ヲ設ケルコトヲ得

分會ノ爲メ特ニ選舉人名簿ヲ調製スルヲ要セスト雖モ選舉人名簿中ニ各選舉人所属ノ會場ヲ區別シ豫メ分會場所屬ノ區域並ニ會場ヲ管内ニ告示スヘシ

第四十七條 分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開キ投票時間モ亦本會ト同一タルヘシ其他選舉ノ手續會場ノ取締選舉録ノ記載等ハ總テ本會ニ準スヘシ但島嶼其他遠隔ノ地ニ限リ府縣知事ニ於テ適宜其投票ノ期日ヲ異ニシ選舉本會ノ投票期日迄ニ其投票

函ヲ送致セシムルコトヲ得

第四十八條 分會選舉會長ハ上席郡區書記ヲ以テ之ニ充ツヘシ

分會書記ハ郡區長ニ於テ其郡區書記又ハ其他ノ戶長又ハ戶長役場吏員中ヨリ之ヲ命スヘシ

第四十九條 分會ニ於テ投票函ヲ閉鎖シタルトキハ之ニ封印シ選舉會長及書記ノ中少クトモ一名付添直ニ本會場ニ送付スヘシ若シ立會人又ハ他ノ選舉人中同行ヲ臨ムモノアルトキ、之ヲ許ス

第五十條 分會ヲ設ケタルトキハ本會場ニ於テハ投票函閉鎖ノ後分會投票函ノ到着ヲ待チ第二十三條ノ手續ヲナシ合算ノ上總數ヲ以テ當撰ヲ定ムヘシ

第五十一條 當撰者ノ定リタルトキハ郡區長ハ直ニ其旨ヲ當撰者ニ通知スヘシ當撰者當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ當選承諾ノ届出ヲナスヘシ若シ當撰ノ通知ヲナシタル日ヨリ十日以内ニ承諾ノ届出ヲナササルトキハ當撰ヲ辭シタルモノト見做スヘシ當選ヲ辭シタル者アルトキハ郡區長ハ次点者ヲ以テ當撰者トナスヘシ

第五十二條 選舉ノ結果ハ郡區長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告スヘシ

第五十三條 當撰者ノ住所氏名ハ府縣知事ニ於テ之ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十四條 府縣會規則第十條第二項ニ依リ補欠員ヲ增撰スル時ハ其選舉ハ正議員

撰舉ト同會ニ於テ同時ニ之ヲ行フ但其投票函ハ正議員ノ投票函ト異ニスヘシ
第五十五條 一人ニシテ正議員補欠員ノ撰ニ併セ當ルトキハ之ヲ正議員トシ其次点者ヲ以テ補欠員當撰ト爲スヘシ

第五十六條 當撰ノ査定ニ不服アル關係者ハ當撰者ノ氏名告示ヨリ十日以内ニ府縣知事ニ其更正又ハ撰舉取消ノ申立ヲナスコトヲ得府縣知事ノ判定ニ服セサルモノハ二十日以内ハ控訴院ニ出訴スルコトヲ得但判決ハ終審トス

第五十七條 當撰者確定ノ後チ當撰者ノ被撰舉權ヲ有セサリシコトヲ發見スルトキハ府縣知事ハ其當撰ヲ取消シ其次点者ヲ以テ當撰トナスヘシ但此場合ニ於テハ其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十八條 撰舉全會ヲ取消シ更ニ撰舉ヲ命スルハ其撰舉ノ撰舉規定ニ違フ場合ニ限ル但シ規定ニ違フ所アルモ其事輕微ニシテ撰舉ノ結果ニ異動ヲ生セス又ハ其事ノ更正シ得ヘキモノハ取消ノ限ニアラス

撰舉全會ノ取消ハ府縣知事ヨリ内務大臣ニ具狀シ其認可ヲ經テ之ヲナスヘシ但其事由ヲ管内ニ告示スヘシ

第五十九條 納稅額年齢其他撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シ撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス其被撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ當撰者トナリタル者又ハ其資格ヲ有セサルモ其事ヲ告ケスシテ當撰者トナ

リタル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲナスコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ニ處ス其授與又ハ約束ヲ受ケタル者モ亦同シ

直接又ハ間接ニ金錢物品ヲ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シテ投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲナスコトヲ抑止シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

其授與又ハ約束ヲ受ケテ投票ヲナシ又ハ投票ヲナサ、ル者モ亦同シ
第六十一條 武器又ハ兇器ヲ携帯シテ撰舉會場ニ入りタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六十二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲メニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加、タル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上貳拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第六十三條 投票ヲ妨害スルノ目的ヲ以テ途中又ハ其他ニ於テ撰舉人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ撰舉人ヲ恐嚇スル者又ハ撰舉ニ關スル吏員若クハ立會人ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ扣留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ二月以上

一年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五拾圓以下ノ罰金ヲ附加ス
 第六十四條 多衆嘯集シテ前條ノ罪ヲ犯シタル者ハ六月以上二年以下ノ重禁錮ニ處ス其情ヲ知り嘯集ニ應シタル者ハ一月以上六月以下ノ輕禁錮ニ處ス
 第六十五條 當撰者第五十九條乃至第六十四條ノ刑ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス
 第六十六條 撰權ナク又ハ他人ノ氏名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲サントシ又ハ投票ヲナシタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス
 第六十七條 撰權ニ關スル犯罪ハ六ヶ月ヲ以テ期滿免除トス
 第六十八條 府縣會規則第十五條第十七條第十八條第十九條其他本規則ニ牴觸スル規定ハ總テ之ヲ廢止ス

附 則

明治二十二年ニ於テハ府縣知事ハ本規則規定ノ時期ニ拘ハラズ選舉人名原簿及ヒ人名簿ヲ調製セシメ規定ノ時期ニ至リ仍ホ之ヲ訂正セシムヘシ
 前項ノ名簿調製前議員ノ撰權ヲ要スル府縣ニ於テハ舊名簿ヲ用ユルコトヲ得ト雖モ其他ハ總テ本規則ニ依ルヘシ
 島司ヲ置キタル地ニ於テハ郡長ノ事務ハ島司ニ於テ之ヲ行フヘシ

◎府縣會議員定數規則

明治二十四年 六月九日

(勅令第五十九號)

朕府縣會議員定數規則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

○府縣會議員定數規則

第一條 府縣制第二條ニ依リ府縣會議員ノ數ヲ定ムルコト左ノ如シ
 管内ノ人口七十萬迄ハ議員三十人ヲ以テ定員トシ七十萬以上百萬迄ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増シ百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増ス
 第二條 前條定ムル所ノ議員ハ人口ニ應シテ郡市ニ割當撰權スルモノトス
 第三條 人口増減ノ爲メ議員ノ定數又ハ郡市ノ割當ニ異動ヲ生スルトキハ其改撰期ヲ待チ之ヲ増減ス可シ
 第四條 府縣制第二十七條ニ依リ府縣會ノ職權ニ屬スル事件ヲ市郡ニ分別シタル府縣ニ於テ本規則ニ依リ市若クハ郡ヨリ選出スヘキ議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ其定數ヲ十名ト爲スヘシ

○府縣會ノ議員定數規則ニ關スル人口計算方心得 (明治二十四年六月十一日) (內務省訓令第十號)
 本年六月敕令第五十九號ニ掲グル人口毎年十二月末日ノ現在人口ヲ云フ但在營在監ノ現役軍人ハ其營所又ハ定繫港所在地ノ人口ニ算入セス其本籍地ノ人口ニ加フヘキ儀ト心得ラルヘシ

朕郡制ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月十七日

内閣總理大臣
兼 內務大臣

伯爵 山縣有朋

○法律第三十六號

郡制

第一章 總則

第一條 郡ノ廢置分合及郡界ノ變更ハ法律ヲ以テ定ム

郡界ニ當ル市町村ノ境界ヲ變更スルトキハ郡界モ亦自ラ變更スルモノトス

第二條 郡内ノ町村ヲ變シテ市ト爲シ若ハ市ヲ變シテ郡内ノ町村ト爲スハ其市會町村會ノ申請ニ依リ內務大臣之ヲ定ム

第三條 第一條第二條ノ處分ニ付其財產處分ヲ要スルトキハ府縣參事會之ヲ議決スヘシ但特ニ法律ノ規定アルモノハ此限ニ在ラス

第二章 郡會

第四條 郡會ノ郡内町村ニ於テ撰舉シタル議員及大地主ニ於テ撰舉シタル議員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條 町村ニ於テ撰舉スヘキ郡會議員ノ數ハ每町村各一名トス

郡會議員ノ數二十名以上ニ及フトキハ二十名ヲ以テ制限トス此場合ニ於テ議員配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

郡會議員ノ數十名ニ滿タサルトキハ郡會ハ議決ニ依リ府縣知事ノ認可ヲ經其數ヲ増シテ十名ニ至ルコトヲ得其配當法ハ首トシテ人口ヲ標準トシ郡會ニ於テ議決シ府縣知事ノ認可ヲ受クヘシ

本條議員配當法ハ郡内ノ町村數ニ増減アリタル場合ノ外初回ハ三年間爾後ハ十二年以上ニ至リ町村ノ人口ニ著シキ増減アルニ非サレハ改正セサルモノトス

議員配當法ヲ改正スルトキハ議員全數ヲ改撰スヘシ

第六條 一町村ニ於テ一名以上ノ議員ヲ撰舉スルハ其村會之ヲ行ヒ數町村ニ於テ一名若ハ一名以上ノ議員ヲ撰舉スル其各町村會同シテ之ヲ行フヘシ

第七條 町村組合ニシテ組合會ヲ設ケ其町村一切ノ事務ヲ共同處分スルモノハ第四條乃至第六條ノ規定ニ關マテハ之ヲ一町村ト同視シ其組合會ニ於テ議員撰舉ヲ行フヘシ

第八條 大地主ハ町村ニ於テ撰舉スヘキ議員定數ノ外其定數三分ノ一互撰スルモノトス若端數ヲ生スルトキハ之ヲ棄却スヘシ

撰舉ヲ行フコトヲ得ヘキ大地主ニシテ其員數町村ニ於テ撰舉スヘキ議員定數ノ三分ノ一以下ナルトキハ其大地主ハ撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルモノトス但定期

改撰ノ期限内ニ於テハ大地主ノ員數減シテ三分ノ一以下ニ至ルト雖解散ノ爲改撰
スル場合ヲ除ク外ハ本項ヲ適用スルノ限ニ在ラス

第九條 大地主ハ郡内ニ於テ町村税ノ賦課ヲ受ケル所有地ニシテ地價總計一萬圓
以上ヲ有スル地主ヲ云フ

第十條 郡内町村公民ニシテ町村會ノ撰舉ニ參與スルコトヲ得ヘキ者及大地主中自
ラ撰舉ニ加ハルコトヲ得ヘキ者ハ總テ郡會ノ被選權ヲ有ス

往居ヲ移シタル爲町村ノ公民權ヲ失ヒタル者其住居同郡内ニ在リ且他ノ要件ヲ失
ハサルトキハ仍郡會ニ被選權ヲ有ス

左ニ掲ケル者ハ撰舉ニ係ルト否トヲ問ハス郡會議員タルコトヲ得ス

一 所屬府 東京府ハ警 縣并ニ其郡ノ官吏

二 其郡ニ有給吏員

三 神官及諸宗ノ僧侶又ハ教師

四 小學校教員

前項ノ外ノ官吏ニシテ當選ニ應ジ又ハ第八條第二項ノ權利ヲ行ハントスルトキハ
本屬長官ノ許可ヲ受ケルベシ

第十一條 大地主ニシテ撰舉權ヲ有スルハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル男子ニ限ル
年齢二十歳未満ノ者及治産ノ禁ヲ受ケタル者ハ撰舉權ヲ有セサルモトス

大地主ハ撰舉權ハ身代限處分中又ハ租稅滯納處分中又ハ公權ノ剝奪若ハ停止ヲ附
加スルキ重輕罪ノ爲裁判上ノ訊問若ハ拘留中ハ之ヲ停止ス

本條ノ規定ハ撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タル者ニモ適用ス

第十二條 撰舉權ヲ有スル大地主ハ代人ヲ以テ撰舉ヲ行フコトヲ得陸海軍ノ現役ニ服
スル者ハ代人ヲ以テスルニ非サレハ撰舉ヲ行フコトヲ得ス

代人ハ帝國臣民ニシテ公權ヲ有シ町村制ニ定メタル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシ
テ數人ノ代理ヲ爲スコトヲ得ス且代人ハ委任狀ヲ以テ代理ノ證トスヘシ

本條ノ規定ハ第八條第三項ノ權利ヲ行フ場合ニモ適用スルモノトス但其代人ハ郡
會ニ被撰權ヲ有スル者ニシテ郡會議員タラサル者ニ限ル

第十三條 郡會議員ハ名譽職トス

町村ニ於テ撰舉シタル議員ノ任期ハ六年トシ毎三年其半數ヲ改撰ス若其二數二分
シ難キトキハ初回ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム

初回ニ於テ解任スヘキ者ハ郡會議長郡會ニ於テ自ラ抽籤シテ之ヲ定ム

大地主ニ於テ撰舉シタル議員ノ任期ハ三年トシ毎三年其全數ヲ改撰ス

解任ノ議員ハ再撰セラハルコトヲ得

第十四條 議員中闕員アルトキハ遅クトモ六箇月以内ニ補闕撰舉ヲ行フヘシ
補闕議員ハ其前任者ノ殘任期間在職スルモトス

第十五條 郡長ハ郡會議員改撰前撰舉權アル大地主ノ名簿ヲ製シ之ニ其資格ヲ記載シ其氏名ヲ告示スヘシ

關係者ニ於テ大地主名簿ノ正否ニ關シ異議アルトキハ告示後二十一日以内ニ郡長ニ申立テ其郡長ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

大地主名簿ニ登録セラレサル者ハ撰舉ニ參與シ及第八條第二項ニ依リ郡會議員タルコトヲ得ス

大地主名簿ハ次ノ定期改撰前ニ行フヘキ補闕撰舉ニモ亦適用スルモノトス但大地主ノ資格ヲ失ヒ又ハ撰舉權ノ要件ヲ失ヒタル者ハ之ヲ削除シ其氏名ヲ告示スヘシ其處分ニ對シ異議アルトキハ本條第二項ノ例ニ依ル

定期改撰ノ期限内新ニ撰舉權ヲ得又ハ撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルノ權利ヲ得タル者ハ解散ノ爲改撰スル場合ヲ除ク外期限内ニ於テ其名簿ニ登録セサルモノトス

第十六條 郡會議員ノ撰舉ハ郡長ノ告示ニ依リ之ヲ行フヘシ其告示ハ週グトモ撰舉ノ日ヨリ七日前ニ之ヲ發スヘシ

第十七條 撰舉ノ順序ハ先ツ町村之ヲ行ヒ次ニ大地主之ヲ行フヘシ町村ニ於テ行フ撰舉ハ町村制第四十六條ノ規定ニ從フヘシ但數町村會會同シテ行

フ撰舉ハ郡長又ハ郡長ノ指定スル町村長ヲ撰舉會長トシ之ヲ行フヘシ大地主ニ於テ行フ撰舉ハ郡長ヲ撰舉會長トシテ之ヲ行フ

第十八條 大地主ニ於テ撰舉ヲ行フトキハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一 郡長ハ遅トモ撰舉ノ日ヨリ七日前撰舉人ニ招集狀ヲ發シ撰舉ノ場所日時ヲ告知スヘシ

二 撰舉掛ハ撰舉會長ニ於テ臨時ニ撰舉人中ヨリ選任シタル立會人二名若ハ四名及撰舉會長ヲ以テ之ヲ組織ス

撰舉會長ハ撰舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス

三 撰舉開會中ハ撰舉人ノ外何人タリトモ撰舉會場ニ入ルコトヲ得ス

四 投票ハ撰舉人自ラ撰舉會長ノ面前ニ於テ之ヲ投票函ニ投入ス投票ハ匿名トス

五 左ノ投票ハ之ヲ無効トス

一 記載セル人名ノ讀ミ難キモノ

二 被選人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ

三 被撰權ナキ人名ヲ記載スルモノ

四 被選人氏名ノ外他ノ文字ヲ記入スルモノ但爵位職業身分住所又ハ敬稱ハ

此限ニ在ラス

本項一ヨリ三ニ至ルノ場合ニ於テ票中他ニ別記ノ被撰人ニ付テハ仍其効アリ

投票ノ受理並ニ効力ニ關スル事項ハ撰舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ撰舉會長之ヲ決シ以テ之ヲ行フハス

六 有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當撰トス投票ノ數相同キモノハ年長者ヲ取リ年齡相同キトキハ撰舉會長自ラ抽籤シテ其當撰ヲ定ム

七 撰舉掛ハ撰舉録ヲ製シテ撰舉ノ顛末ヲ記録シ撰舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シテ署名スヘシ

八 投票ハ撰舉ノ効力確定スル迄之ヲ保存スヘシ

第十九條 撰舉ヲ終リ當撰人定マレタルトキハ町村會ニ於テ行フ撰舉ニ在テハ町村長數町村會同シテ行フ撰舉及大地主ニ於テ行フ撰舉ニ在テハ撰舉會長直ニ當撰人ニ通知シ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告スヘシ

當撰人當撰ノ通知ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ其當選ヲ承諾スルヤ否ヲ郡長ニ届出ヘシ

一人ニシテ數箇所ノ議員ニ當リタルトキハ同期限内ニ何レノ撰舉ニ應スヘキコト及撰舉ニ依ラスシテ郡會議員タルヘキ大地主ニシテ町村ノ撰舉ニ當撰シタルトキハ其撰舉ニ應スルコト又ハ應セサルコトヲ同期限内ニ郡長ニ届出ヘシ

前三項ノ届出ヲ其期限内ニ爲ササルトキハ撰舉ヲ辭スル者ト視做スヘシ

町村ノ撰舉ニ應ズル大地主ハ第八條第二項ノ權利ヲ有スル者ト雖二重ニ其權ヲ行フコトヲ得サルモノトス

第三十條 議員ノ當撰ヲ辭シ又ハ承諾ノ届出ヲ爲ササル者アルトキハ郡長ハ七日以内ニ更ニ撰舉ヲ行ヒ又ハ町村長ニ命ジテ撰舉ヲ行ハシムヘシ

第二十一條 當撰人確定シタルトキハ郡長ハ直ニ當撰證書ヲ付與シ及管内ニ告示スヘシ

第二十二條 撰舉人撰舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ撰舉ノ日ヨリ十四日以内ニ之ヲ郡長ニ申立ツルコトヲ得

第二十三條 當撰人其當撰ノ際資格ノ要件ヲ有セザリシコト發覺スルトキハ其當撰ハ無効トス

當撰人當撰後資格ノ要件ヲ失フトキハ議員ノ職ヲ失フモノトス

第二十四條 郡會ニ於テ其議員中議員ノ資格ヲ有セザル者アルコトヲ發見スルトキハ其議決ヲ以テ之ヲ郡長ニ通知スヘシ

第二十五條 郡會議員被撰權ノ有無及撰舉ノ効力ハ郡參事會之ヲ裁決ス

郡參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ府縣參事議會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二十六條 郡會ノ議決スヘキ事件左ノ如シ

- 一 郡ノ歳入出豫算ヲ定ムル事
 - 二 決算報告ヲ認定スル事
 - 三 郡有不動産ノ賣買交換讓渡讓受並ニ質入書入ノ事
 - 四 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
 - 五 郡有財産ノ管理及營造物ノ維持方法ヲ定ムル事
- 其他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項ヲ議決ス
- 第二十七條 郡會ハ其權限ニ屬スル事件ヲ郡參事會ニ委任スルコトヲ得
 - 第二十八條 郡會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ
- 郡會ハ其郡ノ全部又ハ一部ノ公益ニ關スル事件ニ付郡長又ハ府縣知事ニ建議スルコトヲ得
- 第二十九條 郡會議員ハ撰舉人ノ指示若ハ委囑ヲ受クヘカラサルモノトス
 - 第三十條 郡會ハ郡長ヲ以テ議長トス
- 郡會ハ改選後ノ初會ニ於テ議長代理者ニ名ヲ互選スヘシ
- 議長及議長代理者共ニ故障アルトキハ臨時議長代理ヲ互選スヘシ
- 第三十一條 郡長若ハ特ニ郡長ノ委任ヲ受ケタル郡吏員ハ郡會ノ議事ニ參與スルコトヲ得 議決ニ加ハルコトヲ得ス

- 前項ノ列席者ニ於テ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ何時ニテモ之ヲ許スヘシ
- 第三十二條 郡會ハ毎年一回通常會ヲ開クヘシ其他必要アルトキハ其事件ニ限リ臨時會ヲ開クコトヲ得
- 郡會ハ郡長之ヲ招集ス若議員三分ノ一以上ニ於テ臨時ノ招集ヲ請求スルトキハ之ヲ召集スヘシ招集ハ開會ノ日ヨリ十四日前迄ニ告示スヘシ但急施ヲ要スル場合ハ此限ニ在ラス
- 郡會ハ郡長之ヲ開閉ス
- 第三十三條 郡會ハ議員半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開キ議決ノ爲スコトヲ得ス但同一ノ議事ニ付開會二回ニ至ルモ議員猶其半數ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラム
 - 第三十四條 郡會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
 - 第三十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ會議ノ承諾ヲ經ルニ非サレハ郡會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス
 - 第三十六條 郡會ニ於テ撰舉ヲ行フトキハ第十八條ヨリ六ニ至ル規定ニ依ルヘシ
 - 第三十七條 郡會ノ會議ハ公開ス但左ノ場合ハ此限ニ在ラス
- 一 郡長ヨリ傍聽禁止ノ要求ヲ受ケタルトキ
 - 二 議長又ハ議員三名以上ノ發議ニ由リ傍聽禁止ヲ可決シタルトキ議長又ハ議員

ノ發議ハ討論ヲ用キスシテ其可否ヲ決スヘシ
第三十八條 議長ハ議事ノ順序ヲ定メ會議及選舉ノ事ヲ總理シ其日ノ會議ヲ開閉シ
並ニ延會シ議場ノ秩序ヲ保持ス

第三十九條 議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用キ及他人ノ身上ニ涉リ言論スルコトヲ得ス
第四十條 會議中此法律若ハ議事規則ニ違ヒ其他議場ノ秩序ヲ紊ル議員アルトキハ
議長ハ之ヲ警戒シ又ハ制止シ又ハ發言ヲ取消サシム命ニ從ハサルトキハ議長ハ當
日ノ會議ヲ終ルマテ發言ヲ禁止シ又ハ議場ノ外ニ退去セシムヘシ若強抗ニ涉ル者
アルトキハ警官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
議場騷擾ニシテ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコト
ヲ得

第四十一條 會議ノ傍聽人公然可否ヲ表シ又ハ喧騒ニ涉リ其他議事ノ妨害ヲ爲ス者
アルトキハ議長ハ之ヲ制止シ若命ニ從ハサルトキハ之ヲ退場セシメ必要ナル場合
ニ於テハ警官ノ處分ヲ求ムルコトヲ得
傍聽席騷擾ナルトキハ議長ハ總テノ傍聽人ヲ退場セシムルコトヲ得

第四十二條 郡長若ハ特ニ其委任ヲ受ケタル吏員及議員ハ議場ノ秩序ヲ紊リ又ハ議
場ノ妨害ヲ爲ス者アルトキハ議長ノ注意ヲ喚起スルコトヲ得
第四十三條 郡會ニ書記ヲ置キ議長ニ隸屬シテ庶務ヲ掌理セシム

書記ハ議長之ヲ撰任ス但郡吏員ヲシテ之ヲ兼キシムルコトヲ得

第四十四條 郡會ハ書記ナルテ議事録ヲ製シ議決及選舉ノ頗末並ニ出席議員ノ氏名
ヲ記録セシムヘシ議事録ハ議長及議員二名以上之ニ署名スヘシ其議員ハ會議ノ前
郡會ニ於テ豫メ之ヲ定メ議事録中ニ其氏名ヲ記載シ置クヘシ

第四十五條 郡會ハ議事規則及傍聽人取締規則ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ受ケテ之ヲ
施行スヘシ

第三章 郡參事會吏員及委員

第四十六條 郡ニ郡參事會ヲ置キ郡長及名譽職參事會會員四名ヲ以テ之ヲ組織ス
名譽職參事會會員中三名ハ郡會ニ於テ其會員中ヨリ互選シ一名ハ府縣知事ニ於テ郡
會議員若ハ郡内町村ノ公民中ヨリ選任スヘシ

第四十七條 郡參事會ハ郡長ヲ以テ議長トス議長故障アルトキハ會員ニ於テ臨時議
長代理ヲ互選スヘシ

第四十八條 郡會ハ每通常會ニ於テ郡會ノ互選シタル名譽職參事會會員ノ補充員三名
ヲ互選シ其名譽職參事會會員ノ副員アルトキハ郡長ニ於テ補充員中投票多數ノ順次
ニ依リ之ヲ補充スヘシ但其既ニ補充シタル者ハ前任者ノ任期中在職スルモノトス

第四十九條 名譽職參事會會員ノ任期ハ議員ノ任期ニ從フ但任期限ノ後ト雖モ後任
者就職ノ日マテ在職スルモノトス

郡會ノ互選シタル名譽職參事會員ハ補充員ヲ以テ其闕員ヲ補充シ仍闕員ヲ生シタル場合ニ於テハ二箇月以内ニ臨時其選舉ヲ行フヘシ

第五十條 郡參事會ノ職務權限左ノ如シ

- 一 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其委任ヲ受ケタモノヲ議決スル事
 - 二 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ臨時急施ヲ要シ郡長ニ於テ郡會ヲ招集スルノ暇ナシト認ルトキ郡會ニ代テ議決ヲ爲ス事
 - 三 郡會ノ定メタル方法ノ範圍内ニ於テ郡有財産ノ管理又ハ營造物ノ維持ニ關シ必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
 - 四 郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ノ次第順序其他必要ナル事件ニ付議決ヲ爲ス事
 - 五 郡長其他官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ述フル事
 - 六 郡長ヨリ發スル郡會議案ニ付郡長ニ意見ヲ述ヘ及會議ニ報告スル事
 - 七 臨時必要アルトキ郡ノ出納ヲ檢查スル事
- 其他法律命令ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事務ヲ處理ス
- 第五十一條 郡參事會、郡長之ヲ招集ス
- 會員半數以上ノ請求アルトキハ郡長ハ郡參事會ヲ招集スヘシ
- 第五十二條 郡參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サス
- 第五十三條 郡參事會ハ郡長又ハ其代理者及會員半數以上出席スルニ非サレハ會議

ヲ開キ議決ヲ爲スコトヲ得ス

郡參事會ノ議決ハ過半數ニ依ル可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル
議決ノ事件ハ之ヲ議事録ニ登記シ議長及名譽職參事會員二名以上之ニ署名スヘシ

第五十四條 郡參事會員ハ自己及其父母兄弟若ハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付郡參事會ノ議事ニ參與シ及議決ニ加ハルコトヲ得ス

前項ノ規定ノ爲出席ノ參事會員減少シテ前條第一項ノ數ヲ得サルトキハ郡長ハ補充員ヲ以テ臨時之ニ充テ仍其數ヲ得サルトキハ郡會議員ニシテ該事件ニ關係ナキ者ノ内ヨリ臨時ニ指名シ名譽職參事會員ノ不足ヲ補充シテ第四十六條ノ定數ニ満たシムヘシ

第五十五條 町村制ノ規定ニ依リ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ二郡以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其郡長ノ具狀ニ依リ府縣知事ニ於テ其事件ヲ管理スヘキ郡參事會ヲ指定スヘシニ府縣以上ノ町村ニ交渉スルモノアルトキハ其府縣知事ノ具狀ニ依リ内務大臣ニ於テ之ヲ指定スヘシ

第五十六條 郡長ハ郡會及郡參事會ノ議決ヲ施行シ及郡有ノ財産及營造物ヲ管理シ並ニ郡ノ費用ヲ以テ支辨スル工事ヲ執行ス

郡ニ於テ他人ニ對シ義務ヲ負擔スヘキ證書及委任狀ニハ郡長ノ外名譽職參事會員二名以上之ニ署名捺印スヘシ

前項ノ文書中郡會又ハ參事會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ其議決ヲ經タルモノハ其旨ヲ記入スヘシ

第五十七條 郡會ニ於テ名譽職參事會員ヲ選舉セス又ハ參事會成立セス又ハ招集ニ應セサルトキハ參事會成立シ又ハ招集ニ應ズル迄郡長郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得

非常事變ニ際シ郡參事會ヲ招集スルノ暇ナク又ハ名譽職參事會員ノ出席半數以上ニ至ラサルトキハ郡長ハ郡參事會ノ權限ニ屬スル事件ヲ專決處分スルコトヲ得本條ノ處分ハ次回ノ郡會々議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第五十八條 郡ハ府縣稅ヲ以テ支辨スル郡吏員ノ外郡會ノ議決ニ依リ郡ノ費用ヲ以テ郡有財產又ハ營造物ノ管理若ハ土木工事ニ必要ナル有給郡吏員ヲ置クコトヲ得但其郡吏員ハ他ノ郡吏ニ準シ府縣知事ニ於テ之ヲ任免監督ス

前項郡吏員給料手當退隱料等ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル其身元保證金ヲ要スルトキ其金額ヲ定ムルモ亦同シ

第五十九條 郡長ハ郡會ノ議決ヲ經テ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置キ郡事務ノ一部ヲ調査セシメ又ハ郡有財產及營造物ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得委員ハ郡會ニ於テ之ヲ選舉ス其撰舉ノ方法及任期ハ郡會ノ議決スル所ニ依ル委員ハ名譽職トス

第四章 郡ノ會計

第六十條 郡有財產及營造物管理ノ費用郡會郡參事會及委員ノ費用第五十八條ノ郡吏員ノ給料退隱料其他諸給與及法律勅令ニ依リ郡ノ負擔ト定ムル事件ノ費用ハ其郡ニ於テ之ヲ支辨スヘシ

第六十一條 郡會議員名譽職參事會員及委員ニハ旅費及日當ヲ給スルコトヲ得但日當ハ一日五十錢ヲ超ユルコトヲ得ス

第六十二條 郡ノ支出ニ充ツル費用ハ郡有財產ヨリ生スル收入其他雜收入ヲ以テ充ルモノ、外ハ郡内各町村ニ於テ分賦ス各町村分賦ノ割合ハ各町村前年度ノ直接國稅縣稅ノ徵收額ニ據ル

各町村分賦ノ額ハ各町村ニ於テ之ヲ町村ノ豫算ニ編入シ町村稅トシテ徵收シ其總額ヲ郡金庫ニ納ムヘシ

第六十三條 郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ利益アル土木事業ヲ起ストキハ郡會ノ議決ニ依リ該部分ノ町村ニ對シ通常分賦額ノ外ハ其利益ノ厚薄ニ應シ特ニ夫役現品ヲ増課スルコトヲ得

第六十四條 郡ハ天災事變ノ爲已ムヲ得サル支出又ハ其郡ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歲入ヲ増加スルトキハ郡内町村ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限リ勅令ノ定ムル所ニ依リ郡會ノ議決ヲ以テ郡債ヲ起スコトヲ得

郡債ヲ起スノ議決ヲ爲ストキ併セテ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ムヘシ
郡債償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々ノ償還歩合ヲ定メ起債ノ時ヨリ三十年以内ニ還了スヘシ

歳入出豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲必要ナル一時ノ借入金ニシテ其年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキモノハ本條ノ例ニ依ルノ限ニ在ラス但參事會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

第六十五條 郡長ハ毎年其翌年度ニ係ル歳入出豫算ヲ調製スヘシ但郡會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

豫算ハ郡會ノ議決ニ付スルノ前郡參事會ノ審査ニ付スヘシ若郡長ト郡參事會ト意見ヲ異ニスルトキハ郡長ハ參事會ノ意見ヲ豫算ニ添ヘ郡會ニ提出スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ニ付テモ亦同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算調製ノ式ヲ定メ並ニ費目流用ニ關スル規定ヲ設ルコトヲ得

第六十六條 豫算ハ毎年郡會ノ議決ヲ取り之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ郡慣行ノ公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ追加又ハ臨時ノ豫算ヲ議決シタル場合ニ於テモ亦同シ

郡ノ費用ヲ以テ支辨スル事業ニシテ數年ヲ期シテ施行スヘキモノ又ハ數年ヲ期シテ其費用ヲ支出スヘキモノハ郡會ノ議決ヲ以テ其年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

豫算ヲ郡會ニ提出スルトキハ郡長ハ併セテ其郡有財産表ヲ提出スヘシ

第六十七條 歳入出豫算中ニ豫備ヲ設クヘシ豫備費ハ郡長ニ於テ郡參事會ノ議決ヲ經テ己ムヲ得サル豫算外ノ支出又ハ豫算超過ノ支出ニ充ツルコトヲ得但郡會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第六十八條 郡ノ收支命令ハ郡長之ヲ發スヘシ

第六十九條 會計事務ヲ管理スル郡役所會計吏ハ前條ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス及其命令アルモ支出ノ豫算ナキカ又ハ豫備費支出及費目流用ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第七十條 郡ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ檢査シ及毎年少クトモ一回臨時檢査ヲ爲スヘシ檢査ハ郡長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時檢査ニハ郡參事會員一名以上ノ立會ヲ要ス

第七十一條 決算ハ會計事務ノ管理スル郡役所會計吏ニ於テ會計年度後三箇月以内ニ之ヲ郡長ニ提出シ郡長ハ郡參事會員ヲシテ之ヲ檢査セシメ次回ノ通常郡會ノ認定ニ付スヘシ

決算報告書並ニ之ニ關スル郡會ノ議決ハ郡長ヨリ之ヲ府縣知事ニ報告シ並ニ決算ハ郡慣行公告式ニ依リ其要領ヲ告示スヘシ

第五章 監督

第七十二條 郡ノ行政ハ第一次ニ於テ府縣知事之ヲ監督シ第二次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス

第七十三條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外郡ノ行政ニ關スル府縣知事又ハ府縣參事會ノ處分若ハ裁決不服ナル者ハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得

郡ノ行政ニ關スル訴願ハ其事件ノ處分若ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ニ提出スヘシ

此法律ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事ノ處分又ハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴スヘシ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得ヘキ場合ニ於テハ内務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス
第七十四條 監督官廳ハ郡行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯乱滯塞セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督官廳ハ之ヲ爲メ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ并ニ實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權ヲ有ス

第七十五條 郡會又ハ郡參事會ノ議決其權限ヲ越エ法律命令ニ背キ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ郡長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ直ニ府縣知事ノ裁決ヲ請フヘシ其權限ヲ越エ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣知事ノ裁決ニ不服ナル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十六條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ法律命令又ハ慣行ニ依テ郡ノ負擔ニ屬スル行政上又ハ公益上必要ノ費用ヲ否決シ又ハ議決スト雖必要ノ給需ヲ缺クトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但府縣知事ハ原案金額ノ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得
第七十七條 郡會召集ニ應セス又ハ成立セサルトキハ郡長ハ府縣知事ノ指揮ヲ請ヒ處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第七十八條 郡會又ハ郡參事會ニ於テ其議決スヘキ議案ヲ議決セサル場合ニ於テ其專緊急ヲ要スルトキハ郡長ハ府縣知事ニ具狀シ其指揮ヲ請ヒ原案ヲ執行スルコトヲ得但其議決セサル議案歳入出豫算ニ依リ府縣知事ニ於テ原案金額ヲ不相當ト認ムルトキハ原案金額以内ニ於テ適當ノ金額ヲ定メ指揮スルコトヲ得

第七十九條 府縣知事ハ郡ノ歳入出豫算中不適當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之

ヲ削除シ及其郡ノ資力ニ比シ不當ノ支出ト認ムル費目アルトキハ之ヲ削除若ハ減殺スルコトヲ得此場合ニ於テハ收入科目中ニ就キ之ニ相當スル收入額ヲ減殺スヘシ

第八十條 郡會ハ内務大臣之ヲ解散セシムルコトヲ得此場合ニ於テハ三個月以内ニ議員ヲ改撰スヘシ

前項解散ノ場合ニ於テハ名譽職參事會員モ亦解職スルモノトス
郡委員ハ郡會ノ解散ニ依リ解職スルノ限ニ在ラス但改撰郡會ノ議決ヲ以テ之ヲ改撰スルコトヲ得

郡會解散ノ後改撰終了ニ至ル迄ノ間急施ヲ要ムル事件アルトキハ郡長之ヲ專決處分スルコトヲ得

前項ノ處分ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ報告スヘシ

第八十一條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 新ニ郡債ヲ起シ又ハ其額ヲ増加シ若ハ償還ノ方法ヲ變更スル事

第八十二條 左ノ事件ニ關スル郡會ノ議決ハ府縣知事ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

一 郡有不動産ノ賣却讓渡並ニ質入書入ノ事

二 第六十三條ニ依リ郡内ノ或ル部分ニ對シ特ニ夫役現品ヲ増課スル事

三 第六十六條第二項ニ依リ繼續費ヲ定メ及其年期ヲ議決ヲ變更スル事
第六章 附則

第八十三條 郡内總町村ノ共有ニ屬スル財産及營造物ハ郡内總町村ノ聯合又ハ組合ヲ以テ設立セル小學校ヲ除クノ外此法律施行ノ日ヨリ郡ノ所有ニ歸シ其權利義務トモ同時ニ郡ニ移ルモノトス

第八十四條 府縣參事會及行政裁判ヲ開設スル迄ノ間此法律ニ依リ府縣參事會ニ屬スル職務ハ府縣知事、行政裁判所ニ屬スル職務ハ現行ノ行政裁判手續ニ從ヒ控訴院ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十五條 嶋司ヲ置ケル嶋嶼ニ於テハ別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第八十六條 此法律ニ依リ始メテ議員ヲ撰舉スルニ付郡會及郡參事會ノ職務ハ郡長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第八十七條 町村制施行ノ爲ニ定ムル直接税ノ種類ハ此法律ノ施行ニ付テモ亦適用ス

第八十八條 此法律施行ノ後ハ町村制第二百六條第三ニ定ムル附加稅徵收ノ許可

ハ地租七分ノ一、五(十四分ノ三)ヲ超過スルトキ之ヲ要スルモノトス

第八十九條 此法律ハ町村制ヲ施行シタル各府縣ニ施行スルモノトス其施行ノ時期ハ府縣知事ノ昇申ニ依リ内務大臣之ヲ定ム

第九十條 明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法其他此法律ニ牴觸スル成規ハ此法律施行ノ地ニ於テ其施行ノ時期ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第九十一條 內務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令ヲ發布スヘシ

朕地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ増進スルコトヲ欲シ隣保團結ノ舊慣ヲ存重シテ益之ヲ擴張シ更ニ法律ヲ以テ郡市及町村ノ權義ヲ保護スルノ必要ヲ認メ茲ニ市制及町村制ヲ裁可シテ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治廿一年四月十七日 內閣總理大臣

伯爵 伊藤博文

內務大臣 伯爵 山縣有朋

○法律第壹號

町村制

第一章 總則

第一條 町村及其區域

第一條 此法律ハ市制ヲ施行スル地ヲ除キ總テ町村ニ施行スルモノトス

第二條 町村ハ法律上一個人ト均ク權利ヲ有シ義務ヲ負擔シ凡町村公共ノ事務ハ官ノ監督ヲ受ケテ自ラ之ヲ處理セルモノトス

第三條 凡町村ハ往來ノ區域ヲ存シテ之ヲ變更セス

但將來其變更ヲ要スルコトアルトキハ此法律ニ準據ス可シ

第四條 町村ノ廢置分合ヲ要スルトキハ關係アル市町村會及郡參事會ノ意見ヲ聞キ府縣參事會之ヲ議決シ內務大臣ノ許可ヲ受ケ可シ

町村境界ノ變更ヲ要スルトキ、關係アル町村會及地主ノ意見ヲ聞キ郡參事會之ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス

町村ノ資力法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪ヘス又ハ公益上ノ必要アルトキハ關係者ノ異議ニ拘ハラス町村ヲ合併シ又ハ其境界ノ變更スルコトアルヘシ

本條ノ處分ニ付其町村ノ財產處分ヲ要スルトキハ併セテ之ヲ議決スヘシ

第五條 町村ノ境界ニ關スル爭論ハ郡參事會之ヲ議決ス其數郡ニ涉リ若クハ市ノ境界ニ涉ルモノハ府縣參事會之ヲ議決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルモノハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二條 町村住民及其權利義務

第六條 凡町村內ニ住居ヲ占ムル者ハ總テ其町村住民トス

凡町村住民タル者ハ此ノ法律ニ從ヒ公共ノ營造物前町村有財產ヲ共用スルノ權利ヲ有シ及町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ有スルモノトス

但特ニ民法上ノ權利及義務ヲ有スルモノアルトキハ此限ニ在ラス

第七條 凡帝國臣民ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子二年以來(一)町村ノ住民トナリ
 (二)其町村ノ負擔ヲ分任シ及(三)其町村内ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額
 二圓以上ヲ納ムル者ハ其町村公民トス其ノ公費ヲ以テ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經
 ル者ハ此限ニ在ラス

但場合ニ依リ町村會ノ議決ヲ以テ本條ニ定ムルニケ年ノ制限ヲ特免スルコトヲ
 得此法律ニ獨立ト稱スルハ滿二十五歲以上ニシテ一戸ヲ構ヘ且治産ノ禁ヲ受サ
 ル普チ云フ

第八條 凡町村公民ハ町村ノ撰舉ニ參與シ町村ノ名譽職ニ撰舉セララルノ權利アリ
 又其名譽職ヲ擔任スルハ町村公民ノ義務ナリトス

- 左ノ理由アルニ非サレハ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職スルコトヲ得ル
- 一 疾病ニ罹リ公務ニ堪ヘサル者
- 二 營業ノ爲メニ常ニ其町村内ニ居ルコトヲ得サル者
- 三 年齡滿六十歲以上ノ者
- 四 官職ノ爲メニ町村ノ公務ヲ執ルコトヲ得サル者
- 五 四年間無給ニシテ町村吏員ノ職ニ任シ爾後四年ヲ經過セサル者及六年間町村
 議員ノ職ニ居リ爾後六年ヲ經過セサル者
- 六 其他町村會ノ議決ニ於テ正當ノ理由アリト認ムル者

前項ノ理由ナクシテ名譽職ヲ拒辭シ又ハ任期中退職シ若クハ無任期ノ職務ヲ少ク
 モ三年間擔當セス又ハ其職務ヲ實際ニ執行セサル者ハ町村會ノ議決ヲ以テ三年以
 上六年以下其町村公民タルノ權ヲ停止シ且同年期間其負擔ス可キ町村費ノ八分一
 乃至四分一ニ増課スルコトヲ得

前項町村會ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル
 者ハ府參事會ニ訴願シ其府參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行行裁判所ニ出訴ス
 ルコトヲ得

第九條 町村公民タル者第七條ニ掲載スル要件ノ一ヲ失フトキハ其公民タルノ權ヲ
 失フモノトス

町村公民タル者身代限ノ處分中又ハ公權剝奪若クハ停止ヲ附加ス可キ重輕罪ノ爲
 メ裁判上ノ訊問若クハ拘留中又ハ租稅滯納處分中其公民タルノ權ヲ停止ス
 陸海軍現役ニ服スル者ハ町村公務ニ參與セサルモノトス
 町村公民タル者ニ限リテ任ス可キ職務ニ在ル者本條ノ場合ニ當ルトキハ其職務ヲ
 解ク可キモノトス

第三款 町村條例

第十條 町村ノ事務及町村住民ノ權利義務ニ關シ此法律中ニ明文ナク又ハ特例ヲ設
 クルコトヲ許セル事項ハ各町村ニ於テ特ニ條例ヲ設ケテ之ヲ規定スルコトヲ得

町村ニ於テハ其町村ノ設置ニ係ル營造物ニ關シ規則ヲ設クルコトヲ得
町村條例及規則ハ法律命令ニ牴觸スルコトヲ得ス且之ヲ施行スルトキハ地方慣行
ノ公告式ニ依ル可シ

第二章 町村會

第一款 組織及選舉

第十一條 町村會議員ニ其ノ町村ノ選舉人其被選舉權アル者ヨリ之ヲ選舉ス其定員
ハ其町村ノ人口ニ準シ左ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム但何町村條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減
スルコトヲ得

- 一 人口千五百未満ノ町村ニ於テハ 議員八人
- 一 人口千五百以上五千未満ノ町村ニ於テハ 議員十二人
- 一 人口五千以上壹萬未満ノ町村ニ於テハ 議員十八人
- 一 人口一萬以上二萬未満ノ町村ニ於テハ 議員二十四人
- 一 人口二萬以上ノ町村ニ於テハ 議員三十人

第十二條 町村公民(第七條)ハ總テ選舉權ヲ有ス但其公民權ヲ停止セララル者(第
八條第三項、第九條第二項)及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス
凡内國人ニシテ公權ヲ有シ直接町村稅ヲ納ムル者其額町村公民ノ最多ク納稅スル
者三名中ノ一人ヨリモ多キトキハ第七條ノ要件ニ當ラスト雖モ選舉權ヲ有ス但公

民權ヲ停止セララル者及陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ此限ニ在ラス

法律ニ從テ設立シタル會社其他法人ニシテ前項ノ場合ニ當ルトキ亦同シ

第十三條 選舉人ハ分テ二級ト爲ス

選舉人中直接町村稅ノ納額多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ル可
キ者ヲ一級トシ爾餘ノ選舉人ヲ二級トス
一級ニ級ノ間納稅額兩級ニ跨ル者アルトキハ一級ニ入ル可シ又兩級ノ間ニ同額ノ
納稅者二名以上アルトキハ其町村内ニ住居スル其數ノ多キ者ヲ以テ一級ニ入ル若
シ住居ノ年數ニ依リ難キトキハ年齡ヲ以テ年齢ニ依リ難キトキハ町村長抽籤
ヲ以テ之ヲ定ム可シ選舉人每級各別ニ議員ノ半數ヲ選舉ス其被選人ハ同級内ノ者
ニ限ラス同級ニ通シテ選舉セラル、コトヲ得

第十四條 特別ノ事情アリテ前條ノ例ニ依リ難キ町村ニ於テハ町村條例ヲ以テ別ニ
選舉ノ特例ヲ設クルコトヲ得

第十五條 選舉權ヲ有スル町村公民(第十二條)第一項ハ總テ被選舉權ヲ有ス

左ニ掲グル者ハ町村會議員タルコトヲ得ス

- 一 所屬府縣郡ノ官吏
- 二 有給ノ町村吏員
- 三 檢察官及警察官吏

四 神官僧侶及其他諸宗教師
五 小學校教員

其他官吏ニシテ當選シ之ニ應セントスルトキハ所屬長官ノ許可ヲ受ク可シ
代言人ニ非ラスシテ他人ノ爲メニ裁判所又ハ其他ノ官廳ニ對シテ事ヲ辨スルヲ以
テ業ト爲ス者ハ議員ニ選舉セラル、コトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村會議員タルコトヲ得ス其同時ニ選舉セラ
レタルトキハ投票ノ數ニ依テ其多キ者一人ヲ當選トシ若シ同數ナレハ年長者ヲ當
選トス其時ヲ異ニシテ選舉セラレタル者ハ後者議員タルコトヲ得ス

町村長若クハ助役トノ間父子兄弟タルノ緣故アル者ハ之ト同時ハ町村會議員タル
コトヲ得ス若シ議員トノ間ニ其緣故アル者町村長若クハ助役ニ選舉セラレ認可ヲ
受クルトキハ其緣故アル議員ハ其職ヲ退ク可シ

第十六條 議員ハ名譽職トス其任期ハ六年トシ毎三年各級ニ於テ其半數ヲ改撰ス若
シ各級ノ議員二分シ難キトキハ初因ニ於テ多數ノ一半ヲ解任セシム初回ニ於テ解
任スヘキ者ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム
退任ノ議員ハ再撰セララルコトヲ得

第十七條 議員中關員アルトキハ每三年定期改撰ノ時ニ至リ同時ニ補闕選舉ヲ行フ
可シ但シ一定員三分ノ一以上關員アルトキ又ハ町村會町村長若クハ郡長ニ於テ臨

時補缺ヲ必要ト認ムルトキハ定期前ト雖モ其補缺選舉ヲ行フ可ヘシ
補缺議員ハ前任者ノ殘任期間在職スルモノトス

定期改撰及補缺選舉トモ前任者ノ選舉セラレタル選舉等級ニ從テ之カ選舉ヲ行フ
ヘシ

第十八條 町村長ハ選舉ヲ行フ毎ニ其選舉前六十日ヲ限リ選舉原簿ヲ製シ各選舉人
ノ資格ヲ記載シ此原簿ニ據リテ選舉人名簿ヲ製ス可シ

選舉人名簿ハ七日間町村役場ニ於テ之ヲ關係者ノ從覽ニ供ス可シ若シ關係者ニ於
テ訴願セントスルコトアルトキハ同期限内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ町村長ハ町
村會ノ裁決(第二十七條第一項)ニ依リ名簿ヲ修正ス可キトキハ選舉前十日ヲ限リ
テ之ニ修正ヲ加ヘテ確定名簿トナシ之ニ登錄セラレサル者ハ何人タリトモ選舉ニ
關スルコトヲ得ス

本條ニ因リ確定シタル名簿ハ當選ヲ辭シ若クハ選舉ノ無効トナリタル場合ニ於テ
更ニ選舉ヲ爲ストキモ亦之ヲ適用ス

第十九條 選舉ヲ執行スルトキハ町村長ハ選舉ノ場所日時ヲ定メ及選舉ス可キ議員
ノ數ヲ各級ニ分チ選舉前七日ヲ限リテ之ヲ公告ス可シ

各級ニ於テ選舉ヲ行フノ順序ハ先ツ二級ノ選舉ヲ行ヒ次ニ一級ノ選舉ヲ行フ可シ
第二十條 選舉掛ハ名譽職トシ町村長ニ於テ臨時ニ選舉人中ヨリ二名若クハ四名ヲ

選舉シ町村長若クハ其代理者ハ其掛長トナリ選舉會ヲ開閉シ其會場ノ取締ニ任ス
第二十一條 選舉開會中ハ選舉人ノ外何人タリトモ選舉會場ニ入ルコトヲ得ス選舉
人ハ選舉會場ニ於テ協議又ハ勸誘ヲ爲スコトヲ得ス

第二十二條 選舉ハ投票ヲ以テ之ヲ行フ投票ニハ被選舉人ノ氏名ヲ記シ封緘ノ上選
舉人自ラ掛長ニ差出ス可シ但選舉人ノ氏名ハ投票ニ記入スルコトヲ得ス
選舉人投票ヲ差出ストキハ自己ノ氏名及住所ヲ掛長ニ申立テ掛長ハ選舉人名簿ニ
照シテ之ヲ受ケ封緘ノ儘投票函ニ投入ス可シ但投票函ハ投票ノ終ル迄之ヲ開クコ
トヲ得ス

第二十三條 投票ニ記載ノ人員其選舉ス可キ定數ニ過キ又ハ不足アルモ其投票ヲ無
効トセス其定數ニ過クルモノハ末尾ニ記載シタル人名ヲ順次ニ棄却ス可シ
左ノ投票ハ之ヲ無効トス

- 一 人名ヲ記載セス又ハ記載セル人名ノ讀ミ難キモノ
 - 二 被選舉人ノ何人タルヲ確認シ難キモノ
 - 三 被選舉權ナキ人名ヲ記載スルモノ
 - 四 被選舉人氏名ノ外他事ヲ記入スルモノ
- 投票ノ受理並効力ニ關スル事項ハ選舉掛假ニ之ヲ議決ス可否同數ナルトキハ掛長
之ヲ決ス

第二十四條 選舉ハ選舉人自ラ之ヲ行フ可シ他人ニ託シテ投票ヲ差出スコトヲ許サ
ス

第十二條第三項ニ依リ選舉權ヲ有スル者ハ代人ヲ出シテ選舉ヲ行フコトヲ得若シ
其獨立ノ男子ニ非サル者又ハ會社其他法ハニ係ルトキハ必ス代人ヲ以テス可シ其
代人ハ内國人ニシテ公權ヲ有スル獨立ノ男子ニ限ル但一人ニシテ數人ノ代理ヲ爲
スコトヲ得ス且代人ハ委任ヲ選舉掛ニ示シテ代理ノ證トスヘシ

第二十五條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ町村會ノ議決ニ依リ
區畫ヲ定メテ選舉分會ヲ設クルコトヲ得但特ニ二級選舉人ノミ此分會ヲ設クルモ
妨ケナシ分會ノ選舉掛ハ町村長ノ選任ニヨル代理者ヲ以テ其長トシ第二十二條ノ例
ニ依リ掛員二名若クハ四名ヲ選任ス

選舉分會ニ於テ爲シタル投票ハ票函ノ儘本會ニ集メテ之ヲ合算シ總數ヲ以テ當撰
ヲ定ム權舉分會ハ本會ト同日時ニ之ヲ開ク可シ其他選舉ノ手續會場ノ取締等總テ
テ本會ノ例ニ依ル

第二十六條 議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得ル者ヲ以テ當撰トス投票ノ數相同キ
モノハ年長者ヲ取リ同年ナルトキハ掛長自ラ抽籤シテ其當選ヲ定ム
全時ニ補欠員數名ヲ選舉スルトキハ第十七條 投票數ノ最多キ者ヲ以テ殘任期ノ
最長キ前任ノ補欠ト爲シ其數相同キトキハ抽籤ヲ以テ其順序ヲ定ム

第二十七條 選舉掛ハ選舉録ヲ製シテ選舉ノ顛末ヲ記録シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉人名簿其他關係書類ヲ合綴シテ之ニ署名ス可シ

投票ハ之ヲ選舉録ニ附屬シ選舉ヲ結了スルニ至ル迄之ヲ保存ス可シ

第二十八條 選舉シ終リタル後選舉掛長ハ直ニ當撰者ニ其當選ノ旨ヲ告知ス可シ其當撰ヲ辭セントスル者ハ五日以内ニ之ヲ町村長ニ申シ出ツ可シ

一人ニヨリテ兩級ノ選舉ニ當リタルトキハ同期限内何レノ選舉ニ應スヘキコトヲ申立ツ可シ其期限内ニ之ヲ申立テサル者ハ總テ其選舉ヲ辭スル者トナシ第八條ノ處分ヲ爲ス可シ

第二十九條 撰舉人撰舉ノ効力ニ關シテ訴願セントスルトキハ撰舉ノ日ヨリ七日以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツルコトヲ得(第三十七條第二項)

町村長ハ撰舉ヲ終リタル後之ヲ郡長ニ報告シ郡長ニ於テ撰舉ノ効力ニ關シ異議アルトキハ訴願ノ有無ニ拘テス郡參事會ニ付シテ處分ヲ行フコトヲ得

撰舉ノ規定ニ違背スルコトアルトキハ其撰舉ヲ取消シ又被撰舉人中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルトキハ其人ノ當撰ヲ取消シ更ニ撰舉ヲ行ハシムヘシ

第三十條 當撰者中其資格ノ要件ヲ有セサル者アルコトヲ發見シ又ハ就職後其要件ヲ失フ者アルトキハ其人ノ當撰ハ効力ヲ失フモノトス其要件ノ有無ハ町村會之ヲ議決ス

第三十一條 市町村ニ於テハ郡參事會ノ議決ヲ經町村條例ノ規定ニ依リ町村會ヲ設ケス撰舉權ヲ有スル町村公民ノ總會ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得

第二款 職務權限及處務規程

第三十二條 町村會ノ其町村ヲ代表シ此法律ニ準據シテ町村一切ノ事件並從前特ニ委任セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ委任セララル、事件ヲ議決スルモノトス

第三十三條 町村會ノ議決ス可キ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 町村條例及規則ヲ設ケ並ニ改正スル事
- 二 町村費ヲ以テ支辨ス可キ事業但第六十九條ニ掲クル事務ハ此限ニ在ラス
- 三 歳入出豫算ヲ定メ豫算ノ外支出及豫算及超過ノ支出ヲ認定スル事
- 四 決算報告ヲ認定スル事
- 五 法律勅令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、町村稅及人夫役現品ノ賦課徵收ノ法ヲ定ムル事
- 六 町村有不動産ノ賣買交換讓受讓讓並ニ買入書入ヲ爲ス事
- 七 基本財産ノ處分ニ關スル事
- 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ棄却ヲ爲ス事
- 九 町村有ノ財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事

十 町村吏員ノ身元保證金ヲ徵シ並其金額ヲ定ムル事

十一 町村ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事

第三十四條 町村會ハ法律勅令ニ依リ其職權ニ屬スル町村吏員ノ撰擧ヲ行フ可シ

第三十五條 町村會ハ町村ノ事務ニ關スル書類及計算書ヲ檢閲シ町村長ノ報告ヲ請

求シテ事務ノ管理議決ノ施行並收入支出ノ正否ヲ監査スルノ職權ヲ有ス

町村會ハ町村ノ公益ニ關スル事件ニ付意見書ヲ監督官廳ヘ差出スコトヲ得

第三十六條 町村會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述ス可シ

第三十七條 町村住民及公民タル權理ノ有無撰擧權及被撰擧權ノ有無撰擧人名簿ノ

正否並其等級ノ當否代理ヲ以テ執行スル撰擧權(第十二條第二項)及町村會議員撰

擧ノ効力(第二十九條ニ)關スル訴訟ハ町村會之ヲ裁決ス

前項ノ訴訟中町村住民及公民タル權利ノ有無並選舉權ノ有無ニ關スルモノハ町村

會ノ設クナキ町村ニ於テハ町村長之ヲ裁決ス

町村會若シハ町村長ノ議決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ議決ニ

不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣郡參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判

所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ事件ニ付テハ町村長ヨリモ亦訴願及訴訟ヲ爲スコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其執行ヲ停止スルコトヲ得ス但判決確定スルニ非サ

ハ更ニ撰擧ヲ爲スコトヲ得ス

第三十八條 凡議員タル者ハ撰擧人ノ指示若クハ委囑ヲ受ク可ラサルモノトス

第三十九條 町村會ハ町村長ヲ以テ其議長トス若シ町村長故障アルトキハ其代理タ

ル町村助役ヲ以テ之ニ充ツ

第四十條 會議ノ事件議長及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事アルトキハ

議長ニ故障アルモノトシテ其代理者之ニ代ル可シ

議長代理者共ニ故障アルトキハ町村會ハ年長ノ議員ヲ以テ議長ト爲ス可シ

第四十一條 町村長及助役ハ會議ニ列席シテ議事ヲ辨明スルコトヲ得

第四十二條 町村會ハ會議ノ必要アル毎ニ議長之ヲ召集ス若シ議員四分ノ一以上ノ

請求アルトキハ必ズ之ヲ召集ス可シ其召集並會議ノ事件ヲ告知スルハ急施ヲ要ス

ル場合ヲ除クノ外少クモ開會ノ三日以前タル可シ但町村會ノ議決ヲ以テ豫メ會議

日ヲ定ムルモ妨ケナシ

第四十三條 町村會ハ議員三分ノ二以上出席スルニ非サレハ議決スルコトヲ得ス但

同一ノ議事ニ付召集再回ニ至ルモ議員猶三分ノ二ニ滿タサルトキハ此限ニ在ラス

第四十四條 町村會ノ議決ハ可否ノ多數ニ依リ之ヲ定ム可否同數ナルトキハ再議議

決ス可シ若シ猶同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十五條 議員ハ自己及其父母兄弟若クハ妻子ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ町

村會ノ議決ニ加ハルコトヲ得ス
議員ノ數此除名ノ爲メニ減少シテ會議ヲ開クノ定數ニ滿タサルトキハ郡參事會町
村會ニ代テ議決ス

第四十六條 町村會ニ於テ町村吏員ノ選舉ヲ行フトキハ一名毎ニ匿名投票ヲ以テ之
ヲ爲シ有效投票ノ過半數ヲ得ル者ヲ以テ當撰トス若シ過半數ヲ得ル者ナキトキハ
最多數ヲ得ル者二名ヲ取り之ニ就テ更ニ投票セシム最多數ヲ得ル者三名以上同數
ナルトキハ議長自ラ抽籤シテ其二名ヲ取り更ニ投票セシム此再投票ニ於テモ猶過
半數ヲ得ル者ナキトキハ抽籤ヲ以テ當撰ヲ定ム其他ハ第二十二條、第二十三條、第
二十四條第一項ヲ適用ス

前項ノ選舉ニハ町村會ノ議決ヲ以テ氏名推撰ノ法ヲ用エルコトヲ得

第四十七條 町村會ノ會議ハ公開ス但議長ノ意見ヲ以テ傍聽ヲ禁スルヲ得

第四十八條 議長ハ各議員ニ事務ヲ分課シ會議及撰舉ノ事ヲ總理シ開會閉會並延會
ヲ命シ議場ノ秩序ヲ保持ス若シ傍聽者ノ公然贊成又ハ擯斥ヲ表シ又喧擾ヲ起ス者
アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四十九條 町村會ハ書記ヲシテ議事録ヲ製シテ其議決及撰舉ノ顛末並出席議員ノ
氏名ヲ記錄セシム可シ議事録ハ會議ノ末之ヲ朗讀シ議長及議員二名以上之ニ署名
ス可シ

町村會ノ書記ハ議長之ヲ撰任ス

第五十條 町村會ハ其會議規則ヲ設ク可シ其細則ニ違背シタル議員ニ科ス可キ過怠
金二圓以下ノ罰則ヲ設グルコトヲ得

第五十一條 第三十二條ヨリ第四十九條ニ至ルノ規定ハ之ヲ町村總會ニ適用ス

第三章 町村行政

第一款 町村吏員ノ組織撰任

第五十二條 町村ニ町村長及助役各一名ヲ置ク可シ但町村條例ヲ以テ助役ノ定員ヲ
増加スルコトヲ得

第五十三條 町村長及助役ハ町村會ニ於テ其町村公民中年齡滿三十歲以上ニシテ撰
舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ撰舉ス

町村長及助役ハ第十五條第二項ニ掲載スル職ヲ兼ヌルコトヲ得ス

父子兄弟タルノ緣故アル者ハ同時ニ町村長及助役ノ職ニ在ルコトヲ得ス若シ其緣
故アル者助役ノ撰舉ニ當ルトキハ其當撰ヲ取消シ其町村長ノ撰舉ニ當リテ認可ヲ
得ルトキハ其緣故アル助役ハ其職ヲ退ク可シ

第五十四條 町村長及助役ノ任期ハ四年トス

町村長及助役ノ撰舉ハ第四十六條ニ依テ行フ可シ

但投票同數ナルトキハ抽籤ノ法ニ依ラス郡參事會之ヲ決ス可シ

第五十五條 町村長及助役ハ名譽職トス但第五十六條ノ有給町村長及有給助役ハ此限ニ在ラス

町村長ハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ受クルコトヲ得助役ニシテ行政事務ノ一部ヲ分掌スル場合第七十條第二項ニ於テモ亦同シ
第五十六條 町村ノ情况ニ依リ町村條例ノ規定ヲ以テ町村長ニ給料ヲ給スル事ヲ得又大ナル町村ニ於テハ町村條例ノ規定ヲ以テ助役一名ヲ有給吏員ト爲スコトヲ得有給町村長及有給助役ハ其町村公民タル者ニ限ラス但當撰ニ應シ認可ヲ得ルトキハ其公民タルノ權ヲ得

第五十七條 有給町村長及有給助役ハ三ヶ月前ニ由立ツルトキハ隨時退職ヲ求ムルコトヲ得此場合ニ於テハ退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

第五十八條 有給町村長及有給助役ハ他ノ有給職務ヲ兼任シ又ハ株式會社ノ社長及重役トナルコトヲ得ス其他ノ營業ハ郡長ノ認許ヲ得ルニ非サレハ之レヲ爲スコトヲ得ス

第五十九條 町村長及助役ノ撰舉ハ府縣知事ノ認可ヲ受ク可シ

第六十條 府縣知事前條ノ認可ヲ與ヘサルトキハ府縣參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス若シ府縣參事會同意セサルモ猶府縣知事ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得

府縣知事ノ不認可ニ對シ町村長ハ又町村會ニ於テ不服アルトキハ内務大臣ニ具申シテ其認可ヲ請フコトヲ得

第六十一條 町村長及助役ノ撰舉其認可ヲ得サルトキハ再撰舉ヲ爲スヘシ再撰舉ニシテ猶其認可ヲ得サルトキハ追テ撰舉ヲ行ヒ認可ヲ得ルニ至ルノ間認可ノ權アル監督官廳ハ臨時ニ代理者ヲ撰任シ又ハ町村費ヲ以テ官吏ヲ派遣シ町村長及助役職務ヲ管理セシム可シ

第六十二條 町村ニ收入役一名ヲ置ク收入役ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ撰任ス收入役ハ有給吏員ト爲シ其任期ハ四年トス

收入役ハ町村長及助役ヲ兼ヌルコトヲ得ス其他第五十六條第二項第五十七條及第七十六條ヲ適用ス

收入役ノ撰任ハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ若シ認可ヲ與ヘサルトキハ郡參事會ノ意見ヲ聞クコトヲ要ス郡參事會之ニ同意セサルモ猶郡長ニ於テ認可ス可カラスト爲ストキハ自己ノ責任ヲ以テ之ニ認可ヲ與ヘサルコトヲ得其他第六十一條ヲ適用ス郡長ノ不認可ニ對シ町村長又ハ町村會ニ於テ不服アルトキハ府縣知事ニ具申シテ認可ヲ請フコトヲ得

收入支出ノ實少ナル町村ニ於テハ郡長ノ許可ヲ得テ町村長又ハ助役ヲシテ收入役ノ事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得

第六十三條 町村ニ書記其他必要附屬員前使丁ヲ置キ相當ノ給料ヲ給ス其人員ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但町村長ニ相當ノ書記料ヲ給與シテ書記ノ事務ヲ委任スルコトヲ得

町村附屬員ハ町村長ノ推薦ニ依リ町村會之ヲ撰任シ使丁ハ町村長之ヲ任用ス

第六十四條 町村ノ區域廣濶ナルトキ又ハ人口稠密ナルトキハ處務便宜ノ爲メ町村會ノ議決ニ依リ之ヲ數區ニ分チ每區々長及其代理者各壹名ヲ置クコトヲ得區長及其代理者ハ名譽職トス

區長及代理者ハ町村會ニ於テ其町村ノ公民中撰舉權ヲ有スル者ヨリ之ヲ撰舉ス區會(第百十四條)ヲ設クル區ニ於テハ其區會ニ於テ之ヲ撰舉ス

第六十五條 町村ハ町村會ノ議決ニ依リ臨時又ハ常設ノ委員ヲ置クコトヲ得其委員ハ名譽職トス

委員ハ町村會ニ於テ町村會議員又ハ町村公民中撰舉權ヲ有スル者ヨリ撰舉シ町村長又ハ其委任ヲ受ケタル助役ヲ以テ委員長トス

常設委員ノ組織ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第六十六條 區長及委員ニハ職務取扱ノ爲メニ要スル實費辨償ノ外町村會ノ議決ニ依リ勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

第六十七條 町村吏員ノ任期滿限ノ後再撰セラルハコトヲ得

町村吏員及使丁ハ別段ノ規定又ハ規約アルモノヲ除クノ外隨時解職スルコトヲ得

第二款 町村吏員ノ職務權限

第六十八條 町村長ハ其町村ヲ統轄シ其行政事務ヲ擔任ス

町村長ノ擔任スル事務ノ概目左ノ如シ

- 一 町村會ノ議事ヲ準備シ及其議決ヲ執行スル事若シ町村會ノ議決其權限ヲ超エ法律命令ニ背キ又ハ公衆ノ利益ヲ害スト認ムルトキハ町村長ハ自己ノ意見ニ依リ又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ議決ノ執行ヲ停止シ之ヲ再議セシメ猶其議決ヲ更メサルトキハ郡參事會ノ裁決ヲ請フ可シ其權限ヲ超ヘ又ハ法律命令ニ背クニ依テ議決ノ執行ヲ停止シタル場合ニ於テ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
- 二 町村ノ設置ニ係ル營造物ヲ管理スル事若シ特ニ之カ管理者アルトキハ其事務ヲ監督スル事
- 三 町村ノ歲入ヲ管理シ歲入出豫算表其他町村會議決ニヨリテ定マリタル歲入出ヲ命令シ會計及出納ヲ監視スル事
- 四 町村ノ權利ヲ保護シ町村有ノ財産ヲ管理スル事
- 五 町村吏員及使丁ヲ監督シ懲戒處分ヲ行フ事其懲戒處分ハ譴責及五圓以下ノ過怠金トス

- 六 町村ノ諸證書及公文書籍ヲ保管スル事
 - 七 外部ニ對シテ町村ヲ代表シ町村ノ名義ヲ以テ其訴訟并和解ニ關シ又ハ他廳若クハ人民ト商議スル事
 - 八 法律勅令ニヨリ又ハ町村會ノ議決ニ從テ使用料手数料町村税及夫役現品ヲ賦課徵收スルコト
 - 九 其他法律命令又ハ上伺指令ニヨリテ町村長ニ委任シタル事務ヲ處理スル事
- 第六十九條 町村長ハ法律命令ニ從ヒ左ノ事務ヲ管掌ス
- 一 司法警察補助官タルノ職務及法律命令ニ依リテ其管理ニ屬スル地方警察ノ事務但別ニ官署ヲ設ケテ地方警察事務ヲ管掌セシムルトキハ此限ニ在ラス
 - 二 浦役場ノ事務
 - 三 國ノ行政並府縣郡ノ行政ニシテ町村ニ屬スル事務但別ニ吏員ノ設ケアルトキハ此限ニ在ラス
- 右三項中ノ事務ハ監督官廳ノ許可ヲ得テ之ヲ助役ニ分掌セシムルコトヲ得本條ニ掲載スル事務ヲ執行スルカ爲メニ要スル費用ハ町村ノ負擔トス
- 第七十條 町村助役ハ町村長ノ事務ヲ補助ス
- 町村長ハ町村會ノ同意ヲ得テ助役ヲシテ町村行政事務ノ一部ヲ分掌セシムルコトヲ得

- 助役ハ町村長故障アルトキ之ヲ代理ス助役數名アルトキハ上席者之ヲ代理ス可シ
- 第七十一條 町村收入役ハ町村ノ收入ヲ受領ス其費用ノ支拂ヲ爲シ其他會計事務ヲ掌ル
- 第七十二條 書記ハ町村長ニ屬シ庶務ヲ分掌ス
- 第七十三條 區長及其代理者ハ町村長ノ機關トナリ其指揮命令ヲ受ケテ區内ニ關スル町村長ノ事務ヲ補助執行スルモノトス
- 第七十四條 委員(第六十五條)ハ町村行政事務ノ一部ヲ分掌シ又ハ營造物ヲ管理シ若クハ監督シ又ハ一時ノ委託ヲ以テ事務ヲ處辨スルモノトス
- 委員長ハ委員ノ議決ニ加ハルノ權ヲ有ス助役ヲ以テ委員長ト爲ス場合ニ於テモ町村長ハ臨時委員會ニ出席シテ其委員ト爲リ並其議決ニ加ハルノ權ヲ有ス常設委員ノ職務權限ニ關シテハ町村條例ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケルコトヲ得
- 第三款 給料及給與
- 第七十五條 名譽職員ハ此法律中別ニ規定アルモノヲ除クノ外職務取扱ノ爲メニ要スル實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得實費辨償額報酬額及書記料ノ額(第六十三條第一項)ハ町村會之ヲ議決ス
- 第七十六條 有給町村長有給助役其ノ有給吏員及使丁ノ給料額ハ町村會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

町村會ノ議決ヲ以テ町村長及助役ノ給料額ヲ定ムルトキハ郡長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス郡長ニ於テ之ヲ許可ス可カラスト認ムルトキハ郡參事會ノ議決ニ付シテ之ヲ確定ス

第七十七條 町村條例ノ規定ヲ以テ有給吏員ノ退隱料ヲ設クルコトヲ得

第七十八條 有給吏員ノ給料退隱料其他第七十五條ニ定ムル給與ニ關シテ異議アルトキハ關係者ノ申立ニ依リ郡參事會之ヲ議決ス其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ議決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第七十九條 退隱料ヲ受クル者官廳又ハ府縣郡市平民及公共組合ノ職務ニ就キ給料ヲ受クルトキハ其間之ヲ停止シ又ハ更ニ退隱料ヲ受クルノ權ヲ得ルトキハ其額與退隱料ト同額以上ナルトキハ舊退隱料ハ之ヲ停止ス

第八十條 給料、退隱料、報酬及辨償等ハ總テ町村ノ負擔トス

第四章 町村有財產ノ管理

第一款 町村有財產及町村稅

第八十一條 町村ハ其不動產積立金穀等ヲ以テ基本財產ト爲シ之ヲ維持スルノ義務アリ
臨時ニ收入シタル金穀ハ基本財產ニ加入ス可シ但寄附金等寄附者其使用ノ目的ヲ

定ムルモノハ此限ニ在ラス

第八十二條 凡町村有財產ハ全町村ノ爲メニ之ヲ管理シ及其用スルモノトス但特ニ民法上權利ヲ有スル者アルトキハ此限ニ在ラス

第八十三條 舊來ノ慣行ニ依リ町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ有スル者アルトキハ町村會ノ議決ヲ經ルニ非サレハ其舊慣ヲ改ムルコトヲ得ス
第八十四條 町村住民中特ニ其町村有ノ土地物件ヲ使用スル權利ヲ得ントスル者アルトキハ町村條例ノ規定ニ依リ使用料若クハ一時ノ加入金ヲ徵收シ又ハ使用料加入金ヲ共ニ徵收シ之ヲ許可スルコトヲ得但徒ニ民法上使用ノ權利ヲ有スル者ハ此限ニ在ラス

第八十五條 使用權ヲ有スル者(第八十三條第八十四條)ハ使用ノ多寡ニ準シテ其土地物件ニ係ル必要ナル費用ヲ分擔スヘキモノトス

第八十六條 町村會ハ町村ノ爲メニ必要ナル場合ニ於テハ使用權(第八十三條第八十四條)ヲ取上又ハ制限スルコトヲ得但特ニ民法上使用ノ法權ヲ有スル者ハ此限ニアラス

第八十七條 町村有財產賣却貸與又ハ建築工事及物品調達ノ請負ハ公ケノ入札ニ付ス可シ但臨時急施ヲ要スルトキ及入札ノ價額其費用ニ比シテ得失相償サルトキ又ハ町村會ノ認許ヲ得サルトキハ此限ニアラス

第八十八條 町村ハ其必要ナル支出及従前ノ法律命令ニ依テ賦課セラレ又ハ將來法律勅令ニ依テ賦課セラルル支出ヲ負擔スル義務アリ

町村ハ其財産ヨリ生スル收入及使用料、手数料(第八十九條)並料、過怠金其他法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ猶不足アルトキハ町村税(第九十條)及夫役現品(第一百一條)ヲ賦課徴收スルコトキ得

第八十九條 町村ハ其所有物及營造物ノ使用ニ付又ハ特ニ數個人ノ爲メニスル事業ニ付使用料又ハ手数料ヲ徴收スルコトキ得

第九十條 町村税トシテ賦課スルコトヲ得可キ目左ノ如シ

一 國稅府縣稅ノ附加稅

二 直接又ハ間接ノ特別稅

附加稅ハ直接ノ國稅又ハ府縣稅ニ附加シ均一ノ稅率ヲ以テ町村ノ全部ヨリ徴收スルヲ常例トシ特別稅ハ附加稅ノ外別ニ町村ニ限り稅目ヲ起シテ課稅スルコトヲ要スルトキ賦課徴收スルモノトス

第九十一條 此法律ニ規定セル條項ヲ除クノ外使用料手数料(第八十九條)特別稅(第九十條第一項第二)及従前ノ町村費ニ關スル細則ハ町村條例ヲ以テ之ヲ規定ス可シ其條例ニハ料一圓九十五錢以下ノ罰則ヲ設ケルコトヲ得
料料ニ處シ及之ヲ徴收スルハ町村長之ヲ掌ル其處分ニ不服アル者ハ令狀交付後十

四日以内ニ司法裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第九十二條 三ヶ月以上町村内ニ滞在スル者ハ其町村税ヲ納ムルモノトス但其課稅ハ滞在ノ初ニ遡リ徴收ス可シ

第九十三條 町村内住居ヲ構ヘス又ハ二ヶ月以上滞在スルコトナシト雖モ其町村内ニ土地家屋ヲ所有シ又ハ營業ヲ爲ス者(店舗ヲ定メサル行商ヲ除クハ)其土地家屋營業若クハ其所得ニ對シテ賦課スル町村税ヲ納ムルモノトス其法人タルトキモ亦同シ但郵便電信及官設鐵道ノ業ハ此限ニ在ラズ

第九十四條 所得稅ニ附加稅ヲ賦課ス及町村ニ於テ特別ニ所得稅ヲ賦課セントスルトキハ納稅者ノ町村外ニ於ケル所有ノ土地家屋又ハ營業、店舗ヲ定メタル行商ヲ除ク)ヨリ收入スル所得ハ之ヲ控除ス可キモノトス

第九十五條 數市町村ニ住居ヲ構ヘ又ハ滞在スル者ニ前條ノ町村税ヲ賦課スルトキハ其所得ヲ各市町村ニ平分シ其一部分ニノミ課稅ス可シ但土地家屋又ハ營業ヨリ收入スル所得ハ此限ニ在ラス

第九十六條 所得稅法第三條ニ掲グル所得ハ町村税ヲ免除ス

第九十七條 左ニ掲グル物件ハ町村税ヲ免除ス

- 一 政府府縣郡市町村及公共組合ニ屬シ直接ノ公用ニ供スル土地、營造物及家屋
- 二 社寺及官立公立ノ學校病院其他學藝美術及慈善ノ用ニ供スル土地、營造物及

家屋

三 官有ノ山林又ハ荒蕪地但官有山林又ハ荒蕪地ノ利益ニ係ル事業ヲ起シ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ得テ其費用徴收スルハ此限ニ在ラス

新開地及開墾地ハ町村條例ニ依リ年月ヲ限リ免稅スルコトヲ得

第九十八條 前二條ノ外町村稅ヲ免除ス可キモノハ別段ノ法律命令ニ定ムル所ニ從

フ皇族ニ係ル町村稅ノ賦課ハ追テ法律勅令ヲ以テ定ムル迄現今ノ例ニ依ル

第九十九條 數個人ニ於テ專ラ使用スル所ノ營造物アルトキハ其修築及保存ノ費用ハ之ヲ其關係者ニ賦課ス可シ

町村内ノ一部ニ於テ專ラ使用スル營造物アルトキハ其部内ニ住居シ若クハ滞在シ

又ハ土地家屋ヲ所有シ(營業店舗ヲ定メサル行商ヲ除ク)ヲ爲ス者ニ於テ其修築及

保存ノ費用ヲ負擔ス可シ但其一部ノ所有財産アルトキハ其收入ヲ以テ先ツ其費用

ニ充ツ可シ

第百條 町村稅ハ納稅義務ノ起リタル翌月ノ初ヨリ免稅理由ヲ生シタル月ノ終迄月

割ヲ以テ之ヲ徴收ス可シ

會計年度中ニ於テ納稅義務消滅シ又ハ變更スルトキハ納稅者ヨリ之ヲ町村長ニ届

出ツ可シ其届出ヲ爲シタル月ノ終迄ハ從前ノ稅ヲ徴收スルコトヲ得

第百一條 町村公共ノ事業ヲ起シ又ハ公共ノ安寧ヲ維持スルカ爲メニ夫役及現品ヲ

以テ納稅者ニ賦課スルコトヲ得

但學藝美術又ハ手工ニ關スル勞役ヲ課スルコトヲ得ス

夫役及現品ハ急迫ノ場合ヲ除クノ外直接町村稅ヲ準率ト爲シ且之ヲ金額ニ算出シ

テ賦課ス可シ

夫役ヲ課セラレタル者ハ其便宜ニ從ヒ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコ

トヲ得又急迫ノ場合ヲ除クノ外金額ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第百二條 町村ニ於テ徴收スル使用料、手數料(第八十九條)町村稅(第十九條)夫役

ニ代フル金額(第百一條)共有物使用料及加入金(第八十四條)其他町村ノ收入ヲ定

期內ニ納メサルトキハ町村長ハ之ヲ督促シ猶之ヲ完納セサルトキハ國稅滯納處分

法ニ依リ之ヲ徴收ス可シ其督促ヲ爲スニハ町村條例ノ規定ニ依リ手數料ヲ徴收ス

ルコトヲ得

納稅者中無資力ナル者アルトキハ町村長ノ意見ヲ以テ會計年度中ニ限リ納稅延期

ヲ許ルスコトヲ得其年度ヲ超ユル場合ニ於テハ町村會ノ議決ニ依ル

本條ニ記載スル徴收金ノ追徵期滿得免及先取特權ニ付テハ國稅ニ關スル規則ヲ適

用ス

第百三條 地租ノ附加稅ハ地租ノ納稅者ニ賦課シ其他土地ニ對シテ賦課スル町村稅

ハ其所有者又ハ使用者ニ賦課スルコトヲ得

第四百四條 町村税ノ賦課ニ對スル訴願ハ賦課令狀ノ交付後三ヶ月以内ニ之ヲ町村長ニ申立ツ可シ此期限ヲ經過スルトキハ其年度内減税免稅及償還ヲ請求スルノ權利ヲ失フモノトス

第四百五條 町村税ノ賦課及町村ノ營造物、町村有ノ財産並其所得ヲ使用スル權利ニ關スル訴願ハ町村長之ヲ裁決ス但民法上ノ權利ニ係ルモノハ此限ニ在ラス
前項ノ裁決ニ不服アル者ハ郡參事會ニ訴願シ其郡參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

本條ノ訴願及訴訟ノ爲メニ其處分ノ執行ヲ停止スルコトヲ得

第四百六條 町村ニ於テ公債ヲ募集スルハ從前ノ公債元額ヲ償還スル爲メ又ハ天災時變等已ムサ得サル支出若クハ町村永久ノ利益トナル可キ支出ヲ要スルニ方リ通常ノ歳入増加スルトキハ其町村住民ノ負擔ニ堪ヘサルノ場合ニ限ルモノトス
町村會ニ於テ公債募集ノ事ヲ議決スルトキハ併セテ其募集ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定ム可シ償還ノ初期ハ三年以内ト爲シ年々償還ノ歩合ヲ定メ募集ノ時ヨリ三拾年以内ニ還了ス可シ
定額豫算内ノ支出ヲ爲スカ爲メ必要ナル一時ノ借入金ハ本條ノ例ニ依ラス其年度内ノ收入ヲ以テ償還ス可キモノトス

第二款 町村ノ歳入出豫算及決算

第四百七條 町村長ハ毎會計年度收入支出ノ豫知シ得可キ金額ヲ見積リ年度前二ヶ月ヲ限リ歳入出豫算表ヲ調製ス可シ但町村ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ同シ

内務大臣ハ省令ヲ以テ豫算ノ調製ノ式ヲ定ムルコトヲ得

第四百八條 豫算表ハ會計年度前町村會ノ議決ヲ取り之ヲ郡長ニ報告シ並地方慣行ノ方式ヲ以テ其要領ヲ公告スヘシ

豫算表ヲ町村會ニ提出スルトキハ町村長ハ併セテ其町村事務報告書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第四百九條 定額豫算外ノ費用又ハ豫算ノ不足アルトキハ町村會ノ認定ヲ得テ之ヲ支出スルコトヲ得

定額豫算中臨時ノ場合ニ支出スルカ爲メニ豫備費ヲ置キ町村長ハ豫メ町村會ノ認定ヲ受ケスシテ豫算外ノ費用又ハ豫算超過ノ費用ニ充ツルコトヲ得但町村會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第四百十條 町村會ニ於テ豫算表ヲ議決シタルトキハ町村長ヨリ其騰寫ヲ以テ之ヲ收入役ニ交付ス可シ其豫算表中監督官廳若クハ參事會ノ許可ヲ受クヘキ事項アルトキハ(第百二十五條ヨリ第百二十七條ニ至ル)先其許可ヲ受ク可シ

收入役ハ町村長(第六十八條第二項)(第三)又監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂

ヲ爲スコトヲ得ス又收入役ハ町村長ノ命令ヲ受クルモ其支出豫算表中ニ豫定ナキ
カ又ハ其命令第九九條ノ規定ニ依ラサルトキハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス
前項ノ規定ニ背キタル支拂ハ總テ收入役ノ責任ニ歸ス

第百十一條 町村ノ出納ハ毎月例日ヲ定メテ検査シ及毎年少シモ一回臨時検査ヲ爲
ス可シ例月検査ハ町村長又ハ其代理者之ヲ爲シ臨時検査ハ町村長又ハ其代理者ノ
外町村會ノ互選シタル議員一名以上ノ立會ヲ要ス

第百十二條 決算ハ會計年度ノ終ヨリ三ヶ月以内ニ之ヲ結了シ證書類ヲ併セテ收入
役ヨリ之ヲ町村長ニ提出シ町村長ハ之ヲ審査シ意見ヲ附シテ之ヲ町村會ノ認定ニ
付ス可シ第六十二條第三項ノ場合ニ於テハ前例ニ依リ町村長ヨリ直ニ之ヲ町村會
ニ提出ス可シ其町村會ノ認定ヲ經タルトキハ町村長ハ之ヲ郡長ニ報告ス可シ
第百十三條 決算報告ヲ爲ストキハ第四十條ノ例ニ準シテ議長代理者共ニ故障アル
モノトス

第五章 町村内各部ノ行政

第百十四條 町村内ノ區(第六十四條)又ハ町村内ノ一部若クハ合併町村(第四條)ニ
シテ別ニ其區域ヲ存シテ一區ヲ爲スモノ特別ニ財産ヲ所有シ若クハ營造物ヲ設ケ
其一區限リ特ニ其費用(第九十九條)ヲ負擔スルトキハ郡參事會ハ其町村會ノ意見
ヲ聞キ條例ヲ發行シ財産及營造物ニ關スル事務ノ爲メ區會又ハ區總會ヲ設クルコ

トヲ得其會議ハ町村會ノ例ヲ適用スルコトヲ得

第百十五條 前條ニ記載スル事務ハ町村ノ行政ニ關スル規則ニヨリ町村長之ヲ管理
ス可シ但區ノ出納及會計ノ事務ハ之ヲ分別ス可シ

第六章 町村組合

第百十六條 數町村ノ事務ヲ共同處分スル爲メ其協議ニヨリ監督官廳ノ許可ヲ得テ
其町村ノ組合ヲ設クルコトヲ得

法律上ノ義務ヲ負擔スルニ堪フヘキ資力ヲ有セサル町村ニシテ他ノ町村ト合併(第
四條)スル 協議整ハス又ハ其事情ニヨリ合併ヲ不便ト爲ストキハ郡參事會ノ
議決ヲ以テ數町村ノ組合ヲ設ケムルコトヲ得

第百十七條 町村組合ヲ設クルノ協議ヲ爲ストキハ(第十六條第一項)組合會議ノ
組織事務ノ管理方法其費用ノ支辨方法ヲ併セテ規定ス可シ

前條第二項ノ場合ニ於テ其關係町村ノ協議ヲ以テ組合費用ノ分擔法等其他必要ノ
事項ヲ規定スヘシ若シ其協議整ハサルトキハ郡參事會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第百十八條 町村組合ハ監督官廳ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ解クコトヲ得ス

第七章 町村行政ノ監督

第百十九條 町村ノ行政ハ第一次ニ於テ郡長之ヲ監督シ第二次ニ於テ府縣知事之ヲ
監督シ第三次ニ於テ内務大臣之ヲ監督ス但法律ニ指定シタル場合ニ於テ郡參事會

及府縣參事會ノ參與スルハ別段ナリトス

第二百十條 此法律中別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外凡町村ノ行政ニ關スル郡長若クハ郡參事會ノ處分若クハ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事若クハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得町村ノ行政ニ關スル訴願ハ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ十四日以内ニ其理由ヲ具シテ之ヲ提出ス可シ但此法律中別ニ期限ヲ定ムルモノハ此限ニ在ラス

此法律中ニ指定スル場合ニ於テ府縣知事若クハ府縣參事會ノ裁決ニ不服アリテ行政裁判所ニ出訴セントスル者裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ二十一日以内ニ出訴ス可シ

行政裁判所ニ出訴スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ內務大臣ニ訴願スルコトヲ得ス訴願及訴訟ヲ提出スルトキハ處分又ハ裁決ノ執行ヲ停止ス但此法律中別ニ規定アリ又ハ當該官廳ノ意見ニヨリ其停止ノ爲メニ町村ノ公益ニ害アリト爲ストキハ此限ニ在ラス

第二百十一條 監督官廳ハ町村行政ノ法律命令ニ背戾セサルヤ其事務錯亂滯塞セサルヤ否ヲ監視ス可シ監督官實ハ之力爲メニ行政事務ニ關シテ報告ヲ爲サシメ豫算及決算等ノ書類帳簿ヲ徴シ並實地ニ就テ事務ノ現況ヲ視察シ出納ヲ檢閲スルノ權

ヲ有ス

第二百十二條 町村又ハ其組合ニ於テ法律命令ニ依テ負擔シ又ハ當該官廳ノ職權ニ依テ命令スル所ノ支出ヲ定額豫算ニ載セス又ハ臨時之ヲ承認セス又ハ實行セサルトキハ郡長ハ理由ヲ示シテ其支出額ヲ定額豫算表ニ加ヘ又ハ臨時支出セシム可シ町村又ハ其組合ニ於テ前項ノ處分ニ不服アルトキハ府縣參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アルトキハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

第二百十三條 凡町村會ニ於テ議決ス可キ事件ヲ議決セサルトキハ郡參事會代テ之ヲ議決ス可シ

第二百十四條 內務大臣ハ町村會ヲ解散セシムコトヲ得解散ヲ命シタル場合ニ於テハ同時ニ三ヶ月以内更ニ議員ヲ改撰ス可キコトヲ命スヘシ但改撰町村會ノ集會スル迄ハ郡參事會町村會ニ代テ一切ノ事件ヲ議決ス

第二百十五條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ內務大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一 町村條例ヲ設ケ並改正スル事

二 學藝美術ニ關シ又ハ歷史上貴重ナル物品ノ賣却讓與質入書入交換若クハ大ナル變更ヲ爲ス事

前項第一ノ場合ニ於テ人口一萬以上ノ町村ニ係ルトキハ勅裁ヲ經テ之ヲ許可ス可

第二百二十六條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ハ内務大臣及大藏大臣ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

- 一 新ニ町村ノ負債ヲ起シ又ハ負債額ヲ増加シ及第百六條第二項ノ例ニ違フモノ但償還期限三年以内ノモノハ此限ニ在ラス
 - 二 町村特別税並使用料手数料ヲ新設シ増設シ又ハ變更スル事
 - 三 地租七分ノ一其他直接國稅百分ノ五十ヲ超過スル附加稅ヲ賦課スル事
 - 四 間接國稅ニ附加稅ヲ賦課スル事
 - 五 法律命令ノ規定ニ依ル官廳ヨリ補助スル歩合金ニ對シ支出金額ヲ定ムル事
- 第二百二十七條 左ノ事件ニ關スル町村會ノ議決ニ郡參事會ノ許可ヲ受タルコトヲ要ス
- 一 町村ノ營造物ニ關スル規則ヲ設ケ並改正スル事
 - 二 基本財産ノ處分ニ關スル事(第八十一條)
 - 三 町村有不動産ノ賣却讓與並質入書入ヲ爲ス事
 - 四 各個人特ニ使用スル町村有土地使用法ノ變更ヲ爲ス事(第八十六條)
 - 五 各種ノ保證ヲ與フル事
 - 六 法律勅令ニ依テ負擔スル義務ニ非ラスシテ向五ヶ年以上ニ亘リ新ニ町村住民

ニ負擔スル事

- 七 均一ノ稅率ニ據ラスシテ國稅府縣稅ニ附加稅ヲ賦課スル事(第九十條第二項)
 - 八 第九十九條ニ從ヒ數個人又ハ町村内ノ一部ニ費用ヲ賦課スル事
 - 九 第一百一條ノ準率ニ據ラスシテ夫役及現品ニ賦課スル事
- 第二百二十八條 府縣知事郡長ハ町村長、助役、委員、區長其他町村吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フコトヲ得其懲戒處分ハ譴責及過怠金トス郡長ノ處分ニ係ル過怠金ハ十圓以下府縣知事ノ處分ニ係ルモノハ二十五圓以下トス
- 追テ町村吏員ノ懲戒法ヲ設グル迄ハ左ノ區別ニ從ヒ官吏懲戒例ヲ適用スヘシ
- 一 町村長ノ懲戒處分(第六十八條第二項第五)ニ不服アル者ハ郡長ニ訴願シ其郡長ノ裁決ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ其府縣知事ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - 二 郡長懲戒處分ニ不服アル者ハ府縣知事ニ訴願シ府縣知事ノ懲戒處分及其裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
 - 三 本條第一項ニ掲載スル町村吏員職務ニ違フコト再三ニ及ヒ又ハ其情狀重キ者又ハ行狀ヲ乱リ廉耻ヲ失フ者財産ヲ浪費シ其分ヲ守ラサル者又ハ職務掌ラサル者ハ懲戒裁判ヲ以テ其職ヲ解クコトヲ得其隨時解職スルコトヲ得可キ者ハ(第六十七條懲戒裁判ヲ以テスルノ限ニ在ラス)

總テ解職セラレタル者ハ自己ノ所爲ニ非スシテ職務ヲ執ルニ堪ヘサルカ爲メ
解職セラレタル場合ヲ除クノ外退隱料ヲ受クルノ權ヲ失フモノトス

四 懲戒裁判ハ郡長其審問ヲ爲シ郡參事會之ヲ裁決ス其否決ニ不服アル者ハ府縣
參事會ニ訴願シ其府縣參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコ
トヲ得監督官廳ハ懲戒裁判ノ裁決前吏員ノ停職ヲ命シ並給料ヲ停止スルコト
ヲ得

第二百二十九條 町村吏員及使丁其職務ヲ盡サス又ハ權限ヲ越エタル事アルカ爲メ町
村ニ對シテ賠償ス可キコトアルトキハ郡參事會之ヲ裁決ス其裁決ニ不服アル者ハ
裁決書ヲ交付シ又ハ之ヲ告知シタル日ヨリ七日以内ニ府縣參事會ニ訴願シ其府縣
參事會ノ裁決ニ不服アル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得其訴願ヲ爲シタルト
キハ郡參事會ハ假ニ其財産ヲ差押フルコトヲ得

第八章 附則

第三十條 郡參事會、府縣參事會及行政裁判所ヲ開設スル迄ノ間郡參事會ノ職務
ハ郡長府縣參事會ノ職務ハ府縣知事、行政裁判所ノ職務ハ内閣ニ於テ之ヲ行フ可
シ

第三十一條 此法律ニ依リ初テ議員ヲ撰舉スルニ付町村長及町村會ノ職務並町村
條例ヲ以テ之ヲ定ム可キ事項ハ郡長又ハ指命スル官吏ニ於テ之ヲ施行ス可シ

第三十二條 此法律ハ北海道、沖繩縣其他勅令ヲ以テ指定スル島嶼ニ之ヲ施行セ
ス別ニ勅令ヲ以テ其制ヲ定ム

第三十三條 前條ノ外特別ノ事情アル地方ニ於テハ町村會及町村長ノ具申又ハ郡
參事會ノ具申ニ依リ勅令ヲ以テ此法律中ノ條規ヲ中止スルコトアルヘシ

第三十四條 社寺宗教ノ組合ニ關シテハ此法律ヲ適用セス現行ノ例規及其他ノ習
慣ニ從フ

第三十五條 此法律中ニ記載セル人口ハ最終ノ人口調査ニ依リ現役軍人ヲ除キタ
ル數ヲ云フ

第三十六條 現行ノ租稅中此法律ニ於テ直接稅又ハ間接トス可キ類別ハ內務大臣
及大藏大臣之ヲ告示ス

第三十七條 此法律ハ明治二十二年四月一日ヨリ地方ノ情況ヲ裁酌シ府縣知事ノ
具申ニ依リ內務大臣ノ指揮ヲ以テ之ヲ施行ス可シ

第三十八條 明治九年十月第三十號布告各區町村金穀公借共有物取扱上土木起
功規則、明治十一年七月第十七號布告郡區町村編制法第六條及第九條但書、明治
十七年五月第十四號布告區町村會法、明治十七年五月第十五號布告、明治十七年
七月第二十三號布告「明治十八年八月第二十五號布告其他此法律ニ牴觸スル成規
ハ此法律施行ノ日ヨリ總テ之ヲ廢止ス

第三百二十九條 內務大臣ハ此法律施行ノ責ニ任シ之カ爲メ必要ナル命令及訓令ヲ發布ス可シ

◎市町村會議員撰舉罰則

除市町村會議員撰舉罰則ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年五月二十九日

內閣總理大臣 伯爵 山縣有朋
內務大臣 伯爵 西郷從道
司法大臣 伯爵 山田顯義

法律第三十九號

○市町村會議員撰舉罰則

第一條 凡テ撰舉資格ニ必要ナル事項ヲ詐稱シテ撰舉人名簿ニ記載セラレタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス
議員タルコトヲ得サルノ實ヲ告ケスシテ議員トナリタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑

止スルノ目的ヲ以テ直接又ハ間接ニ金錢物品手形若クハ公私ノ職務ヲ撰舉人ニ授與シ又ハ授與スルコトヲ約束シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス
其授與又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第三條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ選舉會場ノ近傍若クハ撰舉人往來ノ途中ニ於テ撰舉人ニ酒食ヲ供シ又ハ撰舉會場ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シタル者ハ第二條物品授與ノ例ニ依リ處斷ス

其供給ヲ受ケタル者亦同シ

第四條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ノ爲ニ撰舉會場ニ往復スル車馬賃又ハ路費若クハ休泊料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シタル者ハ第二條金錢授與ノ例ニ依リ處斷ス
其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者亦同シ

第五條 第二條第三條及第四條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ刑法第二百三十四條ノ例ヲ以テ論ス

第六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ニ暴行ヲ加ハタル者ハ十五日以上三ヶ月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第七條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ヲ脅迫シ拘引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐僞ノ手段ヲ以テ其撰舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ第六條暴行ノ例ニ

依り處斷ス

第八條 第六條及第七條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第二條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ二月以上二年以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第九條 撰舉人ヲ脅迫シ若クハ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪スルノ目的ヲ以テ多衆ヲ嘯聚シタル者ハ二月以上二年以下ノ禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條 撰舉ノ際撰舉ニ關スル吏員若クハ撰舉掛ニ暴行ヲ加ヘ又ハ暴行ヲ以テ撰舉會場ヲ騷擾シ又ハ投票函ヲ抑留毀壞若クハ劫奪シタル者ハ三月以上三年以下ノ輕禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十一條 多衆ヲ嘯聚シテ第七條ノ罰ヲ犯シタル者ハ二年以上五年以下ノ輕禁錮ニ處シ二十圓以上二百圓以下ノ罰金ヲ附加ス

其情ヲ知り嘯聚ニ應シタル者ハ十五日以上六月以下ノ輕禁錮又ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 第九條第十條第十一條ノ場合ニ於テ犯罪者戎器又ハ兇器ヲ携帯シタルトキハ各本刑ニ一等ヲ加フ

第十三條 撰舉會場所在ノ郡市内ニ於テ撰舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若クハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鐘鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用キル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受ルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上二月以下ノ輕禁錮ニ處シ三圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第十四條 被撰人タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被撰人タルコトヲ得ス又ハ當撰ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 戎器又ハ兇器ヲ携帯シテ撰舉會場ニ入りタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第二條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然掲示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 他人ノ姓名ヲ詐稱シテ投票ヲ爲シ又ハ撰舉人タルコトヲ得スシテ投票ヲ爲シタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 當撰人第二條乃至第十六條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ其當撰ハ無効トス

第十九條 本法ニ規定シタルモノノ外刑法ニ正條アルモノハ各々其條ニ依リ重キニ依テ處斷ス

第二十條 本法ニ關スル犯罪ハ六箇月ヲ以テ期滿免除トス

第二十一條 本法ハ市町村會ノ外市制町村制並ニ明治二十二年法律第十一號ニ據リテ開設スル各種ノ議會ノ議員撰舉ニモ適用ス

◎議會並議員保護ノ件

明治二十二年十一月七日

(法律第二十八號)

第二條 法律ヲ以テ組織シタル議會ニ對シ公然誹毀侮辱シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上百圓以下ノ罰金ヲ附加ス但議會ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第二條 前條議會ノ議員ニ對シ其公務上ノ言論行爲ニ付公然誹毀侮辱シタル者又ハ議員ニ暴行ヲ加ヘタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第三條 議員其公務ヲ行フニ當リ暴行脅迫ヲ以テ其言論行爲ヲ妨害シタル者ハ四月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四條 議員ノ職ヲ辭セシムルノ目的又ハ其公務上ノ言論行爲ヲ妨害セントスル目的ヲ以テ議員ヲ脅迫シ又ハ恐喝シタル者ハ二十一年以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二十圓以下ノ罰金ヲ附加ス但被害者ノ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

第五條 第三條第三條ノ罰ヲ犯シ因テ議員ヲ毆傷シタル者ハ刑法毆打創傷ノ各本條

ニ照シ一等ヲ加ヘ重キニ從テ處斷ス

◎衆議院議員撰舉法罰則補則

(法律第四十號)

第一條 投票ヲ得又ハ他人ニ投票ヲ得セシメ若クハ他人ノ爲ニ投票ヲ爲スコトヲ抑止スルノ目的ヲ以テ撰舉會場又ハ投票所ノ近傍若クハ撰舉人往來ノ途中ニ於テ撰舉人ニ酒肴ヲ供シ又ハ撰舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬ノ類ヲ給シ及其供給ヲ及ケタル者又撰舉人ノ爲ニ撰舉會場若クハ投票所ニ往復スル爲車馬質又ハ路費若クハ宿料ノ類ヲ代辨シ又ハ代辨スルコトヲ約束シ及其代辨又ハ約束ヲ受ケタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十條ノ例ニ依リ處斷ス

第二條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ撰舉人ヲ脅迫シ拘引シ若クハ其往來ノ便ヲ妨ケ若クハ詐偽ノ手段ヲ以テ其撰舉權ノ施行ヲ妨害シタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十二條ノ例ニ依リ處斷ス

本條ニ記載シタル所業ヲ爲シテ第一條ニ記載シタル目的ヲ達シタル者ハ衆議院議員撰舉法第九十三條ノ例ニ依リ處斷ス

第三條 被撰入タルコトヲ得ル者ヲ指シテ被撰入タルコトヲ得ス又ハ當撰ヲ承諾スルノ意ナシトノ虚報ヲ流傳セシメタル者ハ五十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四條 撰舉會場又ハ投票所所在ノ郡市内ニ於テ撰舉ノ氣勢ヲ張ル爲多衆集合シ若シクハ隊伍ヲ組ミテ往來シ又ハ篝火松明ヲ焚キ若クハ鑼鼓法螺喇叭ノ類ヲ鳴ラシ旗幟其他ノ標章ヲ用ヘル等ノ所業ヲ爲シ警察官ノ制止ヲ受クルモ仍其命ニ從ハサル者ハ十五日以上三月以下ノ輕禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以上ノ罰金ヲ附加ス

第五條 第一條ニ記載シタル目的ヲ以テ張札ノ類ヲ公然揭示シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條 當撰人第一條乃至第四條ニ依リ刑ニ處セラレタルトキハ衆議院議員撰舉法第九十九條ノ例ニ依ル

第七條 本法ニ關スル犯罪ハ衆議院議員撰舉法第一百四條ノ例ニ依ル

◎地租條例ニ關スル諸規則

明治十年二月十三日

(太政官第十八號布告)

地租改正後買上地拂下地潰地等收稅區分左之通相定候係此旨布告候事

第一條 民有地ヲ買上ルトキハ其年分ノ稅ハ買上タル前月分マテ日割ヲ以テ收入スヘシ

第二條 官有地ヲ拂下ルトキ其年分ノ稅ハ拂下タル翌月分ヨリ月割ヲ以テ收入スヘシ

◎第七號

明治十七年三月十五日太政官布告

全二十二年十一月二十九日法律第三十號改正

地租條例別冊ノ通制定シ明治六年七月第二百七十二號布告地租改正條例及地租改正ニ關スル條規其他本條例ニ抵觸スル者ハ廢止ス

但東京府管轄伊豆七島小笠原島函館縣沖繩縣札幌縣根室縣ハ當分從前ノ通タルヘシ

右奉 勅旨布告候事

◎地租條例

第一條 地租ハ地價百分ノ二ケ半ヲ以テ一年ノ定率トス但本條例ニ地價ト稱スルハ土地臺帳ニ掲ケタル價額ヲ謂フ

第二條 地租ハ年ノ豐凶ニ由リテ増減セス

第三條 有租地ハ區別シテ一類ト爲ス

第一類 田、畑、郡村宅地、市街宅地、鹽田、鑛泉地、

第二類 池沼、山林、牧場、原野、雜種地、

第一類 中又ハ第二類中ノ各地目變換スルモノヲ地目變換ト謂フ

第二類 地ニ勞費ヲ加ヘ第一類地下ナスモノ開墾ト謂フ

第一類 地又ハ第二類地ノ山崩、山欠、押掘、石砂入、川成、海成、湖水成ノ如キ天災ニ罹リ地形ヲ變シタルモノヲ荒地ト謂フ

第四條 公立學校地、鄉村社地、墳墓地、用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、禁伐林及ヒ公ケノ用ニ供スル道路ハ地租ヲ免ス

第五條 土地ノ丈量ハ曲尺ヲ用ヒ六尺ヲ間ト爲シ方壹間ヲ以テ歩ト爲シ三拾歩ヲ畝ト爲シ拾畝ヲ段ト爲シ拾段ヲ町ト爲ス但市街宅地ハ方一間ヲ以テ坪ト爲シ坪ノ拾分壹ヲ合ト爲シ拾分壹ヲ勻ト爲ス

第六條 地價ヲ定メ又ハ地價修正スルトキハ地盤ヲ丈量ス

第七條 地價ハ其地變換開墾又ハ第一類地ヲ第二類ニ變換シタルトキニ非サレハ之ヲ修正セズ

第八條 一般ニ地價ノ修正ヲ要スルトキハ前以テ其旨ヲ布告スヘシ

第九條 地價ハ其地ノ品位等級ヲ詮定シ其所得ヲ審査シ尙ホ其土地ノ情況ニ應シ之ヲ定ム

第十條 地目ヲ變換シ若クハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

地目變換ノ土地ハ五年以内ニ於テ地價ヲ修正シ六年目ヨリ修正地價ニ依リ地價ヲ徵收ス但第十六條第六條第六項ノ場合ハ此ニ限在ラス

第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノハ五年間其地價ヲ据置六年目ニ至リ之ヲ修正ス

第十一條 免租地ヲ有租地ト爲サントスルトキハ地方廳ノ許可ヲ受クヘシ地租ハ其地ノ現況ニ依リ之ヲ定ム

第十二條 地租ハ土地臺帳記名者ヨリ徵收ス但買入ノ土地、其質取主ニ於テ之ヲ納ムヘシ

第十三條 有租地ヲ公立學校地、鄉村社地、墳墓地、禁伐林ト爲ストキハ其地租ハ許可又ハ命令ヲ受ケタル月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免シ用惡水路、溜池、堤塘、井溝、鐵道用地、及公衆ノ用ニ供スル道路ト爲ストキハ其地租ハ工事着手ノ月分ヨリ月割ヲ以テ之ヲ免ス

免租地ヲ有租地ト爲ストキハ其地租ハ許可ヲ得シ翌月分ヨリ月割ヲ以テ徵收ス

第十四條 地價修正ノ土地ハ其年ヨリ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收ス但第十條第二項ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十五條 荒地又ハ新開地ハ免租年期明ノ翌年分ヨリ地租ヲ徵收ス

第十六條 開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ届出ヘシ

前項ノ開墾地ハ開墾着手ノ年ヨリ十年目ニ其成功ノ部分ニ對シ地價ヲ修正ス

十年以内ニ成功シ能ハサル開墾ヲ爲サントスルトキハ地方廳ニ願出銀下年期ノ許

可テ受クヘシ 鐵下年期ハ三十年以内トス但年期中ハ原地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
官有地ヲ開拓シテ民有ニ歸セシ土地ハ其素地相當ト認ムル所ノ地價ヲ定メ尙十年
以内ノ鐵下年期ヲ許可ス但年期中ハ現定地價ニ依リ地租ヲ徵收ス
官有ノ水面ヲ埋立民有ニ歸セシ土地ハ五十年以内新開免租年期ヲ許可ス
耕地ノ區畫若クハ形狀ヲ變更スル爲メ又ハ地目ヲ變換スル爲メ開墾ニ等シキ勞費
ヲ要スルモノハ本條第三項ニ準シ三十年以内ノ地價據置年期ヲ許可スルコトアル
ヘシ

第十七條 削除

第十八條 第十六條第三項第四項第五項ノ年期明ニ至リ事業成功ノ至ラサルモノハ
更ニ二十年以内ノ繼年期ヲ許可ス

第十九條 鐵下年期明地價據置年期明新開免租年期明ノトキ其地價ヲ定メ又ハ修正
ス

第二十條 荒地ハ其被害ノ年ヨリ十五年以内免租年期ヲ定メ年期明ニ至リ元地價ニ
復ス

海嘯ノ爲メ潮水浸入シ作土ヲ損害シタルモノハ其狀況ニ依リ前項ニ準據スルコト
アルヘシ

第二十一條 荒地免租年期明ニ至リ其地ノ現況原地價ニ復シ難キモノハ十五年以内

七割以下ノ低價年期ヲ定メ年期明ニ至リ原地價ニ復ス

第二十二條 低價年期明ニ至リ尙ホ地價ニ復シ難キモノ及ヒ荒地免租年期明ニ至リ
原地目ニ復セス他ノ地目ニ變スルモノ、其地ノ現況ニ依リ地價ヲ定ム

第二十三條 免租年期明ニ至リ尙ホ荒地ノ形狀ヲ存スルモノハ更ニ十五年以内免租
繼年期ヲ定ム其年期明ニ至リ原地價ニ復シ難キモノハ第二十一條第二十二條ニ依
リ虞分ス

第二十四條 川成、海成、潮水成、ニシテ免租年期明ニ至リ原形ニ復シ難キモノハ更
ニ二十年以内免租繼年期ヲ許可ス其年期明ニ至リ尙ホ原地目ニ復セス地目ニ變セ
サルモノハ川、海、湖、ニ歸スルモノトス

第二十五條 土地ヲ欺隱シ地租ヲ遁脱スル者ハ四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ處シ現
地目ニ依リ地價ヲ定メ欺隱年間ノ地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以内ニ溯ルコ
トヲ得ス

第二十六條 第十一條ニ違犯スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ現地目ニ依
リ地價ヲ定メ其地租ヲ追徵ス但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス

第二十七條 第十條第一項第十六條第一項ニ違犯スル者ハ壹圓以上壹圓九十五錢以
下ノ料料ニ處ス其開墾ノ届出ヲ爲ササル者ハ現地目ニ依リ地價ヲ定メ其地租増額
ヲ追徵ス

但發覺ノ日ヨリ三年以前ニ溯ルコトヲ得ス
 第二十八條 第二十五條以下ノ處犯借地人小作人ノ所爲ニ係リ所有主其情ヲ知ラサルトキハ其借地人小作人ヲ罰シ地租ハ所有主ヨリ追徴ス
 第二十九條 第二十五條第二十六條第二十七條第二十八條ノ刑ニ當ルモノ自首スルトキハ其罰金科料ヲ免ス但其追徴スヘキ地租ハ仍ホ之ヲ納メシム

◎明治二十二年一月二十二日布告
 朕徵兵令改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十年一月二十二日

内閣總理大臣 伯爵 黒田 清隆
 陸軍大臣 伯爵 大山 巖
 海軍大臣 伯爵 西郷 從道

法律第一號

徵兵令

第一章 總則

第一條 日本帝國臣民ニシテ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ男子ハ總テ兵役ニ服スルノ

義務アルモノトス

第二條 兵役ハ分テ常備兵役後備兵役及國民兵役トス

第三條 常備兵役ハ分テ現役及豫備役トス

現役ハ陸軍ハ三箇年海軍ハ四箇年ニシテ滿二十歳ニ至リタル者之ニ服シ豫備役ハ陸軍ハ四箇年海軍ハ三箇年ニシテ現役シ終リタル者之ニ服ス

第四條 後備兵役ハ五箇年ニシテ常備兵役ヲ終リタル者之ニ服ス

第五條 國民兵役ハ滿十七歳ヨリ滿四十歳迄ノ者ニシテ常備兵役及後備兵役ニ在ラサル者之ニ服ス

第六條 各兵役ノ期限既ニ滿ルト雖モ戰時或ハ事變ニ際スルトキ若クハ臨時ニ演習或ハ觀兵ノ舉アルトキ若クハ航海中或ハ外國駐劄中ハ其期ヲ延スコトアル可シ

第七條 重罪ノ刑ニ處モラレタル者ハ兵役ニ服スルコトヲ詳サス

第八條 陸軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ壯丁ノ身體藝能職業ニ從ヒ步兵騎兵工兵砲兵輜重兵職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤者ヲ以テ之ニ充ツ

海軍現役兵ハ毎年所要ノ人員ニ應ジ沿海地方及島嶼ノ壯丁ヲ調査シ海軍ニ適スル職業ニ役ヒ水兵火夫職工及雜卒ニ區別シ抽籤ノ法ニ依リ當籤ノ者ヲ以テ之ニ充ツ

但海軍志願兵徵募規則ニ依リ服役スル者ハ本令ノ限ニアラス
 警備隊ヲ置キタル島嶼ノ壯丁ハ總テ之ヲ警備隊ニ充テ其地ニ於テ服役セシム但シ

營期限ハ一箇年以内トス

第九條 雜卒ノ現役期限ハ其職務ニ因リ之ヲ短縮スルコトアル可シ但常備兵役ノ全期ハ之ヲ減縮スルコトナシ

第十條 二十歳ニ至ラスト雖モ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニ由リ現役ニ服スルコトヲ得

第十一條 滿十七歳以上滿二十六歳以下ニシテ官立學校(小學科及撰科等ノ別科ヲ除ク)府縣立師範學校中學校若クハ文部大臣ニ於テ中學校ノ學科程度ト同等以上ト認メタル學校若クハ文部大臣ノ認可ヲ經タル學校ニ依リ法律學政治學理化學ヲ教授スル私立學校ノ卒業證書ヲ所持シ若クハ陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シ服役中食料被服裝具等ノ費用ヲ自辨スル者ハ志願ニ由リ一箇年間陸軍現役ニ服スルコトヲ得但費用ノ全額自辨シ能ハサル者ハ其幾部ヲ官給スルコトアル可シ(二十二年十一月十二日法律第二十九號ヲ以テ)(官立學校)ノ下割注ニ(帝國大學科及小學科ヲ除ク)トアルヲ本表ノ如ク改ム

前項ノ一年志願兵ハ特別ノ教育ヲ授ク現役滿期ノ後二箇年間豫備役ニ五箇年間後備役ニ服セシム
滿十七歳以上二十六歳以下ニシテ官立府縣立師範學校ノ卒業證書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシム其服役ニ關スル費用ハ官給

トス同上法律ヲ以テ本項ヲ改正ス
前項ノ現役ヲ終リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム向上

第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其教職ヲ罷ムル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ更ニ常例ノ兵役ニ服セシム但第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者ハ此限ニ在ラス同上法律ヲ以テ追加ス

第十二條 禁錮ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ由リ懲罰ニ處セラレタル者ハ一年志願兵タルコトヲ許サズ

第十三條 現役中殊ニ勤務ニ熱シ品行方正ナル者ハ歸休ヲ命スルコトアルヘシ

第十四條 豫備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ之ヲ召集ス平常ニ在テハ每年一度六十日以内勤務演習ノ爲メ之ヲ召集シ又毎年一度簡閱點呼ヲ爲ス

第十五條 後備兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ豫備兵ニ次テ之ヲ召集ス平常ニ在テハ勤務演習及簡閱點呼ヲ爲スコト豫備兵ニ同シ

第十六條 國民兵ハ戰時若クハ事變ニ際シ後備兵ヲ召集シ仍ホ兵員ヲ要スルトキニ限リ之ヲ召集ス

第三章 免役延期及猶豫
第十七條 兵役ヲ免スルハ廢疾又ハ不具等ニシテ徵兵検査規則ニ照シ兵役ニ堪ヘサル者ニ限ル

第十八條 左ニ掲ケル者ハ徵集ヲ延期ス次年ニ於テ尙ホ徵集ニ適セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第一 體格完全且強壯ナルモ身軀未タ定尺ニ滿タサル者

第二 疾病中又ハ病後ニシテ勞役ニ堪ヘサル者

第十九條 公權ノ剝奪若クハ停止ヲ附加スヘキ重輕罪ノ爲メ訊問若クハ拘留中ノ者ハ徵集ヲ延期ス

第二十條 徵集ニ應スルトキハ其家族自活シ能ハサル確證アル者ハ本人ノ願ニ由リ徵集ヲ延期ス其事故三箇年ヲ過クルモ猶ホ止マサル者ハ國民兵役ニ服セシム但分家又ハ絶家廢家再興ノ故ヲ以テ本條ニ當ル者其他自活シ能ハサル事故ヲ作爲シタル者ハ其願ヲ許可ス

第二十一條 第十一條第一項ニ掲ケル學校ニ在校ノ者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス其事故滿二十六歲迄ニ止ミ又ハ二十六歲ヲ過クルモ尙ホ止マサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス但第十一條第一項ニ依リ一年志願兵ヲ志願スル者及第十一條第三項ニ依リ服役スル者ハ此限ニアラス同上法律ヲ以テ本項ヲ改正ス

學術修業ノ爲メ外國ニ寄留スル者ハ本人ノ願ニ由リ滿二十六歲迄徵集ヲ猶豫ス二十六歲迄ニ歸朝シ又ハ二十六歲ヲ過キ歸朝スル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵

集ス但陸軍試驗委員ノ試驗ニ及第シタル者ハ一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第二十二條 余人ヲ以テ代フ可カラサル職務ヲ奉スル官吏及市町村長助役及收入役

ハ豫備兵ニ在ト後備兵ニ在ルトヲ問ハス勤務演習簡閱點呼ノ爲メ召集スルコトヲシ法律ヲ以テ設立シタル議會ノ議員其開會中亦同シ

第四章 豫備徵員

第二十三條 抽籤番號ノ順序ニ從ヒ前年所要ノ現役兵員ニ超過スル壯丁ハ一箇年間(十二月一日ヨリ起算ス)豫備徵員トシテ戰時若クハ事變ニ際シ兵員ヲ要スルトキ又ハ其年徵集ノ兵員缺クルトキハ之ヲ徵集ス

第二十四條 豫備徵員ニシテ其期限内ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第五章 雜則

第二十五條 毎年一月ヨリ十二月迄ニ滿二十歲ト爲ル者ハ其年ノ一月一日ヨリ同月三十一日迄ニ書面ヲ以テ(戶主ニ非サル者ハ其戶主ヨリ本籍ノ市町村長ニ届出可シ)但二十歲未滿ニシテ現役ヲ終ヘタル者又ハ現役中ノ者ハ本條ノ届出ヲ爲スニ及ハス

第二十六條 徵集ハ本籍所在ノ徵募區ニ於テスルヲ例トス他ノ徵募區ニ寄留スル者ハ願ニ由リ其區ニ於テ徵集ニ應スルコトヲ得

第二十七條 疾病又ハ犯罪等ノ爲メ期限ニ際シ入營シ難キ者ハ翌年之ヲ徵集ス

第二十八條 兵役ヲ免レンカ爲メ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒ又ハ逃亡若クハ潛匿シタル者又ハ正當ノ事故ナクシテ身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ抽籤ノ法ニ依ラスシテ之ヲ徵集ス

第二十九條 現役年期ノ計算ハ其總テ其入營スル年ノ十二月一日ヨリ起算シ豫備役及後備役年期ノ計算ハ其轉役スルノ十二月一日ヨリ(第十一條第三項ニ依リ服役スル者ノ現役年期ノ計算ハ別ニ勅令ヲ以テ規定スル月日ヨリ起算ス)第六條ニ依リ延期シタル者モ其起算法亦同シ但禁錮ノ刑ノ処セラレ又ハ監視ニ附セラレ又ハ逃亡若クハ失踪シタル者其刑期中及逃亡失踪中ノ日數ハ服役年期ニ算入セス(同上法律ヲ以テ割注ヲ追加ス)

第六章 罰則

第三十條 第二十五條ノ届出ヲ爲ササル者及正當ノ事故ナク身體ノ検査ヲ受ケサル者ハ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 兵役ヲ免レンカ爲メ逃亡シ又ハ潛匿シ若クハ身體ヲ毀傷シ疾病ヲ作爲シ其他詐僞ノ所爲ヲ用ヒタル者ハ一月以上一年以下重禁錮ニ處シ三十圓以上三十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

第四十二條 本令ハ明治二十二年一月ヨリ施行ス但第二十五條ノ届出期限ハ明治二十二年三月一日ヨリ同月十五日迄トス

第三十三條 本令ハ北海道ニ於テ函館江刺及福山ヲ除クノ外及沖繩縣並東京府管下小笠原島ハ當分ニ施行セス

第三十四條 本令中市町村長トアルハ市制町村制ヲ實施スル迄ノ間戸長ノコトハス

第三十五條 舊令第十一條ニ依リ二箇年間陸軍現役ニ服シタル者ハ本令第十一條ニ照シ三箇年間豫備役ニ五年間後備役ニ服セシメ其豫備役二箇年ヲ終リタル者ハ直ニ後備役ニ服セシメ通シテ七箇年トス

第三十六條 舊徵兵令第十七條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十七條 舊令第十八條第二項ニ依リ既ニ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十八條 舊令第十八條第七項及第二十一條ニヨリ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ徵集ヲ延期シ其事故七箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第三十九條 舊令第十八條第三項ノ生徒ニシテ第一豫備徵員ト爲リ尙ホ在校ノ者ハ該徵員タルコトヲ止メ滿二十七歳迄徵集ヲ猶豫シ其事故二十七歳ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ國民兵役ニ服セシム

第四十條 第三十六條第三十八條及第三十九條ニ掲グル者其事故各其本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十一條 舊令第十八條第三項若クハ第十九條ニ依リ徵集猶豫ニ屬シ在校ノ者ハ其事故六箇年以内ニ止ミタルトキ又ハ六箇年ヲ過クルモ尙ホ止マサルトキハ抽籤ノ法ニ依リ徵集ス但一年志願兵ヲ志願スルコトヲ得

第四十二條 舊令第三十條ニ依リ補充員ト爲リタル者ハ之ヲ豫備徵員ト爲シ一箇年間(明治二十一年十二月一日ヨリ起算ス)ニ徵集セサル者ハ國民兵役ニ服セシム

第四十三條 舊令第三十一條ニ依リ第一豫備徵員ト爲リ在校セサル者及舊令第三十二條ニ依リ第二豫備徵員ト爲リタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム補充員ヨリ第一豫備徵員トナリタル者亦同シ

第四十四條 明治二十二年第四十六號布告徵兵令ニヨリ國民軍ノ外免役又ハ平時免役若クハ徵集猶豫ニ屬シタル者ハ直ニ國民兵役ニ服セシム

第四十五條 舊令第八條ニ依リ海軍兵ト爲リタル者ノ服役期限ハ同令第三條及第四條ニヨル

第四十六條 第三十六條第三十七條第三十八條ニ掲グル徵集延期ノ者及第三十九條第四十一條ニ掲グル徵集猶豫ノ者其事故各本條ノ期限内ニ止ミタルトキハ三日以内ハ本簿ノ市町村長ニ届出可シ

第四十七條 第三項又ハ第四項ニ依リ服役中ノ者ニシテ滿二十六歳迄ニ其敎職ヲ罷ムル者ハ三日以内ニ本籍ノ市町村長ニ届出可シ(同上法律ヲ以テ本項ヲ追加ス)

第一項第二項ノ届出ヲ爲ササル者及本令施行前舊令第三十五條第三十六條ノ届出ヲ爲サスシテ本令施行後ニ發覺スル者ハ本令第三十條ニヨリ處分スヘシ

同上法律ヲ以テ(前項)トアルヲ(第一項第二項)ト改ム

◎國民軍條例 明治二十八年

(勅令第十二號)

第一條 國民軍ハ陸軍ニ屬シ主トシテ衛戍若クハ邊境ノ警備ニ充ツ

第二條 國民軍ハ國民兵ヲ以テ之ヲ編制ス

第三條 國民兵ノ召集及ヒ解散勅令ニヨリ師團長之ヲ行フ

戒嚴ヲ宣告シ得ルノ權アル司令官時機切迫シテ通信斷絶シ命ヲ請フノ途ナキトキハ直ニ召集ヲ行フコトヲ得

第四條 國民軍幹部ハ必要ニ應シ現役豫備後備ノ陸軍將校 同相當官、准士官下士ヲ以テ充ツルノ外左ニ渡タル者ヨリ撰拔シテ之ニ充ツ

一 退役陸軍將校、同相當官、准士官ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

二 元陸軍下士、上等兵ニシテ國民兵役ニ在ル者若クハ國民軍編入志願ノ者

三 國民兵中材能技料アル者

第五條 陸軍後備兵ニシテ後備軍召集ニ加ハラサル者ハ特ニ國民軍ニ編入スルコトヲ得

第六條 第四條第二第三ニ該ル者ノ任官ハ陸軍武官等表ニ依リ士官以上ハ師團長ノ具狀ニ由リ陸軍大臣之ヲ奏薦宣行シ其ノ他ハ師團長ノ認可ヲ得テ聯隊長同權以上ノ權アル長官之ヲ行フ

第三條第二項ニ依リ召集ヲ行ヒタル司令官ハ召集員ニ士官以上ノ勤務ヲ命スルコトヲ得

其勤務ヲ命セラレタル者ノ身分取扱ハ其ノ官職ヲ有スル者ニ準ス

前項ノ司令官師團長ニアラサルトキハ准士官以下ノ任官ニ付師團長ト同一ノ權ヲ有ス

第七條 國民軍幹部ノ進級ハ拔擢トス其ノ任官ハ前條ノ例ニ依ル

第八條 國民軍編制ノ爲メ召集セラレタル者及志願ニ由リ國民軍ニ編入セラレタル者ハ其ノ間現役ニ準ス

第九條 第四條第三ニ該リ任官シタル者解散ノトキハ准士官以上ハ之ヲ退役トシ下士ハ其ノ官ヲ免ス

◎陸軍省令第二號

○國民軍召集規則左之通定ム

明治二十八年二月一日

陸軍大臣、伯爵西郷從道

國民軍召集規則

第一章 總則

第一條 國民兵召集別テ左ノ四種トス

第一種 陸軍ニ於テ軍事教育ヲ受ケタル者

第二種 滿二十一歳以上二十六歳未滿ニシテ陸軍ニ豫備徵員タリシ者

第三種 滿二十六歳以上三十歳未滿ニシテ豫備徵員タリシ者

第四種 前三種ニ属セサル者

第二條 各種ノ國民兵召集ハ各種同時若クハ各別ニ之ヲ行ヒ又ハ一部ノ地方ヲ限リ之ヲ行フコトヲ得

第三條 各種ノ國民兵ハ年齢若キ者ヨリ之ヲ召集スルヲ例トス

第四條 本規則ニ於テ郡ト稱スルハ市、(東京、京都、大阪ノ三市ニ在テハ區)及嶋嶼ヲ置キタル島嶼ヲ包含ス

第五條 本規則ニ於テ師團長ト稱スルハ近衛師團長ヲ包含セス又警備隊區ニ在テハ

同司令官ハ大隊區司令官、島司郡長、市長（東京京都大阪ノ三市ニ在テハ區長）ノ郡長及町村長戸長ハ町村長ノ職務ヲ行フ

第六條 戒嚴ヲ宣告シ得ル權アル司令官國民兵ノ召集ヲ行フ場合ニ在テ師團長ニアラサル司令官ハ其召集ニ關シ師團長ト同一ノ職權ヲ有ス

第二章 召集

第七條 師團長國民兵召集令ヲ下ストキハ之ト同時ニ召集ノ種類所要ノ人員及召集地ヲ定テ旅團長ヲ經テ大隊司令官ニ達シ地方長官ニ通知スヘシ

師團長所要ノ人員ヲ定ムルニハ召集區域中召集ノ種類毎ニ其總員（不應招員ノ見込數ヲ省キタルモノ）率トシ比例ヲ以テ之ヲ各大隊區ニ配賦ス但配賦人員ニハ檢査不合格見込人員凡十分ノ一ヲ加算スルモノトス

第八條 大隊區司令官前條ノ達ヲ受クレハ各郡ニ配賦スヘキ人員召集地及應招員ノ一旦集合スヘキ地點並ニ其集合期日ヲ定メ之ヲ郡長ニ通達ス

大隊區司令官召集人員ヲ定ムルニハ大隊區中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ各郡ニ之ヲ配賦ス

大隊區司令官ハ各郡ノ應招員並ニ其召集地到着ノ期日ヲ豫定シ之ヲ旅團長ヲ經テ師團長ニ報告スヘシ

第九條 郡長ハ地方長官ヨリ國民兵召集ヲ受領シ大隊區司令官ヨリ前條第二項ノ通

達ヲ受ケタルトキハ召集令召集スヘキ人員召集集合地及集合期日ヲ町村長ニ通達シ集合地ニハ吏員ヲ派遣スヘシ

郡長召集人員ヲ定ムルニハ郡中召集ノ種類毎ニ其總員ヲ率トシ比例ヲ以テ之ヲ各町村ニ配賦ス

第十條 町村長前條ノ達ヲ受ケタルトキハ其配賦人員ニ應シ第一様式ノ召集令傳達書ヲ作り之ヲ國民兵中召集スル種類ニ相當スル者ノ内年齢若キ者ヨリ逐次ニ之ヲ交付シ配賦人員ニ充タシメ然ル後集合地ニ至リ派遣ノ郡吏員ニ第二様式ノ應召員連名簿ニ通テ附シテ應召員ニ交付スヘシ此名簿ニハ其町村長ニ在籍スル國民兵中召集令傳達書ヲ交付シタル總テノ人員ヲ掲ケ不應召員ハ其事由ヲ記シ第十二條ノ書類ヲ添フヘシ

第十一條 召集傳達書ヲ受ケタル國民兵ハ町村長ノ指示ニ從ヒ該傳達書ヲ携帯シ發送スヘシ

第十二條 正當ノ事故ニ因リ召集ニ應シ難キモノハ本人或ハ戸主若クハ其家族ヨリ二十四時間以内ニ町村長ニ届出ツヘシ但其事故傷痕疾病ニ係ルトキハ醫師ノ診斷書ヲ其他ハ憲兵ハ警察官ノ承認書ヲ添フヘシ
前項ニ違背シタル者ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處シ又ハ五日以上十日以下 拘留ニ處ス

第十三條 郡吏員集合地ニ至レハ町村長ヨリ受領セシ連名簿ヲ大隊區司令官或ハ大隊區司令官出張員ニ差出スヘシ

第十四條 應召員集合地ニ到着スレハ大隊區司令官或ハ大隊區司令官出張員身體檢査ヲ爲サシメ合格不合格ヲ召集令傳達書並ニ連名簿ニ記入シ連名簿一通ハ之ヲ郡吏員ニ傳達書ハ之ヲ本人ニ返附シ其合格者ハ郡吏員ヲシテ召集地ニ引率セシメ不合格者ハ直子ニ歸郷セシムヘシ但身體檢査ハ最寄衛戍地ノ在職軍醫若クハ地方醫師ヲシテ之ヲ行ハシム

第十五條 郡吏員應召員ヲ引率シ召集地ニ到着シタルトキハ連名簿ト共ニ之ヲ國民兵受領員ニ交付スヘシ

第十六條 召集地ニ於ケル國民兵受領員ハ師團長適宜ニ之ヲ編成スヘシ

第十七條 召集令傳達書ハ應召員ヨリ編入セラレタル部隊ニ差出スモノトス

第十八條 陸軍召集條例第二章本則ニ矛盾セサルモノハ之ヲ準用ス

第三章 旅費支給

第十九條 國民兵召集旅費ハ當該監督部長陸軍大臣ノ命令及師團長ノ請求ニヨリ居住地ヨリ集合地迄ノ概算額ハ之ヲ陸軍臨時召集旅費支出規程ニ定ムル所ノ出納官吏ニ送附シ出納官吏ハ適宜之ヲ應召員ニ交付スヘシ

其集合地ヨリ召集地迄ノ旅費及檢査不合格者ノ歸郷旅費概算額ハ之ヲ大隊區司令

官ニ送付シ該司令官又ハ司令部出張員ヨリ本人ニ送付スヘシ

第二十條 國民兵召集旅費ハ陸軍給與令第三十七條ノ額ニヨル

第二十一條 志願ニヨリ國民軍ノ幹部ニ充テラレタル者ハ前條ノ例ニヨリ編成地ニ於テ旅費ヲ給ス

第四章 雜則

第二十二條 第六條ノ場合ニ在テ前諸條ノ規則ニヨリ雜キトキハ司令部必要ニ應シ適宜處置スルコトヲ得

第二十三條 後備軍召集ニ應セサル在郷軍人ニシテ國民兵ト共ニ召軍セラル、時ハ其召集手續ハ本規則ニヨリ施行スルコトヲ得 (様式略ス)

◎狩獵規則

明治二十五年十月五日

(勅令第八十四號)

第一章 獵具獵法

第一條 此規則ニ於テ狩獵ト稱スルハ銃器、各種ノ網、放鷹、網繩又ハ獵ヲ以テ鳥獸ヲ捕獲スルヲ謂フ前項各獵具ノ種類及制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニヨル

第二條 爆發物ト提銃若クハ危險ナル器及陷穽ヲ以テ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

前項ノ外ノ獵具獵法ニシテ第一條ニ掲ケサルモノニ就テハ地方長官(東京府下ハ

警視總監以下做之ハ農商務大臣ノ許可ヲ經テ便宜取締規則ヲ設クルコトヲ得
第三條 日出前日没後又ハ市街、人家稠密ノ場所、衆人群集ノ場所ニ於テ若クハ銃丸ノ達スヘキ虞アル建物、船舶、汽車ニ向テ銃獵ヲ爲スコトヲ得ス
第四條 左ニ掲クル場所ニ於テハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

一 御獵場

二 禁獵制札アル場所

三 公道

四 公園

五 社寺境内

六 墓地

七 欄、柵、圍障ヲ設ケ又ハ作物植付アル他人ノ所有地但所有者又ハ管理人ノ承諾ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第五條 地方長官ハ土地所有者ノ出願又ハ其他ノ理由ニ因リ必要ト認ムル場合ニ於テハ禁獵制札ヲ建ツルコトヲ得

第二章 狩獵免許

第六條 狩獵ヲ爲サント欲スル者ハ地方長官ニ願出テ免狀ヲ受クヘシ但欄、柵、圍障アル宅地内ニ於テ銃器ヲ使用セスシテ狩獵ヲ爲ス者ハ此限ニ在ラス
第三十條ノ處罰ヲ受ケタル者ハ滿一箇年ヲ經過セサレハ再ヒ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第七條 免狀ヲ分チテ職獵免狀、遊獵免狀トシ更ニ分チテ各甲乙ノ二種トス
職獵免狀ハ主計ノ爲メニ狩獵ヲ爲ス者ニ下付シ遊獵免狀ハ遊樂ノ爲メニ狩獵ヲ爲ス

者ニ下付スルモノトス

第八條 左ニ掲クル者ハ職獵免許ヲ受クルコトヲ得ス

- 一 判任以上ノ官吏及其待遇ヲ受クル者
 - 二 所得稅ヲ納ムル者
 - 三 地租拾五圓以上ヲ納ムル者
 - 四 所得稅拾五圓以上ヲ納ムル者ノ家族
- 第九條 免狀ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ免許料ヲ納ムヘシ

狩獵免狀	甲種	金五拾錢
	乙種	金壹圓
遊獵免狀	甲種	金五圓
	乙種	金十圓

第十條 甲種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ滿一箇年トシ乙種免狀ノ有効期限ハ十月十五日ヨリ翌年四月十五日マテトス

第十一條 免狀ノ使用ハ免許本人ニ限ルモノトス但甲種職獵免許ヲ有スル者ハ助手トシテ無免狀ノ者三人以下ヲ同伴スルコトヲ得

第十二條 獵者ハ出獵ノ際必ス免狀ヲ携帯スヘシ警察署、憲兵森林官及市町村長ハ獵者ノ免狀ヲ檢査スルコトヲ得獵區管理人其管理スル区内ニ於テモ亦同シ前項ノ場合ニ於テ獵者ハ免狀ノ檢査ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 免狀ヲ亡失シタルトキハ其他ノ所轄警察署及當初之ヲ下付シタル官廳ニ届出ツヘシ

免狀ヲ亡失シ若クハ毀損シタルトキハ其再渡又ハ書換ヲ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ手数料金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第十四條 十六歳未満ノ者ハ乙種ノ免狀ヲ受クルコトヲ得ス

第十五條 免狀ハ其効力ヲ失ヒタル日ヨリ三十日以内ニ當初之ヲ下付シタル官廳ニ返納スヘシ

第三章 獵區設定

第十六條 日本臣民ニシテ獵區ヲ設定セント欲スル者ハ十箇年以内ノ期限ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ願出テ免許ヲ受ヘシ

獵區ノ設定ニ關ズル制限ハ農商務大臣ノ定ムル所ニ依ル

第十七條 官有ノ森林原野水面ヲ借用シテ獵區ト爲サント欲スル者ハ管轄官廳ニ願出テ許可ヲ受クヘシ獵區設定ノ場所他人ノ所有ニ係ルトキハ先ツ其所有者又ハ代理人ノ承諾ヲ受クヘシ

第十八條 一獵區ノ面積ハ千五百町歩ヲ以テ最大限トシ一箇年金拾圓ノ割ヲ以テ免許料ヲ納ムヘシ連續ノ面積最大限ヲ越エルキハ其越ユル所百町歩マテ毎ニ一箇年金壹圓ノ割ヲ以テ免許料ヲ増納ス

農商務大臣ハ土地ノ情况ニ因リ前項ノ免許料ヲ低減スルコトヲ得

第十九條 獵區内ニ於テハ免許本人及其承諾ヲ受ケタル者ノ外狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條 獵區内ト雖モ免狀ヲ有スル者ニ非サレハ狩獵ヲ爲スコトヲ得ス

第二十一條 獵區ヲ廢シ又ハ其區域ヲ減縮スルトキハ地方廳ヲ經由シテ農商務省ニ届ツヘシ

第二十二條 農商務大臣ハ免許本人此規則ニ違背シタルトキ若クハ第二十六條第二項ノ制限ニ從ハサルトキ又ハ公益ニ害アリト認ムルトキハ其獵區ノ全部若クハ一部ニ對シテ免許ヲ取消スコトヲ得

第二十三條 第二十一條及第二十二條ノ場合ニ於テ既納ノ免許料ハ還付セサルモノトス

第四章 鳥類保護

第二十四條 左ニ掲クル鳥類ハ捕獲スルコトヲ禁ス

- 一 鶴各種
- 一 四十雀
- 一 鷓鴣
- 一 椋鳥
- 一 燕各種
- 一 日雀
- 一 杜鵑
- 一 田鷄
- 一 雲雀
- 一 五十雀
- 一 啄木鳥
- 一 一歳以下ノ鹿
- 一 鶺鴒
- 一 鶉

●登録税法

(明治二十九年三月二十七日)

法律第二十七號

第一條 登録税ハ本法ノ定ムル所ニヨリ賦課徴收ス

第二條 地所、建物ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 買受人 賣買代價千分ノ二十二

二 家督相續人 戸主ノ死亡、失踪、跡相續人共 時價相當價格千分ノ五

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタル時ハ時價相當價格千分ノ十トス

三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ十

四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ二十

五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五

六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五

七 強制管理ノ申立人又ハ假差押假處分ノ申請人 價格千分ノ三

八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金拾錢

九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ二

六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニヨル

第三條 船舶ノ登記ヲ請フトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 買受人 賣買代價千分ノ十

二 家督相續人 戸主ノ死亡、失踪、跡相續人共 時價相當價格千分ノ二

但シ相續ノ日ヨリ六十日ヲ經過シタルトキハ 時價相當價格千分ノ五トス

三 遺産相續人 時價相當價格千分ノ五

四 贈與又ハ遺贈ヲ受クル者 時價相當價格千分ノ十

五 質入人又ハ書入人 契約金額千分ノ五

六 強制競賣ノ申立人 價格千分ノ五

六 假差押、假處分ノ申請人 價格千分ノ三

八 登記事件ノ取消又ハ變更ヲ請フ者 每一件金十錢

九 從來保有セル所有權ヲ明確ニスル爲登記ヲ請フ者 時價相當價格千分ノ一

六號及七號ノ場合ニ於テ價格定マラサルモノハ時價相當價格ニヨル

第四條 船舶ノ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ

一 新規登録 十五噸未満ノ船舶 金五十錢

二 轉籍 十五噸以上ノ船舶 金十錢

三 除籍 十五噸未満ノ船舶 金十錢

十五噸以上ノ船舶 金五錢

四 登簿事項ノ變更 每一件金十錢
 一號、二號及三號ノ場合ニ於テ十五噸以上ノ船舶ヲ登録スルトキ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス

第五條 土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登録スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 地價千分ノ二十
 - 二 地價ノ設定 復舊 地價千分ノ十
 - 三 地價ノ修正 共 地價千分ノ十
 - 四 開墾 地價千分ノ十
 - 五 歛下年期付與 地價千分ノ十
 - 六 地價据置年期付與 地價千分ノ十
 - 七 歛下年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
 - 八 新開免租年期ノ繼年期付與 地價千分ノ十
 - 九 低價年期ノ付與 地價千分ノ十
 - 十 段別ノ増減 地價千分ノ五
 - 十一 分裂又ハ合併 地價千分ノ五
- 本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條 左ノ事項ニ付キ登記ヲ受クル商事會社ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 合名會社、合資會社設立 資本金額千分ノ二
- 二 合名會社、合資會社資本増加 増加資本金額千分ノ二
- 三 合名會社、合資會社支店設置 會社資本金額萬分ノ二
- 四 株式會社設立 設立初度拂込資本金額千分ノ三
- 五 株式會社設立後ノ資本金拂込 每拂込金額千分ノ三
- 六 株式會社支店設置 現在拂込資本金額萬分ノ三
- 七 登記事項ノ變更 資本ノ増加及拂込登記ヲ除ク 每一件金三圓
- 八 解散 每一件金一圓

第七條 左ノ事項ニ付キ辨護士名簿ニ登録ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

- 一 新規登録 金二十圓
- 二 登録換 金十圓
- 三 取消ノ請求 金一圓

第八條 左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ

一 新規登録

醫師	金二十圓
藥劑師	金十二圓
獸醫	金十二圓
蹄鐵工	金五圓
假開業醫師	金五圓
假免許獸醫	金三圓
二 登錄事項ノ變更	每一件金五十錢
第九條 左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ	
一 新規登錄	
甲種船長	金十五圓
甲種二等運轉手	金十圓
甲種二等運轉手	金六圓
甲種一等機關手	金十五圓
甲種二等機關手	金十圓
乙種船長	金十圓
乙種一等運轉手	金六圓
乙種二等運轉手	金四圓

乙種一等機關師	金十圓
乙種二等機關手	金六圓
小形船機關手	金四圓
水先人	金二十圓
二 登錄事項ノ變更	每一件金五十錢
第十條 版權ノ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ	
一 普通ノ文書、圖畫	一種毎ニ金五圓
二 冊號ヲ追ヒ順次出版スル文書、圖畫	一冊毎ニ金二圓五十錢
三 雜誌ノ類	一冊毎ニ金五十錢
四 興行權ヲ併有スル脚本	一種毎ニ金五十圓
五 興行權ヲ併有スル樂譜	一種毎ニ金二十圓
六 寫真	一版毎ニ金五圓
第十一條 特許ニ關シ登錄ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ	
一 新規登錄	金二十圓
五年ノ特許	金三十圓
十年ノ特許	金四十圓
十五年ノ特許	金四十圓

- 二 賣與、讓與又ハ共有 每一件金十圓
- 二 書入契約 每一件金五圓
- 第十二條 意匠ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規登録
 - 三年ノ專用 物品一類毎ニ金三圓
 - 五年ノ專用 物品一類毎ニ金五圓
 - 七年ノ專用 物品一類毎ニ金七圓
 - 十年ノ專用 物品一類毎ニ金拾圓
 - 二 賣與、讓與又、共有 物品一類毎ニ金貳圓
 - 三 書入契約 物品一類毎ニ金一圓
- 第十三條 商標ニ關シ登録ヲ受クル者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 新規並續用登録 商品一類毎ニ金二十圓
 - 二 賣與讓與又ハ共有 商品一類毎ニ金拾圓
- 第十四條 鑛業ニ關シ左ノ事項ヲ官簿ニ登録スルトキハ記名者ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 試掘 金五十圓
 - 二 探掘 金百圓

- 三 試掘増區及増減區ニ係ル訂正 金二十五圓
- 四 探掘増區及減區ニ係ル訂正 金五十圓
- 五 買受、讓受 金五十圓
- 六 探掘權書入又ハ試掘延期 金十五圓
- 七 減區ニ係ル訂正 金五圓
- 八 鑛區ノ合併又ハ分割 金十圓
- 九 廢業 金五圓
- 第十五條 左ノ事項ニ付戶籍ニ登記スルトキハ届出人ハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ
 - 一 左ニ列記スルモノ 金一圓
 - 身分變換
 - 復姓
 - 家督相續
 - 廢戶主
 - 分家
 - 絕家再興
 - 相續人送籍
 - 改名
 - 相續人入籍
 - 廢嫡
 - 廢嫡者復立
 - 離婚送籍
 - 私生子引受